

## 第 9 章 環境保全措置

## 第9章 環境保全措置

### 9.1 環境保全措置の検討

対象事業に係る環境影響評価の実施に当たり、環境影響がないと判断される場合及び環境影響の程度が極めて小さいと判断される場合以外の場合、並びに対象事業の実施による影響を回避又は低減するため、事業者が実行可能な環境保全措置を検討した。

環境保全措置の検討は、影響の予測結果をふまえつつ、事業者ができる限り環境影響を回避又は低減されているか、そして、当該環境影響に係る環境要素に関して国又は関係する地方公共団体が実施する環境の保全に関する施策によって示されている基準又は目標との整合が図られているかの評価を通じて行った。

9.2 環境保全措置の検討結果

環境保全措置の検討結果を表 9-1～表 9-11 に示す。

(1) 大気質

表 9-1(1) 大気質に係る環境保全措置の検討結果

環境影響要因	措置の種類	措置の区分	実施主体	保全措置の内容及び効果	効果の不確実性	新たに生じる影響
建設機械の稼働 (粉じん等)	散水の実施	低減	出雲市	強風時や乾燥時等の砂じんの発生しやすい気象条件においては、必要に応じ、適時散水することで粉じん等の発生を抑制できる。	なし	なし
	建設機械の集中稼働の回避	低減	出雲市	可能な限り建設機械の稼働が集中することがないように、使用時期や配置の分散に努めることで、粉じん等の発生を抑制できる。	なし	なし
	防音シート等の設置	低減	出雲市	可能な限り防音シートや仮囲いを設置することで、粉じんの飛散を抑制できる。	なし	なし
資材等運搬車両の運行 (大気質)	運搬車両台数の低減	低減	出雲市	土地の改変に伴う発生土砂は、極力、都市計画対象事業実施区域内で再利用するとともに、近傍の他事業において有効利用し、周辺道路を走行する工事用車両の台数を減らすことで、沿道大気質への影響を低減できる。	なし	なし
	車両の維持管理	低減	出雲市	車両の維持管理を徹底し、車両排ガス等を適正に保つことで、沿道大気質への影響を低減できる。	なし	なし
	運行時間の分散	低減	出雲市	沿道の通行時間帯の分散に努めることで、沿道大気質への影響を低減できる。	なし	なし
	運転手の教育・指導	低減	出雲市	積載量や走行速度等の交通法規を遵守し、アイドリングストップの励行や空ぶかしを行わない等、運転手の教育・指導を徹底することで、沿道大気質への影響を低減できる。	なし	なし

表 9-1(2) 大気質に係る環境保全措置の検討結果

環境影響要因	措置の種類	措置の区分	実施主体	保全措置の内容及び効果	効果の不確実性	新たに生じる影響
資材等運搬車両の運行 (粉じん等)(工事の実施)	運搬車両台数の低減	低減	出雲市	土地の改変に伴う発生土砂は、極力、都市計画対象事業実施区域内で再利用するとともに、近傍の他事業において有効利用し、周辺道路を走行する工事用車両の台数を減らすことで、粉じんの発生を抑制できる。	なし	なし
	車両の洗浄	低減	出雲市	資材等運搬車両の洗浄を励行し、敷地内外の路面への土砂の堆積を防ぐことで、粉じん等の飛散を抑制できる。	なし	なし
施設の稼働(排ガス) (大気質)(存在・供用)	排ガス処理設備	低減	出雲市	最新の排ガス処理設備を採用し、排ガス中に含まれる大気汚染物質の排出抑制を行うことにより、煙突から排出される大気汚染物質による大気質への影響を低減できる。	なし	なし
	運転管理の徹底	低減	出雲市	焼却炉の適切な燃焼管理を行うとともに、適切な監視を行うことにより、煙突から排出される大気汚染物質による大気質への影響を低減できる。	なし	なし
	排ガス濃度等の情報公開	低減	出雲市	排ガス濃度等の計測により適正な施設稼働を確認するとともに、情報公開に努め、一般市民がごみ焼却施設の運転状況を確認できるようにすることで、大気質への不信感の抑制と市民の安心感が得られる。	なし	なし
廃棄物の搬入等 (大気質)(存在・供用)	運転手の教育・指導	低減	出雲市	積載量や走行速度等の交通法規を遵守し、アイドリングストップの励行や空ぶかしを行わない等、運転手の教育・指導を徹底することで、沿道大気質への影響を低減できる。	なし	なし
	車両の維持管理	低減	出雲市	車両の維持管理を徹底し、車両排ガス等を適正に保つことで、沿道大気質への影響を低減できる。	なし	なし

## (2) 騒音

表 9-2(1) 騒音に係る環境保全措置の検討結果

環境影響要因	措置の種類	措置の区分	実施主体	保全措置の内容及び効果	効果の不確実性	新たに生じる影響
建設機械の稼働 (工事の実施)	低騒音型建設機械の採用	低減	出雲市	できる限り低騒音型の建設機械を採用するよう努めることで、発生する建設作業騒音を低減できる。	なし	なし
	作業時間の配慮	低減	出雲市	建設機械の稼働を昼間に行うことで、夜間の建設作業騒音の発生を回避できる。	なし	なし
	建設機械の稼働分散	低減	出雲市	建設機械の稼働が可能な限り集中することがないよう、使用時期や配置の分散に努めることで、建設作業騒音の発生を低減できる。	なし	なし
	作業方法の配慮	低減	出雲市	建設機械の不要な空ぶかしの防止に努め、待機時のアイドリングストップの遵守を指導・徹底させることで、建設作業騒音の発生を低減できる。	なし	なし
	防音シート等の設置	低減	出雲市	可能な限り防音シートや仮囲いを設置することで、建設作業騒音の発生を低減できる。	なし	なし
資材等運搬車両の運行 (工事の実施)	運搬車両台数の低減	低減	出雲市	土地の改変に伴う発生土砂は、極力、都市計画対象事業実施区域内で再利用するとともに、近傍の他事業において有効利用し、周辺道路を走行する工事用車両の台数を減らすことで、沿道騒音への影響を低減できる。	なし	なし
	車両の維持管理	低減	出雲市	車両の維持管理を徹底することで、沿道騒音への影響を低減できる。	なし	なし
	運行時間の分散	低減	出雲市	沿道の通行時間帯の分散に努めることで、沿道騒音への影響を低減できる。	なし	なし
	運転手の教育・指導	低減	出雲市	積載量や走行速度等の交通法規を遵守し、アイドリングストップの励行や空ぶかしを行わない等、運転手の教育・指導を徹底することで、沿道騒音への影響を低減できる。	なし	なし

表 9-2(2) 騒音に係る環境保全措置の検討結果

環境影響要因	措置の種類	措置の区分	実施主体	保全措置の内容及び効果	効果の不確実性	新たに生じる影響
施設の稼働 (存在・供用) (機械等の稼働)	騒音発生機器の配慮	低減	出雲市	できる限り低騒音型の設備機器を採用することで、発生する騒音を低減できる。また、大きな騒音を発生する機器は防音構造の室内に収納し、必要に応じて消音器の設置や防音扉の設置等の対策を行うことで、外部への騒音の伝搬を抑制できる。	なし	なし
廃棄物の搬入等 (存在・供用)	運転手の教育・指導	低減	出雲市	走行速度等の交通法規を遵守し、アイドリングストップの励行や空ぶかしを行わない等、運転手の教育・指導を徹底することで、沿道騒音への影響を低減できる。	なし	なし
	車両の維持管理	低減	出雲市	車両の維持管理を徹底することで、沿道騒音への影響を低減できる。	なし	なし

## (3) 振動

表 9-3(1) 振動に係る環境保全措置の検討結果

環境影響要因	措置の種類	措置の区分	実施主体	保全措置の内容及び効果	効果の不確実性	新たに生じる影響
建設機械の稼働 (工事の実施)	低振動型建設機械の採用	低減	出雲市	できる限り低振動型の建設機械を採用するよう努めることで、発生する建設作業振動を低減できる。	なし	なし
	作業時間の配慮	回避	出雲市	建設機械の稼働を昼間に行うことで、夜間の建設作業振動の発生を回避できる。	なし	なし
	建設機械の稼働分散	低減	出雲市	建設機械の稼働が可能な限り集中することがないよう、使用時期や配置の分散に努めることで、建設作業振動の発生を低減できる。	なし	なし
	作業方法の配慮	低減	出雲市	建設機械の不要な空ぶかしの防止に努め、待機時のアイドリングストップの遵守を指導・徹底させることで、建設作業振動の発生を低減できる。	なし	なし
資材等運搬車両の運行 (工事の実施)	運搬車両台数の低減	低減	出雲市	土地の改変に伴う発生土砂は、極力、都市計画対象事業実施区域内で再利用するとともに、近傍の他事業において有効利用し、周辺道路を走行する工事用車両の台数を減らすことで、沿道振動への影響を低減できる。	なし	なし
	車両の維持管理	低減	出雲市	車両の維持管理を徹底することで、沿道振動への影響を低減できる。	なし	なし
	運行時間の分散	低減	出雲市	沿道の通行時間帯の分散に努めることで、沿道振動への影響を低減できる。	なし	なし
	運転手の教育・指導	低減	出雲市	積載量や走行速度等の交通法規を遵守し、アイドリングストップの励行や空ぶかしを行わない等、運転手の教育・指導を徹底することで、沿道振動への影響を低減できる。	なし	なし

表 9-3(2) 振動に係る環境保全措置の検討結果

環境影響要因	措置の種類	措置の区分	実施主体	保全措置の内容及び効果	効果の不確実性	新たに生じる影響
施設の稼働 (存在・供用) (機械等の稼働)	振動発生機器の配慮	低減	出雲市	できる限り低振動型の設備機器を採用し、また、大きな振動源となる機器は強固な基礎や独立基礎上に設置することで、発生する振動を低減できる。	なし	なし
廃棄物の搬入等 (存在・供用)	運転手の教育・指導	低減	出雲市	走行速度等の交通法規を遵守し、アイドリングストップの励行や空ぶかしを行わない等、運転手の教育・指導を徹底することで、沿道振動への影響を低減できる。	なし	なし

(4) 悪臭

表 9-4 悪臭に係る環境保全措置の検討結果

環境影響要因	措置の種類	措置の区分	実施主体	保全措置の内容及び効果	効果の不確実性	新たに生じる影響
施設の稼働 (存在・供用) (排ガス)	脱臭設備	低減	出雲市	施設稼働時には、ごみピットの空気を燃焼用空気として引き込み、焼却炉内で臭気の高温分解を行い、施設休止時には脱臭装置による脱臭を行うことで、悪臭の影響を低減できる。	なし	なし
施設の稼働 (存在・供用) (機械等の稼働)	悪臭の漏洩防止	低減	出雲市	プラットホーム、ごみピット、灰ピット室の屋根・壁は気密性を確保するとともに、ごみピット内は負圧に保ち、臭気の漏れ出しを防ぎ、プラットホーム出入口にはエアカーテンを設置することで、悪臭の影響を低減できる。	なし	なし

(5) 水質

表 9-5 水質に係る環境保全措置の検討結果

環境影響要因	措置の種類	措置の区分	実施主体	保全措置の内容及び効果	効果の不確実性	新たに生じる影響
雨水の排水 (工事の実施)	仮設沈砂池の設置	低減	出雲市	敷地内の雨水を仮設沈砂池に集めて沈砂後に下流河川へ放流することにより、下流河川への濁水低減効果が見込まれる。	なし	なし
	仮設沈砂池の浚渫	低減	出雲市	仮設沈砂池における濁水の沈降機能が維持されるよう、定期的な土砂の抜き取りなど適切な対応に努めることにより、下流の河川等への濁水の影響を低減できる。	なし	なし
	速やかな転圧等	低減	出雲市	造成の終わった法面等は、速やかな転圧、若しくは養生シートで覆うなどすることで、濁水の発生を低減できる。	なし	なし
	降雨時の工事回避	低減	出雲市	強雨時には土地の改変に係る工事を中止することで、濁水の発生を低減できる。	なし	なし
	仮設沈砂池内の蛇行構造	低減	出雲市	仮設沈砂池内に壁を配置し、入口から出口の水の流れを蛇行させることにより、仮設沈砂池内の水の滞留時間を稼ぎ、仮設沈砂池での懸濁物質の除去効果を高める。	なし	なし
	砂防堰堤及び既存沈砂池の適宜浚渫 <sup>注)</sup>	低減	出雲市	沈砂池の役割を果たす下流の砂防堰堤及び既存沈砂池の土砂貯留容量を考慮し、適宜浚渫することで、下流河川への濁水低減効果が見込まれる。	なし	なし

注) 実施対象とする砂防堰堤は図 8.5 1 に示す位置を、既存沈砂池は図 8.5 6 に示す位置を想定している。

## (6) 動物

表 9-6(1) 動物に係る環境保全措置の検討結果

環境影響要因	措置の種類	措置の区分	実施主体	保全措置の内容及び効果	効果の不確実性	新たに生じる影響
(敷地の存在) (工事の実施) (土地の改変及び) (建設機械の稼働・雨水の排水、 照明の設置)	資材等運搬車両走行時の配慮	低減	出雲市	安全運転の励行及び車両管理を徹底することで、動物への影響を低減できる。	なし	なし
	建設機械・工法の選定	低減	出雲市	できる限り低騒音型の建設機械・工法を採用するよう努めることで、動物への影響を低減できる。	なし	なし
	仮設沈砂池の設置	低減	出雲市	敷地内の雨水を仮設沈砂池に集めて沈砂後に下流河川へ放流することにより、下流河川への濁水低減効果が見込まれる。	なし	なし
	仮設沈砂池の浚渫	低減	出雲市	仮設沈砂池における濁水の沈降機能が維持されるよう、定期的な土砂の抜き取りなど適切な対応に努めることにより、下流の河川等への濁水の影響を低減できる。	なし	なし
	仮設排水経路及び仮設沈砂池位置の検討	低減	出雲市	敷地造成工事における仮設排水経路及び仮設沈砂池の位置を検討し、敷地に隣接する 2 か所の注目すべき生息地(止水域、止水域)への濁水の流入を防ぎ、生息する重要な動物を保全する。	なし	なし
	排水のクローズド・リサイクル	低減	出雲市	ごみピット汚水、プラント排水及び生活排水は、排水処理後に再循環利用等を行い、周辺河川等へは放流しないことにより、河川の水質を保全できる。	なし	なし

表 9-6(2) 動物に係る環境保全措置の検討結果

環境影響要因	措置の種類	措置の区分	実施主体	保全措置の内容及び効果	効果の不確実性	新たに生じる影響
(敷地の存在) (工事の実施) (建設機械の稼働・雨水の排水、土地の改変及び(施設の稼働) 照明の設置)	植栽の実施	低減	出雲市	敷地内においても可能な限り植栽を施すことで、動物の生息環境を創出することができる。	なし	なし
	敷地造成範囲の見直し	回避	出雲市	敷地造成範囲を見直すことで、改変により消失するおそれのある注目すべき生息地(止水域)を保存し、生息する重要な動物を保全する。	保全対象の生息地の保全対象種の生息維持に不確実性がある。	なし
	施設内の排水経路の配慮	低減	出雲市	施設内の排水経路に配慮することで、注目すべき生息地(止水域)への集水域面積を維持し環境の安定化を図り、生息する重要な動物を保全する。	保全対象の注目すべき生息地の水量維持に不確実性がある。	なし
	代償環境の整備 <small>注)</small>	代償	出雲市	既存の注目すべき生息地(止水域及び止水域)を改良したビオトープを造成することで、保全対象の注目すべき生息地(止水域)環境維持の不確実性を補う。	造成したビオトープへの対象種の進入に不確実性がある。	なし
	代償環境への水源導入 <small>注)</small>	代償	出雲市	保全対象の注目すべき生息地(止水域)への水源(地下浸透水)を整備するビオトープ(止水域)に導入することで、環境維持の不確実性を補う。	導水したビオトープへの対象種の進入に不確実性がある。	なし
	照明器具への配慮	低減	出雲市	施設入口に設置する照明施設には、周辺への光の漏洩を極力抑える構造とし、光源の波長は昆虫類への影響が小さいものを採用することで、昆虫類への影響を低減できる。	なし	なし

注) 代償環境の整備・代償環境への水源導入：本措置は、別途実施されるアクセス道路整備事業において実施する環境保全措置である。ただし、本事業による影響に関してもその影響低減効果が期待できることから、本事業に係る環境保全措置としても位置付けたものである。

表 9-6(3) 動物に係る環境保全措置の検討結果

環境影響要因	措置の種類	措置の区分	実施主体	保全措置の内容及び効果	効果の不確実性	新たに生じる影響
(敷地の存在) (工事の実施) 建設機械の稼働・雨水の排水、 土地の改変及び(施設の稼働) 照明の設置	仮設沈砂池内の蛇行構造	低減	出雲市	仮設沈砂池内に壁を配置し、入口から出口の水の流れを蛇行させることにより、仮設沈砂池内の水の滞留時間を稼ぎ、仮設沈砂池での懸濁物質の除去効果を高める。	なし	なし
	砂防堰堤及び既存沈砂池の適宜浚渫 <sup>注)</sup>	低減	出雲市	沈砂池の役割を果たす下流の砂防堰堤及び既存沈砂池の土砂貯留容量を考慮し、適宜浚渫することで、下流河川への濁水低減効果が見込まれる。	なし	なし

注) 実施対象とする砂防堰堤は図 8.5 1 に示す位置を、既存沈砂池は図 8.5 6 に示す位置を想定している。

## (7) 植物

表 9-7 植物に係る環境保全措置の検討結果

環境影響要因	措置の種類	措置の区分	実施主体	保全措置の内容及び効果	効果の不確実性	新たに生じる影響
(敷地の存在) 土地の改変	植栽の実施	低減	出雲市	敷地内においても可能な限り植栽を施すことで、植物の生育環境を創出することができる。	なし	なし
	仮設沈砂池の設置	低減	出雲市	敷地内の雨水を仮設沈砂池に集めて沈砂後に下流河川へ放流することにより、下流河川への濁水低減効果が見込まれる。	なし	なし
	仮設沈砂池の浚渫	低減	出雲市	仮設沈砂池における濁水の沈降機能が維持されるよう、定期的な土砂の抜き取りなど適切な対応に努めることにより、下流の河川等への濁水の影響を低減できる。	なし	なし
	排水のクローズド・リサイクル	低減	出雲市	ごみピット汚水、プラント排水及び生活排水は、排水処理後に再循環利用等を行い、周辺河川等へは放流しないことにより、河川の水質を保全できる。	なし	なし

## (8) 生態系

表 9-8(1) 生態系に係る環境保全措置の検討結果

環境影響要因	措置の種類	措置の区分	実施主体	保全措置の内容及び効果	効果の不確実性	新たに生じる影響
(敷地の存在) (工事の実施) (建設機械の稼働・雨水の排水、土地の改変及び(施設の稼働) 照明の設置)	資材等運搬車両走行時の配慮	低減	出雲市	安全運転の励行及び車両管理を徹底することで、動物への影響を低減できる。	なし	なし
	建設機械・工法の選定	低減	出雲市	できる限り低騒音型の建設機械・工法を採用するよう努めることで、動物への影響を低減できる。	なし	なし
	仮設沈砂池の設置	低減	出雲市	敷地内の雨水を仮設沈砂池に集めて沈砂後に下流河川へ放流することにより、下流河川への濁水低減効果が見込まれる。	なし	なし
	仮設沈砂池の浚渫	低減	出雲市	仮設沈砂池における濁水の沈降機能が維持されるよう、定期的な土砂の抜き取りなど適切な対応に努めることにより、下流の河川等への濁水の影響を低減できる。	なし	なし
	仮設排水経路及び仮設沈砂池位置の検討	低減	出雲市	敷地造成工事における仮設排水経路及び仮設沈砂池の位置を検討し、敷地に隣接する2か所の注目すべき生息地(止水域、止水域)への濁水の流入を防ぎ、生息する重要な動物種を保全する。	なし	なし
	排水のクローズド・リサイクル	低減	出雲市	ごみピット汚水、プラント排水及び生活排水は、排水処理後に再循環利用等を行い、周辺河川等へは放流しないことにより、河川の水質を保全できる。	なし	なし

表 9-8(2) 生態系に係る環境保全措置の検討結果

環境影響要因	措置の種類	措置の区分	実施主体	保全措置の内容及び効果	効果の不確実性	新たに生じる影響
(敷地の存在) (工事の実施) (建設機械の稼働・雨水の排水、土地の改変及び(施設の稼働) 照明の設置)	植栽の実施	低減	出雲市	敷地内においても可能な限り植栽を施すことで、動物・植物の生息・生育環境を創出することができる。	なし	なし
	敷地造成範囲の見直し	回避	出雲市	敷地造成範囲を見直すことで、改変により消失するおそれのある注目すべき生息地(止水域)を保存し、生息する重要な動物種を保全する。	保全対象の生息地の保全対象種の生息維持に不確実性がある。	なし
	施設内の排水経路の配慮	低減	出雲市	施設内の排水経路に配慮することで、注目すべき生息地(止水域)への集水域面積を維持し環境の安定化を図り、生息する重要な動物種を保全する。	保全対象の注目すべき生息地の水量維持に不確実性がある。	なし
	代償環境の整備 <sup>注1)</sup>	代償	出雲市	既存の注目すべき生息地(止水域及び止水域)を改良したピオトープを造成することで、保全対象の注目すべき生息地(止水域)環境維持の不確実性を補う。	造成したピオトープへの対象種の進入に不確実性がある。	なし
	代償環境への水源導入 <sup>注1)</sup>	代償	出雲市	保全対象の注目すべき生息地(止水域)への水源(地下浸透水)を整備するピオトープ(止水域)に導入することで、環境維持の不確実性を補う。	導水したピオトープへの対象種の進入に不確実性がある。	なし
	照明器具への配慮	低減	出雲市	施設入口に設置する照明施設には、周辺への光の漏洩を極力抑える構造とし、光源の波長は昆虫類への影響が小さいものを採用することで、昆虫類への影響を低減できる。	なし	なし
	仮設沈砂池内の蛇行構造	低減	出雲市	仮設沈砂池内に壁を配置し、入口から出口の水の流れを蛇行させることにより、仮設沈砂池内の水の滞留時間を稼ぎ、仮設沈砂池での懸濁物質の除去効果を高める。	なし	なし
	砂防堰堤及び既存沈砂池の適宜浚渫 <sup>注2)</sup>	低減	出雲市	沈砂池の役割を果たす下流の砂防堰堤及び既存沈砂池の土砂貯留容量を考慮し、適宜浚渫することで、下流河川への濁水低減効果が見込まれる。	なし	なし

注1) 代償環境の整備・代償環境への水源導入：本措置は、別途実施されるアクセス道路整備事業において実施する環境保全措置である。ただし、本事業による影響についてもその影響低減効果が期待できることから、本事業に係る環境保全措置としても位置付けたものである。

注2) 実施対象とする砂防堰堤は「第8章 8.5 水質」の図 8.5 1 に示す位置を、既存沈砂池は図 8.5 6 に示す位置を想定している。

## (9) 景観

表 9-9 景観に係る環境保全措置の検討結果

環境影響要因	措置の種類	措置の区分	実施主体	保全措置の内容及び効果	効果の不確実性	新たに生じる影響
(土地の改変) (存在・供用) 敷地の存在及び 構造物の存在	構造物の意匠の検討	低減	出雲市	建屋・煙突の形状及び配色に配慮することで、周辺景観との違和感を低減できる。	なし	なし
	植栽の実施	低減	出雲市	敷地内においても可能な限り植栽を施すことで、周辺景観との調和を図ることができる。	なし	なし
	出雲市景観計画との整合	低減	出雲市	「構造物の意匠の検討」及び「植栽の実施」の実施においては、出雲市景観計画との整合を図ることで、地域景観の統一性を図ることができる。	なし	なし

(10) 廃棄物等

表 9-10 廃棄物等に係る環境保全措置の検討結果

環境影響要因	措置の種類	措置の区分	実施主体	保全措置の内容及び効果	効果の不確実性	新たに生じる影響
建設機械の稼働 (工事の実施)	発生土の再利用	低減	出雲市	建設発生土の一部は盛土として場内で再利用するとともに、発生する残土は全て隣接する既存の採石場の採掘跡地の窪地の埋め戻し土として有効利用を図ることで、残土の発生を低減できる。	なし	なし
	再資源化の促進	低減	出雲市	工事で発生する建設廃棄物は、再利用しやすい材料の使用や分別を徹底し、再資源化の促進に努めることで、廃棄物等の影響を低減できる。	なし	なし
施設の使用 (存在・供用)	分別・減量化の推進	低減	出雲市	出雲市において、分別回収の徹底及びごみの減量化の取り組みを推進することで、ごみ焼却残渣の最終処分量を削減することができる。	なし	なし

(11) 温室効果ガス等

表 9-11 温室効果ガス等に係る環境保全措置の検討結果

環境影響要因	措置の種類	措置の区分	実施主体	保全措置の内容及び効果	効果の不確実性	新たに生じる影響
施設の稼働（排ガス・機械等の稼働） （存在・供用） ・廃棄物の搬入等	エネルギー回収	低減	出雲市	焼却等の処理により発生した廃熱を利用して施設内で発電・利用するほか、余剰電力については売電等を行い、エネルギーを回収・循環利用することで、火力発電等による新たな二酸化炭素の排出を抑制できる。	なし	なし
	運転手の教育・指導	低減	出雲市	廃棄物運搬車両の運行等に当たっては、走行速度等の交通法規を遵守し、アイドリングストップの励行や空ぶかしを行わない等、運転手の教育・指導を徹底することで、自動車走行による二酸化炭素の排出を抑制できる。	なし	なし
	分別・減量化の推進	低減	出雲市	出雲市において、分別回収の徹底及びごみの減量化の取り組みを推進することで、ごみの焼却量を削減することができる。	なし	なし

## 第 10 章 事後調査の計画

## 第10章 事後調査の計画

環境影響評価に係る選定項目としたもののうち、以下のいずれかに該当すると認められる場合において、環境影響の程度が著しいものとなるおそれがあるときは、対象事業に係る工事の実施中及び土地又は工作物の供用開始後において環境の状況を把握するための調査（以下「事後調査」という。）を行う。

予測の不確実性の程度が大きい選定項目について環境保全措置を講ずる場合

効果に係る知見が不十分な環境保全措置を講ずる場合

工事の実施中及び土地又は工作物の供用開始後において環境保全措置の内容をより詳細なものにする必要があると認められる場合

代償措置について、効果の不確実性の程度及び知見の充実の程度を勘案して事後調査が必要であると認められる場合

事後調査の検討結果を次に示す。

## 10.1 事後調査

### 10.1.1 事後調査を行うこととした理由

前記の事後調査を実施すべき要件のうち、「効果に係る知見が不十分な環境保全措置を講ずる場合」に該当すると考えられる環境保全措置を実施することから、当該環境保全措置の効果等の確認に係る事後調査を実施する。

### 10.1.2 事後調査の項目及び手法

#### 1) 事後調査を実施する項目

「第8章 環境影響評価の結果」に示す予測・評価の結果及び上記の方針に基づき選定した事後調査の項目は、表 10.1-1 に示すとおりである。

表 10.1-1 事後調査の項目（動物・生態系）

環境要素	時期	調査項目
動物 ・ 生態系	工事中 ・ 供用後	既存生息地及びピオトープ <sup>注)</sup> における注目種の生息状況調査 (カスミサンショウウオ・モリアオガエル等の両生類、タガメ・ゲンゴロウ等の水生昆虫類等を主対象とする)

注)「代償環境の整備」、「代償環境への水源導入」の環境保全措置(「第9章 環境保全措置」参照)は、別途実施されるアクセス道路整備事業において実施する環境保全措置である。ただし、本事業による影響に関してもその影響低減効果が期待できることから、本事業に係る事後調査においても、整備するピオトープを対象とした調査を行う。

#### (2) 事後調査の手法

事後調査の手法は、表 10.1-2 に示すとおりである。

表 10.1-2 事後調査内容（動物・生態系）

調査項目	既存生息地及びピオトープ <sup>注)</sup> における注目種の生息状況調査 (カスミサンショウウオ・モリアオガエル等の両生類、タガメ・ゲンゴロウ等の水生昆虫類等を主対象とする)
調査方法	整備したピオトープに及び既存生息地において、重要種の定着状況、水深の状況、水生植物の生育状況、水質(pH等)、底質(粒度、堆積物等)を記録する。
調査地点	都市計画対象事業実施区域及びその周辺 (整備したピオトープに及び既存生息地の位置)
調査時期	3月：カスミサンショウウオの産卵時期 6月：モリアオガエルの産卵時期 7月：タガメの繁殖時期
調査期間	ピオトープ整備後(平成31年度)から都市計画対象事業完成(平成33年度)までの期間、及び供用後の1年間(平成34年度)
実施主体	出雲市

注)「代償環境の整備」、「代償環境への水源導入」の環境保全措置(「第9章 環境保全措置」参照)は、別途実施されるアクセス道路整備事業において実施する環境保全措置である。ただし、本事業による影響に関してもその影響低減効果が期待できることから、本事業に係る事後調査においても、整備するピオトープを対象とした調査を行う。

10.1.3 事後調査の結果により環境影響の程度が著しいことが明らかとなった場合の対応の方針  
事後調査の結果は、環境影響評価の予測及び評価の結果と比較検討するとともに、環境への影響が大きい場合には、必要な環境保全措置を講じるものとする。

なお、万一、都市計画対象事業実施区域周辺における環境の状況の変化が明らかになった場合には、その原因を究明したうえで、必要に応じ、環境保全措置の強化や追加を行う。

10.1.4 事後調査の結果の公表の方法

事後調査の結果を整理し、事後調査報告書を作成する。

また、事後調査報告書の公表等は、島根県環境影響評価条例(平成 11 年 10 月 1 日島根県条例第 34 号)及び島根県環境影響評価条例施行規則(平成 11 年 10 月 1 日島根県規則第 98 号)に基づき実施するものとする。

## 10.2 環境監視調査

前記の「事後調査」に加え、本市による自主的な環境監視調査として、表 10.2-1 に示すモニタリング調査（廃棄物処理法等に基づく維持管理調査を含む）を継続的に実施し、環境の状況の把握に努める。

表 10.2-1 環境監視調査内容（供用時の自主的なモニタリング調査項目）

環境要素	調査項目	調査頻度	調査位置
大気質	煙突排ガス中のばいじん、硫黄酸化物、窒素酸化物、塩化水素、一酸化炭素、二酸化炭素、水銀	6 回/年	都市計画対象事業実施区域（煙突排ガス）
	煙突排ガス中のダイオキシン類	2 回/年	都市計画対象事業実施区域（煙突排ガス）
悪臭	特定悪臭物質、臭気指数	2 回/年	都市計画対象事業実施区域（敷地境界及び煙突排ガス）
騒音	騒音レベル	2 回/年	都市計画対象事業実施区域（敷地境界）
振動	振動レベル	2 回/年	都市計画対象事業実施区域（敷地境界）

## 第 11 章 環境影響の総合的な評価

## 第11章 環境影響の総合的な評価

本事業の実施が環境に及ぼす影響の評価は、以下の2つの観点から行った。

- ① 調査及び予測の結果並びに環境保全措置の検討を行った場合においてはその結果をふまえ、対象事業の実施により当該選定項目に係る環境要素に及ぶおそれがある影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避され、又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているか。
- ② 国又は関係する地方公共団体が実施する環境の保全に関する施策によって、選定項目に係る環境要素に関して基準又は目標が示されている場合には、当該基準又は目標と調査及び予測の結果との間に整合が図られているか。

本事業の実施が環境に及ぼす影響については、既存の知見及び現地調査結果をふまえて予測を行うとともに、環境保全措置の検討を行った結果、環境の保全に係る基準又は目標との整合性は概ね図られ、環境への影響は環境保全措置の実施により事業者の実行可能な範囲内でできる限り回避・低減されることから、環境保全への配慮は適正であると判断した。

なお、工事中及び供用後において、現段階で予測し得なかった著しい環境への影響が生じた場合には、必要に応じて影響の把握のための調査を実施し、適切な措置を講じる。

以下に、調査、予測及び評価の結果の概要について示す。

表 11-1 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																																																																																												
	環境要素の区分	影響要因の区分																																																																																																																																																	
大気質	大気質 (粉じん等)	建設機械の稼働	<p><b>現地調査結果</b></p> <p>・気象                      &lt;地上気象&gt;                      各季節における風速の期間平均は1.5～2.2m/s、日平均値の最高値は2.9～5.6m/s、静穏率は3.1～7.5%、日射量の期間平均は0.08～0.24kW/m<sup>2</sup>、放射収支量の期間平均は0.017～0.109kW/m<sup>2</sup>、気温の期間平均は5.4～24.0℃、湿度の期間平均は63～77%であった。                      風向は、年間を通して西南西の風向が卓越する結果であった。</p> <p>&lt;上層気象&gt;                      風向の鉛直分布は、秋季は昼夜共に高度50m～1000m付近にかけて北東～東南東の風が多くみられ、それより上層では南南西～西南西の風が観測された。                      冬季は夜間の高度50m、150mでは南南西の風が多くみられ、それ以外の高度では西～北北西の風が観測された。昼間は西～北西の風が多く観測された。</p> <p>春季は夜間の高度50m、150mでは南南西の風が多くみられ、それ以外の高度では西～北北西の風が多く観測された。昼間は西～北西の風が多く観測された。</p> <p>夏季は昼間の高度50m～600m付近にかけて北東～東北東の風が多く見られ、それより上層では南東～南南東の風が観測された。夜間は東～南南東の風が多く観測された。</p> <p>・大気質                      &lt;四季調査&gt;                      調査期間中の季節別の期間平均値は、二酸化窒素が0.001～0.002ppm、二酸化硫黄が0.001～0.003ppm、浮遊粒子状物質が0.006～0.022mg/m<sup>3</sup>であり、全ての項目・期間・地点において環境基準値以下であった。                      降下ばいじんは2.54～2.66t/km<sup>2</sup>/月であり、全ての期間において指標値以下であった。                      塩化水素は全て定量下限値未満であり全ての期間・地点において目標環境濃度以下であった。                      ダイオキシン類は0.0058～0.13pg-TEQ/m<sup>3</sup>であり、全ての期間・地点において環境基準値以下であった。                      水銀は全て定量下限値未満であり、全ての期間・地点において指標値以下であった。</p>	<p>粉じん等の寄与分の値は、施工範囲からの距離により急激に減衰し、予測地点である最寄住居付近では最大で0.18t/km<sup>2</sup>/月となった。</p> <p>&lt;建設機械の稼働に伴う粉じん等の予測結果&gt;                      [単位：t/km<sup>2</sup>/月]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年次</th> <th rowspan="2">時期</th> <th colspan="3">予測地点 (st.1最寄住居付近)</th> </tr> <tr> <th>寄与分</th> <th>バックグラウンド<sup>(注)</sup></th> <th>予測結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">平成31年度</td> <td>春季</td> <td>0.03</td> <td>2.54</td> <td>2.57</td> </tr> <tr> <td>夏季</td> <td>0.06</td> <td>2.66</td> <td>2.72</td> </tr> <tr> <td>秋季</td> <td>0.18</td> <td>2.54</td> <td>2.72</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>0.05</td> <td>2.56</td> <td>2.61</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) バックグラウンドは、予測地点における季節別の現況調査結果とした。</p>	年次	時期	予測地点 (st.1最寄住居付近)			寄与分	バックグラウンド <sup>(注)</sup>	予測結果	平成31年度	春季	0.03	2.54	2.57	夏季	0.06	2.66	2.72	秋季	0.18	2.54	2.72	冬季	0.05	2.56	2.61	<p><b>環境保全措置の検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・散水の実施：強風時や乾燥時等の砂じんの発生しやすい気象条件においては、必要に応じ、適時散水する。</li> <li>・建設機械の集中稼働の回避：可能な限り建設機械の稼働が集中することがないように、使用時期や配置の分散にも努める。</li> <li>・防音シート等の設置：可能な限り防音シートや仮囲いを設置する。</li> </ul>	<p><b>回避・低減に係る評価</b></p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、建設機械の稼働に伴う粉じん等の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p> <p><b>基準又は目標との整合に係る評価</b></p> <p>建設機械の稼働に伴う粉じん等の評価結果は下記に示すとおりであり、環境の保全に係る基準又は目標との整合性が図られているものと評価した。</p> <p>&lt;建設機械の稼働に伴う粉じん等の評価結果&gt;                      [単位：t/km<sup>2</sup>/月]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年次</th> <th rowspan="2">時期</th> <th colspan="3">予測地点 (st.1最寄住居付近)</th> <th rowspan="2">環境保全目標値</th> </tr> <tr> <th>寄与分</th> <th>バックグラウンド<sup>(注)</sup></th> <th>予測結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">平成31年度</td> <td>春季</td> <td>0.03</td> <td>2.54</td> <td>2.57</td> <td rowspan="4">20以下</td> </tr> <tr> <td>夏季</td> <td>0.06</td> <td>2.66</td> <td>2.72</td> </tr> <tr> <td>秋季</td> <td>0.18</td> <td>2.54</td> <td>2.72</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>0.05</td> <td>2.56</td> <td>2.61</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) バックグラウンドは、予測地点における季節別の現況調査結果とした。</p>	年次	時期	予測地点 (st.1最寄住居付近)			環境保全目標値	寄与分	バックグラウンド <sup>(注)</sup>	予測結果	平成31年度	春季	0.03	2.54	2.57	20以下	夏季	0.06	2.66	2.72	秋季	0.18	2.54	2.72	冬季	0.05	2.56	2.61	<p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>																																																																																								
		年次	時期	予測地点 (st.1最寄住居付近)																																																																																																																																															
寄与分	バックグラウンド <sup>(注)</sup>			予測結果																																																																																																																																															
平成31年度	春季	0.03	2.54	2.57																																																																																																																																															
	夏季	0.06	2.66	2.72																																																																																																																																															
	秋季	0.18	2.54	2.72																																																																																																																																															
	冬季	0.05	2.56	2.61																																																																																																																																															
年次	時期	予測地点 (st.1最寄住居付近)			環境保全目標値																																																																																																																																														
		寄与分	バックグラウンド <sup>(注)</sup>	予測結果																																																																																																																																															
平成31年度	春季	0.03	2.54	2.57	20以下																																																																																																																																														
	夏季	0.06	2.66	2.72																																																																																																																																															
	秋季	0.18	2.54	2.72																																																																																																																																															
	冬季	0.05	2.56	2.61																																																																																																																																															
大気質 (窒素酸化物、浮遊粒子状物質)	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	<p>資材等運搬車両の運行に係る寄与濃度の年平均値は二酸化窒素が0.0001～0.0002ppm、浮遊粒子状物質が0.000003～0.000006mg/m<sup>3</sup>となった。また、バックグラウンド濃度を含めた予測結果(年平均値)は、二酸化窒素が0.002ppm、浮遊粒子状物質が0.015mg/m<sup>3</sup>となった。</p> <p>&lt;資材等運搬車両の運行に伴う二酸化窒素の予測結果&gt;                      [単位：ppm]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">寄与濃度</th> <th rowspan="2">バックグラウンド濃度</th> <th rowspan="2">予測結果(年平均値)</th> </tr> <tr> <th></th> <th></th> <th>基礎交通量</th> <th>資材等運搬車両</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上新宮</td> <td>古志104号線</td> <td>0.0000</td> <td>0.0001</td> <td rowspan="3">0.002</td> <td>0.002</td> </tr> <tr> <td>下新宮</td> <td>新宮大谷線</td> <td>0.0003</td> <td>0.0001</td> <td>0.002</td> </tr> <tr> <td>古志町地内</td> <td>古志82号線</td> <td>0.0003</td> <td>0.0002</td> <td>0.002</td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt;資材等運搬車両の運行に伴う浮遊粒子状物質の予測結果&gt;                      [単位：mg/m<sup>3</sup>]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">寄与濃度</th> <th rowspan="2">バックグラウンド濃度</th> <th rowspan="2">予測結果(年平均値)</th> </tr> <tr> <th></th> <th></th> <th>基礎交通量</th> <th>資材等運搬車両</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上新宮</td> <td>古志104号線</td> <td>0.000000</td> <td>0.000004</td> <td rowspan="3">0.015</td> <td>0.015</td> </tr> <tr> <td>下新宮</td> <td>新宮大谷線</td> <td>0.000010</td> <td>0.000003</td> <td>0.015</td> </tr> <tr> <td>古志町地内</td> <td>古志82号線</td> <td>0.000010</td> <td>0.000006</td> <td>0.015</td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt;資材等運搬車両の運行に伴う浮遊粒子状物質の評価結果&gt;                      [単位：mg/m<sup>3</sup>]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">寄与濃度</th> <th rowspan="2">バックグラウンド濃度</th> <th rowspan="2">予測結果(年平均値)</th> <th rowspan="2">日平均値の年間98%値</th> <th rowspan="2">環境保全目標値</th> </tr> <tr> <th></th> <th></th> <th>基礎交通量</th> <th>資材等運搬車両</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上新宮</td> <td>古志104号線</td> <td>0.000000</td> <td>0.000004</td> <td rowspan="3">0.015</td> <td>0.015</td> <td rowspan="3">0.039</td> <td rowspan="3">0.10以下</td> </tr> <tr> <td>下新宮</td> <td>新宮大谷線</td> <td>0.000010</td> <td>0.000003</td> <td>0.015</td> </tr> <tr> <td>古志町地内</td> <td>古志82号線</td> <td>0.000010</td> <td>0.000006</td> <td>0.015</td> </tr> </tbody> </table>	予測地点		寄与濃度		バックグラウンド濃度	予測結果(年平均値)			基礎交通量	資材等運搬車両	上新宮	古志104号線	0.0000	0.0001	0.002	0.002	下新宮	新宮大谷線	0.0003	0.0001	0.002	古志町地内	古志82号線	0.0003	0.0002	0.002	予測地点		寄与濃度		バックグラウンド濃度	予測結果(年平均値)			基礎交通量	資材等運搬車両	上新宮	古志104号線	0.000000	0.000004	0.015	0.015	下新宮	新宮大谷線	0.000010	0.000003	0.015	古志町地内	古志82号線	0.000010	0.000006	0.015	予測地点		寄与濃度		バックグラウンド濃度	予測結果(年平均値)	日平均値の年間98%値	環境保全目標値			基礎交通量	資材等運搬車両	上新宮	古志104号線	0.000000	0.000004	0.015	0.015	0.039	0.10以下	下新宮	新宮大谷線	0.000010	0.000003	0.015	古志町地内	古志82号線	0.000010	0.000006	0.015	<p><b>環境保全措置の検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運搬車両台数の低減：土地の改変に伴う発生土砂は、極力、都市計画対象事業実施区域内で再利用するとともに、近傍の他事業において有効利用し、周辺道路を走行する工事用車両の台数を減らす。</li> <li>・車両の維持管理：車両の維持管理を徹底し、車両排ガス等を適正に保つ。</li> <li>・運行時間の分散：沿道の通行時間帯の分散に努める。</li> <li>・運転手の教育・指導：積載量や走行速度等の交通法規を遵守し、アイドリグストップの励行や空ぶかしを行わない等、運転手の教育・指導を徹底する。</li> </ul>	<p><b>回避・低減に係る評価</b></p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、資材等運搬車両の運行に伴う大気質への影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p> <p><b>基準又は目標との整合に係る評価</b></p> <p>資材等運搬車両の運行に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の評価結果は下記に示すとおりであり、環境の保全に係る基準又は目標との整合性が図られているものと評価した。</p> <p>&lt;資材等運搬車両の運行に伴う二酸化窒素の評価結果&gt;                      [単位：ppm]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">寄与濃度</th> <th rowspan="2">バックグラウンド濃度</th> <th rowspan="2">予測結果(年平均値)</th> <th rowspan="2">日平均値の年間98%値</th> <th rowspan="2">環境保全目標値</th> </tr> <tr> <th></th> <th></th> <th>基礎交通量</th> <th>資材等運搬車両</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上新宮</td> <td>古志104号線</td> <td>0.0000</td> <td>0.0001</td> <td rowspan="3">0.002</td> <td>0.002</td> <td rowspan="3">0.011</td> <td rowspan="3">0.04～0.06のゾーン内又はそれ以下</td> </tr> <tr> <td>下新宮</td> <td>新宮大谷線</td> <td>0.0003</td> <td>0.0001</td> <td>0.002</td> </tr> <tr> <td>古志町地内</td> <td>古志82号線</td> <td>0.0003</td> <td>0.0002</td> <td>0.002</td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt;資材等運搬車両の運行に伴う浮遊粒子状物質の評価結果&gt;                      [単位：mg/m<sup>3</sup>]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">寄与濃度</th> <th rowspan="2">バックグラウンド濃度</th> <th rowspan="2">予測結果(年平均値)</th> <th rowspan="2">日平均値の年間2%除外値</th> <th rowspan="2">環境保全目標値</th> </tr> <tr> <th></th> <th></th> <th>基礎交通量</th> <th>資材等運搬車両</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上新宮</td> <td>古志104号線</td> <td>0.000000</td> <td>0.000004</td> <td rowspan="3">0.015</td> <td>0.015</td> <td rowspan="3">0.039</td> <td rowspan="3">0.10以下</td> </tr> <tr> <td>下新宮</td> <td>新宮大谷線</td> <td>0.000010</td> <td>0.000003</td> <td>0.015</td> </tr> <tr> <td>古志町地内</td> <td>古志82号線</td> <td>0.000010</td> <td>0.000006</td> <td>0.015</td> </tr> </tbody> </table>	予測地点		寄与濃度		バックグラウンド濃度	予測結果(年平均値)	日平均値の年間98%値	環境保全目標値			基礎交通量	資材等運搬車両	上新宮	古志104号線	0.0000	0.0001	0.002	0.002	0.011	0.04～0.06のゾーン内又はそれ以下	下新宮	新宮大谷線	0.0003	0.0001	0.002	古志町地内	古志82号線	0.0003	0.0002	0.002	予測地点		寄与濃度		バックグラウンド濃度	予測結果(年平均値)	日平均値の年間2%除外値	環境保全目標値			基礎交通量	資材等運搬車両	上新宮	古志104号線	0.000000	0.000004	0.015	0.015	0.039	0.10以下	下新宮	新宮大谷線	0.000010	0.000003	0.015	古志町地内	古志82号線	0.000010	0.000006	0.015	<p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>
予測地点		寄与濃度		バックグラウンド濃度	予測結果(年平均値)																																																																																																																																														
		基礎交通量	資材等運搬車両																																																																																																																																																
上新宮	古志104号線	0.0000	0.0001	0.002	0.002																																																																																																																																														
下新宮	新宮大谷線	0.0003	0.0001		0.002																																																																																																																																														
古志町地内	古志82号線	0.0003	0.0002		0.002																																																																																																																																														
予測地点		寄与濃度		バックグラウンド濃度	予測結果(年平均値)																																																																																																																																														
		基礎交通量	資材等運搬車両																																																																																																																																																
上新宮	古志104号線	0.000000	0.000004	0.015	0.015																																																																																																																																														
下新宮	新宮大谷線	0.000010	0.000003		0.015																																																																																																																																														
古志町地内	古志82号線	0.000010	0.000006		0.015																																																																																																																																														
予測地点		寄与濃度		バックグラウンド濃度	予測結果(年平均値)	日平均値の年間98%値	環境保全目標値																																																																																																																																												
		基礎交通量	資材等運搬車両																																																																																																																																																
上新宮	古志104号線	0.000000	0.000004	0.015	0.015	0.039	0.10以下																																																																																																																																												
下新宮	新宮大谷線	0.000010	0.000003		0.015																																																																																																																																														
古志町地内	古志82号線	0.000010	0.000006		0.015																																																																																																																																														
予測地点		寄与濃度		バックグラウンド濃度	予測結果(年平均値)	日平均値の年間98%値	環境保全目標値																																																																																																																																												
		基礎交通量	資材等運搬車両																																																																																																																																																
上新宮	古志104号線	0.0000	0.0001	0.002	0.002	0.011	0.04～0.06のゾーン内又はそれ以下																																																																																																																																												
下新宮	新宮大谷線	0.0003	0.0001		0.002																																																																																																																																														
古志町地内	古志82号線	0.0003	0.0002		0.002																																																																																																																																														
予測地点		寄与濃度		バックグラウンド濃度	予測結果(年平均値)	日平均値の年間2%除外値	環境保全目標値																																																																																																																																												
		基礎交通量	資材等運搬車両																																																																																																																																																
上新宮	古志104号線	0.000000	0.000004	0.015	0.015	0.039	0.10以下																																																																																																																																												
下新宮	新宮大谷線	0.000010	0.000003		0.015																																																																																																																																														
古志町地内	古志82号線	0.000010	0.000006		0.015																																																																																																																																														

表 11-2 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	環境要素の区分	影響要因の区分																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
大気質	大気質 (粉じん等)	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	<p>降下ばいじん量の寄与分の値は 1.4t/km<sup>2</sup>/月～7.7t/km<sup>2</sup>/月、バックグラウンドと足し合わせた予測結果は 4.06t/km<sup>2</sup>/月～10.26t/km<sup>2</sup>/月となった。</p> <p style="text-align: center;">&lt;降下ばいじん量の予測結果&gt;</p> <p style="text-align: right;">[単位：t/km<sup>2</sup>/月]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">予測地点</th> <th>春季</th> <th>夏季</th> <th>秋季</th> <th>冬季</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">寄与分</td> <td>上新宮</td> <td>古志 104 号線</td> <td>4.1</td> <td>1.4</td> <td>1.7</td> <td>5.2</td> </tr> <tr> <td>下新宮</td> <td>新宮大谷線</td> <td>4.1</td> <td>1.8</td> <td>1.9</td> <td>5.5</td> </tr> <tr> <td>古志町地内</td> <td>古志 82 号線</td> <td>6.3</td> <td>2.6</td> <td>2.8</td> <td>7.7</td> </tr> <tr> <td colspan="2">バックグラウンド</td> <td></td> <td>2.54</td> <td>2.66</td> <td>2.54</td> <td>2.56</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">予測結果</td> <td>上新宮</td> <td>古志 104 号線</td> <td>6.64</td> <td>4.06</td> <td>4.24</td> <td>7.76</td> </tr> <tr> <td>下新宮</td> <td>新宮大谷線</td> <td>6.64</td> <td>4.46</td> <td>4.44</td> <td>8.06</td> </tr> <tr> <td>古志町地内</td> <td>古志 82 号線</td> <td>8.84</td> <td>5.26</td> <td>5.34</td> <td>10.26</td> </tr> </tbody> </table>	予測地点		春季	夏季	秋季	冬季	寄与分	上新宮	古志 104 号線	4.1	1.4	1.7	5.2	下新宮	新宮大谷線	4.1	1.8	1.9	5.5	古志町地内	古志 82 号線	6.3	2.6	2.8	7.7	バックグラウンド			2.54	2.66	2.54	2.56	予測結果	上新宮	古志 104 号線	6.64	4.06	4.24	7.76	下新宮	新宮大谷線	6.64	4.46	4.44	8.06	古志町地内	古志 82 号線	8.84	5.26	5.34	10.26	<p><b>環境保全措置の検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>運搬車両台数の低減</b>：土地の改変に伴う発生土砂は、極力、都市計画対象事業実施区域内で再利用するとともに、近傍の他事業において有効利用し、周辺道路を走行する工事用車両の台数を減らす。</li> <li>・<b>車両の洗浄</b>：資材等運搬車両の洗浄を励行し、敷地内外の路面への土砂の堆積を防ぐ。</li> </ul>	<p><b>回避・低減に係る評価</b></p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、資材等運搬車両の運行に伴う粉じん等の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p> <p><b>基準又は目標との整合に係る評価</b></p> <p>資材等運搬車両の運行に伴う粉じん等の評価結果は下記に示すとおりであり、環境の保全に係る基準又は目標との整合性が図られているものと評価した。</p> <p style="text-align: center;">&lt;降下ばいじん量の評価結果&gt;</p> <p style="text-align: right;">[単位：t/km<sup>2</sup>/月]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">予測地点</th> <th>春季</th> <th>夏季</th> <th>秋季</th> <th>冬季</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">寄与分</td> <td>上新宮</td> <td>古志 104 号線</td> <td>4.1</td> <td>1.4</td> <td>1.7</td> <td>5.2</td> </tr> <tr> <td>下新宮</td> <td>新宮大谷線</td> <td>4.1</td> <td>1.8</td> <td>1.9</td> <td>5.5</td> </tr> <tr> <td>古志町地内</td> <td>古志 82 号線</td> <td>6.3</td> <td>2.6</td> <td>2.8</td> <td>7.7</td> </tr> <tr> <td colspan="2">バックグラウンド</td> <td></td> <td>2.54</td> <td>2.66</td> <td>2.54</td> <td>2.56</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">予測結果</td> <td>上新宮</td> <td>古志 104 号線</td> <td>6.64</td> <td>4.06</td> <td>4.24</td> <td>7.76</td> </tr> <tr> <td>下新宮</td> <td>新宮大谷線</td> <td>6.64</td> <td>4.46</td> <td>4.44</td> <td>8.06</td> </tr> <tr> <td>古志町地内</td> <td>古志 82 号線</td> <td>8.84</td> <td>5.26</td> <td>5.34</td> <td>10.26</td> </tr> <tr> <td colspan="2">環境保全目標値</td> <td></td> <td colspan="4">20 以下</td> </tr> </tbody> </table>	予測地点		春季	夏季	秋季	冬季	寄与分	上新宮	古志 104 号線	4.1	1.4	1.7	5.2	下新宮	新宮大谷線	4.1	1.8	1.9	5.5	古志町地内	古志 82 号線	6.3	2.6	2.8	7.7	バックグラウンド			2.54	2.66	2.54	2.56	予測結果	上新宮	古志 104 号線	6.64	4.06	4.24	7.76	下新宮	新宮大谷線	6.64	4.46	4.44	8.06	古志町地内	古志 82 号線	8.84	5.26	5.34	10.26	環境保全目標値			20 以下				<p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>																																																																																																																																																																																						
		予測地点		春季	夏季	秋季	冬季																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
寄与分	上新宮	古志 104 号線	4.1	1.4	1.7	5.2																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	下新宮	新宮大谷線	4.1	1.8	1.9	5.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	古志町地内	古志 82 号線	6.3	2.6	2.8	7.7																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
バックグラウンド			2.54	2.66	2.54	2.56																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
予測結果	上新宮	古志 104 号線	6.64	4.06	4.24	7.76																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	下新宮	新宮大谷線	6.64	4.46	4.44	8.06																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	古志町地内	古志 82 号線	8.84	5.26	5.34	10.26																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
予測地点		春季	夏季	秋季	冬季																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
寄与分	上新宮	古志 104 号線	4.1	1.4	1.7	5.2																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	下新宮	新宮大谷線	4.1	1.8	1.9	5.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	古志町地内	古志 82 号線	6.3	2.6	2.8	7.7																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
バックグラウンド			2.54	2.66	2.54	2.56																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
予測結果	上新宮	古志 104 号線	6.64	4.06	4.24	7.76																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	下新宮	新宮大谷線	6.64	4.46	4.44	8.06																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	古志町地内	古志 82 号線	8.84	5.26	5.34	10.26																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
環境保全目標値			20 以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
大気質	大気質 (窒素酸化物、硫酸酸化物、浮遊粒子状物質、有害物質)	施設の稼働(排ガス)	<p><b>&lt;年平均値&gt;</b></p> <p>年平均値の最大着地濃度地点は都市計画対象事業実施区域西南西側約510mの位置に出現し、寄与濃度は二酸化窒素が 0.00013ppm、二酸化硫黄が 0.00014ppm、浮遊粒子状物質が 0.000035mg/m<sup>3</sup>、塩化水素が 0.00014ppm、ダイオキシン類が 0.000035pg-TEQ/m<sup>3</sup>、水銀が 0.00011μgHg/m<sup>3</sup> と予測され、いずれの項目についても、バックグラウンド濃度に対して極めて低い濃度となっている。</p> <p>また、バックグラウンド濃度を含めた予測環境濃度の年平均値は、二酸化窒素が 0.002ppm、二酸化硫黄が 0.002ppm、浮遊粒子状物質が 0.015mg/m<sup>3</sup>、塩化水素が 0.001ppm、ダイオキシン類が 0.038pg-TEQ/m<sup>3</sup>、水銀が 0.004μgHg/m<sup>3</sup> と予測される。</p> <p style="text-align: center;">&lt;施設の供用に伴う大気質の予測結果&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="3">年平均値</th> </tr> <tr> <th>寄与濃度(A)</th> <th>バックグラウンド濃度(B)</th> <th>将来濃度(A)+(B)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">二酸化窒素 (ppm)</td> <td>上新宮</td> <td>0.00001</td> <td>0.002</td> <td>0.002</td> </tr> <tr> <td>桜</td> <td>0.00003</td> <td>0.001</td> <td>0.001</td> </tr> <tr> <td>殿森</td> <td>0.00003</td> <td>0.001</td> <td>0.001</td> </tr> <tr> <td>乙立</td> <td>0.00001</td> <td>0.001</td> <td>0.001</td> </tr> <tr> <td>最大着地濃度地点</td> <td>0.00013</td> <td>0.002</td> <td>0.002</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">二酸化硫黄 (ppm)</td> <td>上新宮</td> <td>0.00001</td> <td>0.002</td> <td>0.002</td> </tr> <tr> <td>桜</td> <td>0.00003</td> <td>0.002</td> <td>0.002</td> </tr> <tr> <td>殿森</td> <td>0.00003</td> <td>0.002</td> <td>0.002</td> </tr> <tr> <td>乙立</td> <td>0.00001</td> <td>0.002</td> <td>0.002</td> </tr> <tr> <td>最大着地濃度地点</td> <td>0.00014</td> <td>0.002</td> <td>0.002</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">浮遊粒子状物質 (mg/m<sup>3</sup>)</td> <td>上新宮</td> <td>0.000003</td> <td>0.015</td> <td>0.015</td> </tr> <tr> <td>桜</td> <td>0.000008</td> <td>0.015</td> <td>0.015</td> </tr> <tr> <td>殿森</td> <td>0.000007</td> <td>0.015</td> <td>0.015</td> </tr> <tr> <td>乙立</td> <td>0.000003</td> <td>0.015</td> <td>0.015</td> </tr> <tr> <td>最大着地濃度地点</td> <td>0.000035</td> <td>0.015</td> <td>0.015</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">塩化水素 (ppm)</td> <td>上新宮</td> <td>0.00001</td> <td>0.001</td> <td>0.001</td> </tr> <tr> <td>桜</td> <td>0.00003</td> <td>0.001</td> <td>0.001</td> </tr> <tr> <td>殿森</td> <td>0.00003</td> <td>0.001</td> <td>0.001</td> </tr> <tr> <td>乙立</td> <td>0.00001</td> <td>0.001</td> <td>0.001</td> </tr> <tr> <td>最大着地濃度地点</td> <td>0.00014</td> <td>0.001</td> <td>0.001</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">ダイオキシン類 (pg-TEQ/m<sup>3</sup>)</td> <td>上新宮</td> <td>0.0000032</td> <td>0.011</td> <td>0.011</td> </tr> <tr> <td>桜</td> <td>0.0000076</td> <td>0.023</td> <td>0.023</td> </tr> <tr> <td>殿森</td> <td>0.0000073</td> <td>0.0089</td> <td>0.0089</td> </tr> <tr> <td>乙立</td> <td>0.0000028</td> <td>0.038</td> <td>0.038</td> </tr> <tr> <td>最大着地濃度地点</td> <td>0.000035</td> <td>0.038</td> <td>0.038</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">水銀 (μgHg/m<sup>3</sup>)</td> <td>上新宮</td> <td>0.00001</td> <td>0.004</td> <td>0.004</td> </tr> <tr> <td>桜</td> <td>0.00002</td> <td>0.004</td> <td>0.004</td> </tr> <tr> <td>殿森</td> <td>0.00002</td> <td>0.004</td> <td>0.004</td> </tr> <tr> <td>乙立</td> <td>0.00001</td> <td>0.004</td> <td>0.004</td> </tr> <tr> <td>最大着地濃度地点</td> <td>0.00011</td> <td>0.004</td> <td>0.004</td> </tr> </tbody> </table>	項目	予測地点	年平均値			寄与濃度(A)	バックグラウンド濃度(B)	将来濃度(A)+(B)	二酸化窒素 (ppm)	上新宮	0.00001	0.002	0.002	桜	0.00003	0.001	0.001	殿森	0.00003	0.001	0.001	乙立	0.00001	0.001	0.001	最大着地濃度地点	0.00013	0.002	0.002	二酸化硫黄 (ppm)	上新宮	0.00001	0.002	0.002	桜	0.00003	0.002	0.002	殿森	0.00003	0.002	0.002	乙立	0.00001	0.002	0.002	最大着地濃度地点	0.00014	0.002	0.002	浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	上新宮	0.000003	0.015	0.015	桜	0.000008	0.015	0.015	殿森	0.000007	0.015	0.015	乙立	0.000003	0.015	0.015	最大着地濃度地点	0.000035	0.015	0.015	塩化水素 (ppm)	上新宮	0.00001	0.001	0.001	桜	0.00003	0.001	0.001	殿森	0.00003	0.001	0.001	乙立	0.00001	0.001	0.001	最大着地濃度地点	0.00014	0.001	0.001	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m <sup>3</sup> )	上新宮	0.0000032	0.011	0.011	桜	0.0000076	0.023	0.023	殿森	0.0000073	0.0089	0.0089	乙立	0.0000028	0.038	0.038	最大着地濃度地点	0.000035	0.038	0.038	水銀 (μgHg/m <sup>3</sup> )	上新宮	0.00001	0.004	0.004	桜	0.00002	0.004	0.004	殿森	0.00002	0.004	0.004	乙立	0.00001	0.004	0.004	最大着地濃度地点	0.00011	0.004	0.004	<p><b>環境保全措置の検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>排ガス処理設備</b>：最新の排ガス処理設備を採用し、排ガス中に含まれる大気汚染物質の排出抑制を行う。</li> <li>・<b>運転管理の徹底</b>：焼却炉の適切な燃焼管理を行うとともに、適切な監視を行う。</li> <li>・<b>排ガス濃度等の情報公開</b>：排ガス濃度等の計測により適正な施設稼働を確認するとともに、情報公開に努め、一般市民が本施設の運転状況を確認できるようにする。</li> </ul>	<p><b>回避・低減に係る評価</b></p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、施設の稼働に伴う大気質への影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p> <p><b>基準又は目標との整合に係る評価</b></p> <p><b>&lt;年平均値&gt;</b></p> <p>施設の稼働に伴う二酸化窒素、二酸化硫黄、浮遊粒子状物質、塩化水素、ダイオキシン類、水銀の年平均値の評価結果は下記に示すとおりであり、環境の保全に係る基準又は目標との整合性が図られているものと評価した。</p> <p style="text-align: center;">&lt;施設の稼働に伴う大気質の評価結果&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="3">年平均値</th> <th rowspan="2">日平均値<sup>(注)</sup></th> <th rowspan="2">環境保全目標値</th> </tr> <tr> <th>寄与濃度(A)</th> <th>バックグラウンド濃度(B)</th> <th>将来濃度(A)+(B)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">二酸化窒素 (ppm)</td> <td>上新宮</td> <td>0.00001</td> <td>0.002</td> <td>0.002</td> <td>0.0052</td> <td rowspan="5">0.04～ 0.06までの ゾーン内又は それ以下</td> </tr> <tr> <td>桜</td> <td>0.00003</td> <td>0.001</td> <td>0.001</td> <td>0.0033</td> </tr> <tr> <td>殿森</td> <td>0.00003</td> <td>0.001</td> <td>0.001</td> <td>0.0033</td> </tr> <tr> <td>乙立</td> <td>0.00001</td> <td>0.001</td> <td>0.001</td> <td>0.0032</td> </tr> <tr> <td>最大着地濃度地点</td> <td>0.00013</td> <td>0.002</td> <td>0.002</td> <td>0.0054</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">二酸化硫黄 (ppm)</td> <td>上新宮</td> <td>0.00001</td> <td>0.002</td> <td>0.002</td> <td>0.0069</td> <td rowspan="5">0.04 以下</td> </tr> <tr> <td>桜</td> <td>0.00003</td> <td>0.002</td> <td>0.002</td> <td>0.0069</td> </tr> <tr> <td>殿森</td> <td>0.00003</td> <td>0.002</td> <td>0.002</td> <td>0.0069</td> </tr> <tr> <td>乙立</td> <td>0.00001</td> <td>0.002</td> <td>0.002</td> <td>0.0069</td> </tr> <tr> <td>最大着地濃度地点</td> <td>0.00014</td> <td>0.002</td> <td>0.002</td> <td>0.0073</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">浮遊粒子状物質 (mg/m<sup>3</sup>)</td> <td>上新宮</td> <td>0.000003</td> <td>0.015</td> <td>0.015</td> <td>0.0042</td> <td rowspan="5">0.10 以下</td> </tr> <tr> <td>桜</td> <td>0.000008</td> <td>0.015</td> <td>0.015</td> <td>0.0042</td> </tr> <tr> <td>殿森</td> <td>0.000007</td> <td>0.015</td> <td>0.015</td> <td>0.0042</td> </tr> <tr> <td>乙立</td> <td>0.000003</td> <td>0.015</td> <td>0.015</td> <td>0.0042</td> </tr> <tr> <td>最大着地濃度地点</td> <td>0.000035</td> <td>0.015</td> <td>0.015</td> <td>0.0042</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">塩化水素 (ppm)</td> <td>上新宮</td> <td>0.00001</td> <td>0.001</td> <td>0.001</td> <td rowspan="5">0.02 以下</td> </tr> <tr> <td>桜</td> <td>0.00003</td> <td>0.001</td> <td>0.001</td> </tr> <tr> <td>殿森</td> <td>0.00003</td> <td>0.001</td> <td>0.001</td> </tr> <tr> <td>乙立</td> <td>0.00001</td> <td>0.001</td> <td>0.001</td> </tr> <tr> <td>最大着地濃度地点</td> <td>0.00014</td> <td>0.001</td> <td>0.001</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">ダイオキシン類 (pg-TEQ/m<sup>3</sup>)</td> <td>上新宮</td> <td>0.0000032</td> <td>0.011</td> <td>0.011</td> <td rowspan="5">0.6 以下</td> </tr> <tr> <td>桜</td> <td>0.0000076</td> <td>0.023</td> <td>0.023</td> </tr> <tr> <td>殿森</td> <td>0.0000073</td> <td>0.0089</td> <td>0.0089</td> </tr> <tr> <td>乙立</td> <td>0.0000028</td> <td>0.038</td> <td>0.038</td> </tr> <tr> <td>最大着地濃度地点</td> <td>0.000035</td> <td>0.038</td> <td>0.038</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">水銀 (μgHg/m<sup>3</sup>)</td> <td>上新宮</td> <td>0.00001</td> <td>0.004</td> <td>0.004</td> <td rowspan="5">0.04以下</td> </tr> <tr> <td>桜</td> <td>0.00002</td> <td>0.004</td> <td>0.004</td> </tr> <tr> <td>殿森</td> <td>0.00002</td> <td>0.004</td> <td>0.004</td> </tr> <tr> <td>乙立</td> <td>0.00001</td> <td>0.004</td> <td>0.004</td> </tr> <tr> <td>最大着地濃度地点</td> <td>0.00011</td> <td>0.004</td> <td>0.004</td> </tr> </tbody> </table>	項目	予測地点	年平均値			日平均値 <sup>(注)</sup>	環境保全目標値	寄与濃度(A)	バックグラウンド濃度(B)	将来濃度(A)+(B)	二酸化窒素 (ppm)	上新宮	0.00001	0.002	0.002	0.0052	0.04～ 0.06までの ゾーン内又は それ以下	桜	0.00003	0.001	0.001	0.0033	殿森	0.00003	0.001	0.001	0.0033	乙立	0.00001	0.001	0.001	0.0032	最大着地濃度地点	0.00013	0.002	0.002	0.0054	二酸化硫黄 (ppm)	上新宮	0.00001	0.002	0.002	0.0069	0.04 以下	桜	0.00003	0.002	0.002	0.0069	殿森	0.00003	0.002	0.002	0.0069	乙立	0.00001	0.002	0.002	0.0069	最大着地濃度地点	0.00014	0.002	0.002	0.0073	浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	上新宮	0.000003	0.015	0.015	0.0042	0.10 以下	桜	0.000008	0.015	0.015	0.0042	殿森	0.000007	0.015	0.015	0.0042	乙立	0.000003	0.015	0.015	0.0042	最大着地濃度地点	0.000035	0.015	0.015	0.0042	塩化水素 (ppm)	上新宮	0.00001	0.001	0.001	0.02 以下	桜	0.00003	0.001	0.001	殿森	0.00003	0.001	0.001	乙立	0.00001	0.001	0.001	最大着地濃度地点	0.00014	0.001	0.001	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m <sup>3</sup> )	上新宮	0.0000032	0.011	0.011	0.6 以下	桜	0.0000076	0.023	0.023	殿森	0.0000073	0.0089	0.0089	乙立	0.0000028	0.038	0.038	最大着地濃度地点	0.000035	0.038	0.038	水銀 (μgHg/m <sup>3</sup> )	上新宮	0.00001	0.004	0.004	0.04以下	桜	0.00002	0.004	0.004	殿森	0.00002	0.004	0.004	乙立	0.00001	0.004	0.004	最大着地濃度地点	0.00011	0.004	0.004	<p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p> <p>なお、事後調査とは別途、自主的な環境監視調査として、施設の稼働(排ガス)に伴う大気質への影響(存在・供用)に係るモニタリング調査を継続的に実施し、環境の状況の把握に努める。</p>
		項目	予測地点			年平均値																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
寄与濃度(A)	バックグラウンド濃度(B)			将来濃度(A)+(B)																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
二酸化窒素 (ppm)	上新宮	0.00001	0.002	0.002																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	桜	0.00003	0.001	0.001																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	殿森	0.00003	0.001	0.001																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	乙立	0.00001	0.001	0.001																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	最大着地濃度地点	0.00013	0.002	0.002																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
二酸化硫黄 (ppm)	上新宮	0.00001	0.002	0.002																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	桜	0.00003	0.002	0.002																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	殿森	0.00003	0.002	0.002																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	乙立	0.00001	0.002	0.002																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	最大着地濃度地点	0.00014	0.002	0.002																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	上新宮	0.000003	0.015	0.015																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	桜	0.000008	0.015	0.015																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	殿森	0.000007	0.015	0.015																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	乙立	0.000003	0.015	0.015																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	最大着地濃度地点	0.000035	0.015	0.015																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
塩化水素 (ppm)	上新宮	0.00001	0.001	0.001																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	桜	0.00003	0.001	0.001																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	殿森	0.00003	0.001	0.001																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	乙立	0.00001	0.001	0.001																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	最大着地濃度地点	0.00014	0.001	0.001																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m <sup>3</sup> )	上新宮	0.0000032	0.011	0.011																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	桜	0.0000076	0.023	0.023																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	殿森	0.0000073	0.0089	0.0089																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	乙立	0.0000028	0.038	0.038																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	最大着地濃度地点	0.000035	0.038	0.038																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
水銀 (μgHg/m <sup>3</sup> )	上新宮	0.00001	0.004	0.004																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	桜	0.00002	0.004	0.004																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	殿森	0.00002	0.004	0.004																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	乙立	0.00001	0.004	0.004																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	最大着地濃度地点	0.00011	0.004	0.004																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
項目	予測地点	年平均値			日平均値 <sup>(注)</sup>	環境保全目標値																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
		寄与濃度(A)	バックグラウンド濃度(B)	将来濃度(A)+(B)																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
二酸化窒素 (ppm)	上新宮	0.00001	0.002	0.002	0.0052	0.04～ 0.06までの ゾーン内又は それ以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	桜	0.00003	0.001	0.001	0.0033																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	殿森	0.00003	0.001	0.001	0.0033																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	乙立	0.00001	0.001	0.001	0.0032																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	最大着地濃度地点	0.00013	0.002	0.002	0.0054																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
二酸化硫黄 (ppm)	上新宮	0.00001	0.002	0.002	0.0069	0.04 以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	桜	0.00003	0.002	0.002	0.0069																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	殿森	0.00003	0.002	0.002	0.0069																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	乙立	0.00001	0.002	0.002	0.0069																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	最大着地濃度地点	0.00014	0.002	0.002	0.0073																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	上新宮	0.000003	0.015	0.015	0.0042	0.10 以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	桜	0.000008	0.015	0.015	0.0042																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	殿森	0.000007	0.015	0.015	0.0042																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	乙立	0.000003	0.015	0.015	0.0042																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	最大着地濃度地点	0.000035	0.015	0.015	0.0042																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
塩化水素 (ppm)	上新宮	0.00001	0.001	0.001	0.02 以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	桜	0.00003	0.001	0.001																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	殿森	0.00003	0.001	0.001																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	乙立	0.00001	0.001	0.001																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	最大着地濃度地点	0.00014	0.001	0.001																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m <sup>3</sup> )	上新宮	0.0000032	0.011	0.011	0.6 以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	桜	0.0000076	0.023	0.023																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	殿森	0.0000073	0.0089	0.0089																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	乙立	0.0000028	0.038	0.038																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	最大着地濃度地点	0.000035	0.038	0.038																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
水銀 (μgHg/m <sup>3</sup> )	上新宮	0.00001	0.004	0.004	0.04以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	桜	0.00002	0.004	0.004																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	殿森	0.00002	0.004	0.004																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	乙立	0.00001	0.004	0.004																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	最大着地濃度地点	0.00011	0.004	0.004																																																																																																																																																																																																																																																																																																					

注) 二酸化窒素は日平均値の年間 98%値を、二酸化硫黄及び浮遊粒子状物質は日平均値の年間 2%除外値を示す。

表 11-3 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	環境要素の区分	影響要因の区分																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
大気質	大気質 (窒素酸化物、硫黄酸化物、浮遊粒子状物質、有害物質)	施設の稼働 (排ガス)	<p>&lt;1時間値&gt;</p> <p>・一般的な気象条件時(大気安定度不安定時)</p> <p>一般的な気象条件時(大気安定度不安定時)の1時間値の最大値は、煙突の風下約550mの位置に出現し、二酸化窒素が0.014ppm、二酸化硫黄が0.013ppm、浮遊粒子状物質が0.072mg/m<sup>3</sup>、塩化水素が0.004ppm、ダイオキシン類が0.13pg-TEQ/m<sup>3</sup>、水銀が0.006μgHg/m<sup>3</sup>と予測される。</p> <p>&lt;高濃度出現時の1時間値予測(一般的な気象条件時(大気安定度不安定時))&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="3">1時間値</th> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="3">1時間値</th> </tr> <tr> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>将来濃度</th> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>将来濃度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二酸化窒素 (ppm)</td> <td>0.002</td> <td>0.012</td> <td>0.014</td> <td>塩化水素 (ppm)</td> <td>0.003</td> <td>0.001</td> <td>0.004</td> </tr> <tr> <td>二酸化硫黄 (ppm)</td> <td>0.003</td> <td>0.01</td> <td>0.013</td> <td>ダイオキシン類 (pg-TEQ/m<sup>3</sup>)</td> <td>0.0007</td> <td>0.13</td> <td>0.13</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質 (mg/m<sup>3</sup>)</td> <td>0.0007</td> <td>0.071</td> <td>0.072</td> <td>水銀 (μgHg/m<sup>3</sup>)</td> <td>0.002</td> <td>0.004</td> <td>0.006</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 寄与濃度は、予測地域における寄与濃度の最大値を示す。 注2) 最大寄与濃度出現距離は煙突より約550mの位置である。</p> <p>・上層逆転層発生時</p> <p>上層逆転層発生時の1時間値の最大値は、煙突の風下約440mの位置に出現し、二酸化窒素が0.026ppm、二酸化硫黄が0.028ppm、浮遊粒子状物質が0.075mg/m<sup>3</sup>、塩化水素が0.019ppm、ダイオキシン類が0.13pg-TEQ/m<sup>3</sup>、水銀が0.017μgHg/m<sup>3</sup>と予測される。</p> <p>&lt;高濃度出現時の1時間値予測(上層逆転層発生時)&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="3">1時間値</th> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="3">1時間値</th> </tr> <tr> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>将来濃度</th> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>将来濃度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二酸化窒素 (ppm)</td> <td>0.014</td> <td>0.012</td> <td>0.026</td> <td>塩化水素 (ppm)</td> <td>0.018</td> <td>0.001</td> <td>0.019</td> </tr> <tr> <td>二酸化硫黄 (ppm)</td> <td>0.018</td> <td>0.01</td> <td>0.028</td> <td>ダイオキシン類 (pg-TEQ/m<sup>3</sup>)</td> <td>0.0044</td> <td>0.13</td> <td>0.13</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質 (mg/m<sup>3</sup>)</td> <td>0.0044</td> <td>0.071</td> <td>0.075</td> <td>水銀 (μgHg/m<sup>3</sup>)</td> <td>0.013</td> <td>0.004</td> <td>0.017</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 寄与濃度は、予測地域における寄与濃度の最大値を示す。 注2) 最大寄与濃度出現距離は煙突より約440mの位置である。</p> <p>・接地逆転層崩壊時(フュミゲーション発生時)</p> <p>接地逆転層崩壊時(フュミゲーション発生時)の1時間値の最大値は、煙突の風下約250mの位置に出現し、二酸化窒素が0.025ppm、二酸化硫黄が0.026ppm、浮遊粒子状物質が0.075mg/m<sup>3</sup>、塩化水素が0.017ppm、ダイオキシン類が0.13pg-TEQ/m<sup>3</sup>、水銀が0.016μgHg/m<sup>3</sup>と予測される。</p> <p>&lt;高濃度出現時の1時間値予測(フュミゲーション発生時)&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="3">1時間値</th> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="3">1時間値</th> </tr> <tr> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>将来濃度</th> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>将来濃度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二酸化窒素 (ppm)</td> <td>0.013</td> <td>0.012</td> <td>0.025</td> <td>塩化水素 (ppm)</td> <td>0.016</td> <td>0.001</td> <td>0.017</td> </tr> <tr> <td>二酸化硫黄 (ppm)</td> <td>0.016</td> <td>0.01</td> <td>0.026</td> <td>ダイオキシン類 (pg-TEQ/m<sup>3</sup>)</td> <td>0.0041</td> <td>0.13</td> <td>0.13</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質 (mg/m<sup>3</sup>)</td> <td>0.0041</td> <td>0.071</td> <td>0.075</td> <td>水銀 (μgHg/m<sup>3</sup>)</td> <td>0.012</td> <td>0.004</td> <td>0.016</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 寄与濃度は、予測地域における寄与濃度の最大値を示す。 注2) 最大寄与濃度出現距離は煙突より約250mの位置である。</p> <p>・ダウンウォッシュ・ドラフト発生時</p> <p>ダウンウォッシュ・ダウンドラフト発生時の1時間値の最大値は、煙突の風下約300mの位置に出現し、二酸化窒素が0.023ppm、二酸化硫黄が0.024ppm、浮遊粒子状物質が0.074mg/m<sup>3</sup>、塩化水素が0.015ppm、ダイオキシン類が0.13pg-TEQ/m<sup>3</sup>、水銀が0.014μgHg/m<sup>3</sup>と予測される。</p> <p>&lt;高濃度出現時の1時間値予測(ダウンウォッシュ・ダウンドラフト発生時)&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="3">1時間値</th> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="3">1時間値</th> </tr> <tr> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>将来濃度</th> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>将来濃度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二酸化窒素 (ppm)</td> <td>0.011</td> <td>0.012</td> <td>0.023</td> <td>塩化水素 (ppm)</td> <td>0.014</td> <td>0.001</td> <td>0.015</td> </tr> <tr> <td>二酸化硫黄 (ppm)</td> <td>0.014</td> <td>0.01</td> <td>0.024</td> <td>ダイオキシン類 (pg-TEQ/m<sup>3</sup>)</td> <td>0.0033</td> <td>0.13</td> <td>0.13</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質 (mg/m<sup>3</sup>)</td> <td>0.0033</td> <td>0.071</td> <td>0.074</td> <td>水銀 (μgHg/m<sup>3</sup>)</td> <td>0.010</td> <td>0.004</td> <td>0.014</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 寄与濃度は、予測地域における寄与濃度の最大値を示す。 注2) 最大寄与濃度出現距離は煙突より約300mの位置である。</p> <p>・接地逆転層非貫通時</p> <p>接地逆転層非貫通時の1時間値の最大値は、濃度は極めて低いものの、煙突の風下約4,900mの位置に出現し、二酸化窒素が0.019ppm、二酸化硫黄が0.018ppm、浮遊粒子状物質が0.073mg/m<sup>3</sup>、塩化水素が0.009ppm、ダイオキシン類が0.13pg-TEQ/m<sup>3</sup>、水銀が0.010μgHg/m<sup>3</sup>と予測される。</p> <p>&lt;高濃度出現時の1時間値予測(ダウンウォッシュ・ダウンドラフト発生時)&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="3">1時間値</th> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="3">1時間値</th> </tr> <tr> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>将来濃度</th> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>将来濃度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二酸化窒素 (ppm)</td> <td>0.007</td> <td>0.012</td> <td>0.019</td> <td>塩化水素 (ppm)</td> <td>0.008</td> <td>0.001</td> <td>0.009</td> </tr> <tr> <td>二酸化硫黄 (ppm)</td> <td>0.008</td> <td>0.01</td> <td>0.018</td> <td>ダイオキシン類 (pg-TEQ/m<sup>3</sup>)</td> <td>0.0021</td> <td>0.13</td> <td>0.13</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質 (mg/m<sup>3</sup>)</td> <td>0.0021</td> <td>0.071</td> <td>0.073</td> <td>水銀 (μgHg/m<sup>3</sup>)</td> <td>0.006</td> <td>0.004</td> <td>0.010</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 寄与濃度は、予測地域における寄与濃度の最大値を示す。 注2) 最大寄与濃度出現距離は煙突より約4,900mの位置である。</p>	項目	1時間値			項目	1時間値			寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度	二酸化窒素 (ppm)	0.002	0.012	0.014	塩化水素 (ppm)	0.003	0.001	0.004	二酸化硫黄 (ppm)	0.003	0.01	0.013	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m <sup>3</sup> )	0.0007	0.13	0.13	浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	0.0007	0.071	0.072	水銀 (μgHg/m <sup>3</sup> )	0.002	0.004	0.006	項目	1時間値			項目	1時間値			寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度	二酸化窒素 (ppm)	0.014	0.012	0.026	塩化水素 (ppm)	0.018	0.001	0.019	二酸化硫黄 (ppm)	0.018	0.01	0.028	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m <sup>3</sup> )	0.0044	0.13	0.13	浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	0.0044	0.071	0.075	水銀 (μgHg/m <sup>3</sup> )	0.013	0.004	0.017	項目	1時間値			項目	1時間値			寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度	二酸化窒素 (ppm)	0.013	0.012	0.025	塩化水素 (ppm)	0.016	0.001	0.017	二酸化硫黄 (ppm)	0.016	0.01	0.026	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m <sup>3</sup> )	0.0041	0.13	0.13	浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	0.0041	0.071	0.075	水銀 (μgHg/m <sup>3</sup> )	0.012	0.004	0.016	項目	1時間値			項目	1時間値			寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度	二酸化窒素 (ppm)	0.011	0.012	0.023	塩化水素 (ppm)	0.014	0.001	0.015	二酸化硫黄 (ppm)	0.014	0.01	0.024	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m <sup>3</sup> )	0.0033	0.13	0.13	浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	0.0033	0.071	0.074	水銀 (μgHg/m <sup>3</sup> )	0.010	0.004	0.014	項目	1時間値			項目	1時間値			寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度	二酸化窒素 (ppm)	0.007	0.012	0.019	塩化水素 (ppm)	0.008	0.001	0.009	二酸化硫黄 (ppm)	0.008	0.01	0.018	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m <sup>3</sup> )	0.0021	0.13	0.13	浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	0.0021	0.071	0.073	水銀 (μgHg/m <sup>3</sup> )	0.006	0.004	0.010	<p>環境保全措置の検討</p> <p>・排ガス処理設備：最新の排ガス処理設備を採用し、排ガス中に含まれる大気汚染物質の排出抑制を行う。</p> <p>・運転管理の徹底：焼却炉の適切な燃焼管理を行うとともに、適切な監視を行う。</p> <p>・排ガス濃度等の情報公開：排ガス濃度等の計測により適正な施設稼働を確認するとともに、情報公開に努め、一般市民が本施設の運転状況を確認できるようにする。</p>	<p>&lt;1時間値&gt;</p> <p>施設の稼働に伴う二酸化窒素、二酸化硫黄、浮遊粒子状物質、塩化水素、ダイオキシン類、水銀の1時間値の評価結果は下記に示すとおりであり、環境の保全に係る基準又は目標との整合性が図られているものと評価した。</p> <p>&lt;1時間値の評価結果(一般的な気象条件時(大気安定度不安定時))&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="3">1時間値</th> <th rowspan="2">環境保全目標値</th> </tr> <tr> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>将来濃度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二酸化窒素 (ppm)</td> <td>0.002</td> <td>0.012</td> <td>0.014</td> <td>0.1以下</td> </tr> <tr> <td>二酸化硫黄 (ppm)</td> <td>0.003</td> <td>0.01</td> <td>0.013</td> <td>0.1以下</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質 (mg/m<sup>3</sup>)</td> <td>0.0007</td> <td>0.071</td> <td>0.072</td> <td>0.20以下</td> </tr> <tr> <td>塩化水素 (ppm)</td> <td>0.003</td> <td>0.001</td> <td>0.004</td> <td>0.02以下</td> </tr> <tr> <td>ダイオキシン類 (pg-TEQ/m<sup>3</sup>)</td> <td>0.0007</td> <td>0.13</td> <td>0.13</td> <td>0.6以下</td> </tr> <tr> <td>水銀 (μgHg/m<sup>3</sup>)</td> <td>0.002</td> <td>0.004</td> <td>0.006</td> <td>0.04以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 寄与濃度は、予測地域における寄与濃度の最大値を示す。 注2) 最大寄与濃度出現距離は煙突より約550mの位置である。</p> <p>&lt;1時間値の評価結果(上層逆転層発生時)&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="3">1時間値</th> <th rowspan="2">環境保全目標値</th> </tr> <tr> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>将来濃度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二酸化窒素 (ppm)</td> <td>0.014</td> <td>0.012</td> <td>0.026</td> <td>0.1以下</td> </tr> <tr> <td>二酸化硫黄 (ppm)</td> <td>0.018</td> <td>0.01</td> <td>0.028</td> <td>0.1以下</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質 (mg/m<sup>3</sup>)</td> <td>0.0044</td> <td>0.071</td> <td>0.075</td> <td>0.20以下</td> </tr> <tr> <td>塩化水素 (ppm)</td> <td>0.018</td> <td>0.001</td> <td>0.019</td> <td>0.02以下</td> </tr> <tr> <td>ダイオキシン類 (pg-TEQ/m<sup>3</sup>)</td> <td>0.0044</td> <td>0.13</td> <td>0.13</td> <td>0.6以下</td> </tr> <tr> <td>水銀 (μgHg/m<sup>3</sup>)</td> <td>0.013</td> <td>0.004</td> <td>0.017</td> <td>0.04以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 寄与濃度は、予測地域における寄与濃度の最大値を示す。 注2) 最大寄与濃度出現距離は煙突より約440mの位置である。</p> <p>&lt;1時間値の評価結果(フュミゲーション発生時)&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="3">1時間値</th> <th rowspan="2">環境保全目標値</th> </tr> <tr> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>将来濃度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二酸化窒素 (ppm)</td> <td>0.013</td> <td>0.012</td> <td>0.025</td> <td>0.1以下</td> </tr> <tr> <td>二酸化硫黄 (ppm)</td> <td>0.016</td> <td>0.01</td> <td>0.026</td> <td>0.1以下</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質 (mg/m<sup>3</sup>)</td> <td>0.0041</td> <td>0.071</td> <td>0.075</td> <td>0.20以下</td> </tr> <tr> <td>塩化水素 (ppm)</td> <td>0.016</td> <td>0.001</td> <td>0.017</td> <td>0.02以下</td> </tr> <tr> <td>ダイオキシン類 (pg-TEQ/m<sup>3</sup>)</td> <td>0.0041</td> <td>0.13</td> <td>0.13</td> <td>0.6以下</td> </tr> <tr> <td>水銀 (μgHg/m<sup>3</sup>)</td> <td>0.012</td> <td>0.004</td> <td>0.016</td> <td>0.04以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 寄与濃度は、予測地域における寄与濃度の最大値を示す。 注2) 最大寄与濃度出現距離は煙突より約250mの位置である。</p> <p>&lt;1時間値の評価結果(ダウンウォッシュ・ダウンドラフト発生時)&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="3">1時間値</th> <th rowspan="2">環境保全目標値</th> </tr> <tr> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>将来濃度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二酸化窒素 (ppm)</td> <td>0.011</td> <td>0.012</td> <td>0.023</td> <td>0.1以下</td> </tr> <tr> <td>二酸化硫黄 (ppm)</td> <td>0.014</td> <td>0.01</td> <td>0.024</td> <td>0.1以下</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質 (mg/m<sup>3</sup>)</td> <td>0.0033</td> <td>0.071</td> <td>0.074</td> <td>0.20以下</td> </tr> <tr> <td>塩化水素 (ppm)</td> <td>0.014</td> <td>0.001</td> <td>0.015</td> <td>0.02以下</td> </tr> <tr> <td>ダイオキシン類 (pg-TEQ/m<sup>3</sup>)</td> <td>0.0033</td> <td>0.13</td> <td>0.13</td> <td>0.6以下</td> </tr> <tr> <td>水銀 (μgHg/m<sup>3</sup>)</td> <td>0.010</td> <td>0.004</td> <td>0.014</td> <td>0.04以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 寄与濃度は、予測地域における寄与濃度の最大値を示す。 注2) 最大寄与濃度出現距離は煙突より約300mの位置である。</p> <p>&lt;1時間値の評価結果(接地逆転層非貫通時)&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="3">1時間値</th> <th rowspan="2">環境保全目標値</th> </tr> <tr> <th>寄与濃度</th> <th>バックグラウンド濃度</th> <th>将来濃度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二酸化窒素 (ppm)</td> <td>0.007</td> <td>0.012</td> <td>0.019</td> <td>0.1以下</td> </tr> <tr> <td>二酸化硫黄 (ppm)</td> <td>0.008</td> <td>0.01</td> <td>0.018</td> <td>0.1以下</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質 (mg/m<sup>3</sup>)</td> <td>0.0021</td> <td>0.071</td> <td>0.073</td> <td>0.20以下</td> </tr> <tr> <td>塩化水素 (ppm)</td> <td>0.008</td> <td>0.001</td> <td>0.009</td> <td>0.02以下</td> </tr> <tr> <td>ダイオキシン類 (pg-TEQ/m<sup>3</sup>)</td> <td>0.0021</td> <td>0.13</td> <td>0.13</td> <td>0.6以下</td> </tr> <tr> <td>水銀 (μgHg/m<sup>3</sup>)</td> <td>0.006</td> <td>0.004</td> <td>0.010</td> <td>0.04以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 寄与濃度は、予測地域における寄与濃度の最大値を示す。 注2) 最大寄与濃度出現距離は煙突より約4,900mの位置である。</p>	項目	1時間値			環境保全目標値	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度	二酸化窒素 (ppm)	0.002	0.012	0.014	0.1以下	二酸化硫黄 (ppm)	0.003	0.01	0.013	0.1以下	浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	0.0007	0.071	0.072	0.20以下	塩化水素 (ppm)	0.003	0.001	0.004	0.02以下	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m <sup>3</sup> )	0.0007	0.13	0.13	0.6以下	水銀 (μgHg/m <sup>3</sup> )	0.002	0.004	0.006	0.04以下	項目	1時間値			環境保全目標値	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度	二酸化窒素 (ppm)	0.014	0.012	0.026	0.1以下	二酸化硫黄 (ppm)	0.018	0.01	0.028	0.1以下	浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	0.0044	0.071	0.075	0.20以下	塩化水素 (ppm)	0.018	0.001	0.019	0.02以下	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m <sup>3</sup> )	0.0044	0.13	0.13	0.6以下	水銀 (μgHg/m <sup>3</sup> )	0.013	0.004	0.017	0.04以下	項目	1時間値			環境保全目標値	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度	二酸化窒素 (ppm)	0.013	0.012	0.025	0.1以下	二酸化硫黄 (ppm)	0.016	0.01	0.026	0.1以下	浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	0.0041	0.071	0.075	0.20以下	塩化水素 (ppm)	0.016	0.001	0.017	0.02以下	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m <sup>3</sup> )	0.0041	0.13	0.13	0.6以下	水銀 (μgHg/m <sup>3</sup> )	0.012	0.004	0.016	0.04以下	項目	1時間値			環境保全目標値	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度	二酸化窒素 (ppm)	0.011	0.012	0.023	0.1以下	二酸化硫黄 (ppm)	0.014	0.01	0.024	0.1以下	浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	0.0033	0.071	0.074	0.20以下	塩化水素 (ppm)	0.014	0.001	0.015	0.02以下	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m <sup>3</sup> )	0.0033	0.13	0.13	0.6以下	水銀 (μgHg/m <sup>3</sup> )	0.010	0.004	0.014	0.04以下	項目	1時間値			環境保全目標値	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度	二酸化窒素 (ppm)	0.007	0.012	0.019	0.1以下	二酸化硫黄 (ppm)	0.008	0.01	0.018	0.1以下	浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	0.0021	0.071	0.073	0.20以下	塩化水素 (ppm)	0.008	0.001	0.009	0.02以下	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m <sup>3</sup> )	0.0021	0.13	0.13	0.6以下	水銀 (μgHg/m <sup>3</sup> )	0.006	0.004	0.010	0.04以下	<p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p> <p>なお、事後調査とは別途、自主的な環境監視調査として、施設の稼働(排ガス)に伴う大気質への影響(存在・供用)に係るモニタリング調査を継続的に実施し、環境の状況の把握に努める。</p>
					項目	1時間値			項目	1時間値																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
				寄与濃度		バックグラウンド濃度	将来濃度	寄与濃度		バックグラウンド濃度	将来濃度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
				二酸化窒素 (ppm)	0.002	0.012	0.014	塩化水素 (ppm)	0.003	0.001	0.004																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
				二酸化硫黄 (ppm)	0.003	0.01	0.013	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m <sup>3</sup> )	0.0007	0.13	0.13																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
				浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	0.0007	0.071	0.072	水銀 (μgHg/m <sup>3</sup> )	0.002	0.004	0.006																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
				項目	1時間値			項目	1時間値																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
					寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度		寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
				二酸化窒素 (ppm)	0.014	0.012	0.026	塩化水素 (ppm)	0.018	0.001	0.019																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
				二酸化硫黄 (ppm)	0.018	0.01	0.028	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m <sup>3</sup> )	0.0044	0.13	0.13																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	0.0044	0.071	0.075	水銀 (μgHg/m <sup>3</sup> )	0.013	0.004	0.017																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
項目	1時間値			項目	1時間値																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度		寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
二酸化窒素 (ppm)	0.013	0.012	0.025	塩化水素 (ppm)	0.016	0.001	0.017																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
二酸化硫黄 (ppm)	0.016	0.01	0.026	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m <sup>3</sup> )	0.0041	0.13	0.13																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	0.0041	0.071	0.075	水銀 (μgHg/m <sup>3</sup> )	0.012	0.004	0.016																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
項目	1時間値			項目	1時間値																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度		寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
二酸化窒素 (ppm)	0.011	0.012	0.023	塩化水素 (ppm)	0.014	0.001	0.015																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
二酸化硫黄 (ppm)	0.014	0.01	0.024	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m <sup>3</sup> )	0.0033	0.13	0.13																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	0.0033	0.071	0.074	水銀 (μgHg/m <sup>3</sup> )	0.010	0.004	0.014																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
項目	1時間値			項目	1時間値																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度		寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
二酸化窒素 (ppm)	0.007	0.012	0.019	塩化水素 (ppm)	0.008	0.001	0.009																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
二酸化硫黄 (ppm)	0.008	0.01	0.018	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m <sup>3</sup> )	0.0021	0.13	0.13																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	0.0021	0.071	0.073	水銀 (μgHg/m <sup>3</sup> )	0.006	0.004	0.010																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
項目	1時間値			環境保全目標値																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
二酸化窒素 (ppm)	0.002	0.012	0.014	0.1以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
二酸化硫黄 (ppm)	0.003	0.01	0.013	0.1以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	0.0007	0.071	0.072	0.20以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
塩化水素 (ppm)	0.003	0.001	0.004	0.02以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m <sup>3</sup> )	0.0007	0.13	0.13	0.6以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
水銀 (μgHg/m <sup>3</sup> )	0.002	0.004	0.006	0.04以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
項目	1時間値			環境保全目標値																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
二酸化窒素 (ppm)	0.014	0.012	0.026	0.1以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
二酸化硫黄 (ppm)	0.018	0.01	0.028	0.1以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	0.0044	0.071	0.075	0.20以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
塩化水素 (ppm)	0.018	0.001	0.019	0.02以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m <sup>3</sup> )	0.0044	0.13	0.13	0.6以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
水銀 (μgHg/m <sup>3</sup> )	0.013	0.004	0.017	0.04以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
項目	1時間値			環境保全目標値																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
二酸化窒素 (ppm)	0.013	0.012	0.025	0.1以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
二酸化硫黄 (ppm)	0.016	0.01	0.026	0.1以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	0.0041	0.071	0.075	0.20以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
塩化水素 (ppm)	0.016	0.001	0.017	0.02以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m <sup>3</sup> )	0.0041	0.13	0.13	0.6以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
水銀 (μgHg/m <sup>3</sup> )	0.012	0.004	0.016	0.04以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
項目	1時間値			環境保全目標値																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
二酸化窒素 (ppm)	0.011	0.012	0.023	0.1以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
二酸化硫黄 (ppm)	0.014	0.01	0.024	0.1以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	0.0033	0.071	0.074	0.20以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
塩化水素 (ppm)	0.014	0.001	0.015	0.02以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m <sup>3</sup> )	0.0033	0.13	0.13	0.6以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
水銀 (μgHg/m <sup>3</sup> )	0.010	0.004	0.014	0.04以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
項目	1時間値			環境保全目標値																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	寄与濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
二酸化窒素 (ppm)	0.007	0.012	0.019	0.1以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
二酸化硫黄 (ppm)	0.008	0.01	0.018	0.1以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	0.0021	0.071	0.073	0.20以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
塩化水素 (ppm)	0.008	0.001	0.009	0.02以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m <sup>3</sup> )	0.0021	0.13	0.13	0.6以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
水銀 (μgHg/m <sup>3</sup> )	0.006	0.004	0.010	0.04以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														

表 11-4 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																																											
	環境要素の区分	影響要因の区分																																																																																																
大気質	大気質 (窒素酸化物、浮遊粒子状物質)	廃棄物の搬入等	<p>廃棄物運搬車両の運行に係る寄与濃度の年平均値は、二酸化窒素が 0.0004~0.0008ppm、浮遊粒子状物質が 0.00001~0.00002mg/m<sup>3</sup> となった。また、バックグラウンド濃度を含めた予測結果(年平均値)は、二酸化窒素が 0.002~0.003ppm、浮遊粒子状物質が 0.015mg/m<sup>3</sup> となった。</p> <p style="text-align: center;">&lt; 廃棄物の搬入等に伴う二酸化窒素の予測結果 &gt;</p> <p style="text-align: right;">[単位: ppm]</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">寄与濃度</th> <th rowspan="2">バックグラウンド濃度</th> <th rowspan="2">予測結果 (年平均値)</th> </tr> <tr> <th>基礎交通量</th> <th>施設関係車両</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上新宮 古志 104 号線</td> <td>0.0000</td> <td>0.0005</td> <td rowspan="3">0.002</td> <td>0.002</td> </tr> <tr> <td>下新宮 新宮大谷線</td> <td>0.0003</td> <td>0.0004</td> <td>0.003</td> </tr> <tr> <td>古志町 地内 古志 82 号線</td> <td>0.0003</td> <td>0.0008</td> <td>0.003</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">&lt; 廃棄物の搬入等に伴う浮遊粒子状物質の予測結果 &gt;</p> <p style="text-align: right;">[単位: mg/m<sup>3</sup>]</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">寄与濃度</th> <th rowspan="2">バックグラウンド濃度</th> <th rowspan="2">予測結果 (年平均値)</th> </tr> <tr> <th>基礎交通量</th> <th>施設関係車両</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上新宮 古志 104 号線</td> <td>0.00000</td> <td>0.00002</td> <td rowspan="3">0.015</td> <td>0.015</td> </tr> <tr> <td>下新宮 新宮大谷線</td> <td>0.00001</td> <td>0.00001</td> <td>0.015</td> </tr> <tr> <td>古志町 地内 古志 82 号線</td> <td>0.00001</td> <td>0.00002</td> <td>0.015</td> </tr> </tbody> </table>	予測地点	寄与濃度		バックグラウンド濃度	予測結果 (年平均値)	基礎交通量	施設関係車両	上新宮 古志 104 号線	0.0000	0.0005	0.002	0.002	下新宮 新宮大谷線	0.0003	0.0004	0.003	古志町 地内 古志 82 号線	0.0003	0.0008	0.003	予測地点	寄与濃度		バックグラウンド濃度	予測結果 (年平均値)	基礎交通量	施設関係車両	上新宮 古志 104 号線	0.00000	0.00002	0.015	0.015	下新宮 新宮大谷線	0.00001	0.00001	0.015	古志町 地内 古志 82 号線	0.00001	0.00002	0.015	<p><b>環境保全措置の検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>運転手の教育・指導</b>: 積載量や走行速度等の交通法規を遵守し、アイドリングストップの励行や空ぶかしを行わない等、運転手の教育・指導を徹底する。</li> <li>・<b>車両の維持管理</b>: 車両の維持管理を徹底し、車両排ガス等を適正に保つ。</li> </ul>	<p><b>回避・低減に係る評価</b></p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、廃棄物の搬入等に伴う大気質への影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p> <p><b>基準又は目標との整合に係る評価</b></p> <p>廃棄物の搬入等に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の評価結果は下記に示すとおりであり、環境の保全に係る基準又は目標との整合性が図られているものと評価した。</p> <p style="text-align: center;">&lt; 廃棄物の搬入等に伴う二酸化窒素の評価結果 &gt;</p> <p style="text-align: right;">[単位: ppm]</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">寄与濃度</th> <th rowspan="2">バックグラウンド濃度</th> <th rowspan="2">予測結果 (年平均値)</th> <th rowspan="2">日平均値の年間 98% 値</th> <th rowspan="2">環境保全 目標値</th> </tr> <tr> <th>基礎交通量</th> <th>施設関係車両</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上新宮 古志 104 号線</td> <td>0.0000</td> <td>0.0005</td> <td rowspan="3">0.002</td> <td>0.002</td> <td>0.011</td> <td rowspan="3">0.04~ 0.06 の ゾーン内 又は それ以下</td> </tr> <tr> <td>下新宮 新宮大谷線</td> <td>0.0003</td> <td>0.0004</td> <td>0.003</td> <td>0.012</td> </tr> <tr> <td>古志町 地内 古志 82 号線</td> <td>0.0003</td> <td>0.0008</td> <td>0.003</td> <td>0.012</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">&lt; 廃棄物の搬入等に伴う浮遊粒子状物質の評価結果 &gt;</p> <p style="text-align: right;">[単位: mg/m<sup>3</sup>]</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">寄与濃度</th> <th rowspan="2">バックグラウンド濃度</th> <th rowspan="2">予測結果 (年平均値)</th> <th rowspan="2">日平均値の年間 2% 除外値</th> <th rowspan="2">環境保全 目標値</th> </tr> <tr> <th>基礎交通量</th> <th>施設関係車両</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上新宮 古志 104 号線</td> <td>0.00000</td> <td>0.00002</td> <td rowspan="3">0.015</td> <td>0.015</td> <td>0.039</td> <td rowspan="3">0.10 以下</td> </tr> <tr> <td>下新宮 新宮大谷線</td> <td>0.00001</td> <td>0.00001</td> <td>0.015</td> <td>0.039</td> </tr> <tr> <td>古志町 地内 古志 82 号線</td> <td>0.00001</td> <td>0.00002</td> <td>0.015</td> <td>0.039</td> </tr> </tbody> </table>	予測地点	寄与濃度		バックグラウンド濃度	予測結果 (年平均値)	日平均値の年間 98% 値	環境保全 目標値	基礎交通量	施設関係車両	上新宮 古志 104 号線	0.0000	0.0005	0.002	0.002	0.011	0.04~ 0.06 の ゾーン内 又は それ以下	下新宮 新宮大谷線	0.0003	0.0004	0.003	0.012	古志町 地内 古志 82 号線	0.0003	0.0008	0.003	0.012	予測地点	寄与濃度		バックグラウンド濃度	予測結果 (年平均値)	日平均値の年間 2% 除外値	環境保全 目標値	基礎交通量	施設関係車両	上新宮 古志 104 号線	0.00000	0.00002	0.015	0.015	0.039	0.10 以下	下新宮 新宮大谷線	0.00001	0.00001	0.015	0.039	古志町 地内 古志 82 号線	0.00001	0.00002	0.015	0.039	<p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>
予測地点	寄与濃度		バックグラウンド濃度		予測結果 (年平均値)																																																																																													
	基礎交通量	施設関係車両																																																																																																
上新宮 古志 104 号線	0.0000	0.0005	0.002	0.002																																																																																														
下新宮 新宮大谷線	0.0003	0.0004		0.003																																																																																														
古志町 地内 古志 82 号線	0.0003	0.0008		0.003																																																																																														
予測地点	寄与濃度		バックグラウンド濃度	予測結果 (年平均値)																																																																																														
	基礎交通量	施設関係車両																																																																																																
上新宮 古志 104 号線	0.00000	0.00002	0.015	0.015																																																																																														
下新宮 新宮大谷線	0.00001	0.00001		0.015																																																																																														
古志町 地内 古志 82 号線	0.00001	0.00002		0.015																																																																																														
予測地点	寄与濃度		バックグラウンド濃度	予測結果 (年平均値)	日平均値の年間 98% 値	環境保全 目標値																																																																																												
	基礎交通量	施設関係車両																																																																																																
上新宮 古志 104 号線	0.0000	0.0005	0.002	0.002	0.011	0.04~ 0.06 の ゾーン内 又は それ以下																																																																																												
下新宮 新宮大谷線	0.0003	0.0004		0.003	0.012																																																																																													
古志町 地内 古志 82 号線	0.0003	0.0008		0.003	0.012																																																																																													
予測地点	寄与濃度		バックグラウンド濃度	予測結果 (年平均値)	日平均値の年間 2% 除外値	環境保全 目標値																																																																																												
	基礎交通量	施設関係車両																																																																																																
上新宮 古志 104 号線	0.00000	0.00002	0.015	0.015	0.039	0.10 以下																																																																																												
下新宮 新宮大谷線	0.00001	0.00001		0.015	0.039																																																																																													
古志町 地内 古志 82 号線	0.00001	0.00002		0.015	0.039																																																																																													

表 11-5 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																				
	環境要素の区分	影響要因の区分																																																																									
騒音	騒音	建設機械の稼働	<p><b>現地調査結果</b></p> <p>・<b>環境騒音</b>                      上新宮地点では、休日昼間で41dB、休日夜間で32dB、平日昼間で45dB、平日夜間で28dB未満となり、いずれも環境基準値以下であった。                      古志町地内(古志82号線)付近地点では、休日昼間で43dB、休日夜間で30dB、平日昼間で44dB、平日夜間で37dBとなり、いずれも環境基準値以下であった。</p> <p>・<b>道路交通騒音</b>                      上新宮(古志104号線)地点では、休日昼間で42dB、平日昼間で47dB、平日夜間で41dBとなり、いずれも環境基準値以下であった。                      下新宮(新宮大谷線)地点では、休日昼間で60dB、休日夜間で45dB、平日昼間で59dB、平日夜間で45dBとなり、いずれも環境基準値以下であった。                      古志町地内(古志82号線)地点では、休日昼間で56dB、休日夜間で40dB、平日昼間で59dB、平日夜間で42dBとなり、いずれも環境基準値以下であった。</p>	<p>建設機械の稼働に伴う騒音レベルの予測結果は、以下に示すとおりである。</p> <p>&lt;建設機械の稼働に伴う建設作業騒音(敷地境界)の予測結果&gt;                      [単位: dB]</p> <table border="1"> <tr> <th>最大となる地点</th> <th>騒音レベル(L<sub>AS</sub>)</th> </tr> <tr> <td>東側敷地境界</td> <td>81</td> </tr> </table> <p>&lt;建設機械の稼働に伴う建設作業騒音(予測地点)の予測結果&gt;                      [単位: dB]</p> <table border="1"> <tr> <th>平日休日の別<sup>(注)</sup></th> <th>現況等価騒音レベル(L<sub>Aeq</sub>)</th> <th>実効騒音レベル(L<sub>Aeff</sub>)</th> <th>合成騒音レベル(L<sub>Aeq</sub>)(・)</th> </tr> <tr> <td>平日</td> <td>45</td> <td>53</td> <td>54</td> </tr> <tr> <td>休日</td> <td>41</td> <td>53</td> <td>53</td> </tr> </table> <p>注) 時間区分は、昼間(6時~22時)。</p>	最大となる地点	騒音レベル(L <sub>AS</sub> )	東側敷地境界	81	平日休日の別 <sup>(注)</sup>	現況等価騒音レベル(L <sub>Aeq</sub> )	実効騒音レベル(L <sub>Aeff</sub> )	合成騒音レベル(L <sub>Aeq</sub> )(・)	平日	45	53	54	休日	41	53	53	<p><b>環境保全措置の検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>低騒音型建設機械の採用</b>: できる限り低騒音型の建設機械を採用するよう努める。</li> <li>・<b>作業時間の配慮</b>: 建設機械の稼働を昼間に行う。</li> <li>・<b>建設機械の稼働分散</b>: 建設機械の稼働が可能な限り集中することがないように、使用時期や配置の分散にも努める。</li> <li>・<b>作業方法の配慮</b>: 建設機械の不要な空ぶかしの防止に努め、待機時のアイドリングストップの遵守を指導・徹底させる。</li> <li>・<b>防音シート等の設置</b>: 可能な限り防音シートや仮囲いを設置する。</li> </ul>	<p><b>回避・低減に係る評価</b>                      調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、建設機械の稼働に伴う騒音の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p> <p><b>基準又は目標との整合に係る評価</b>                      建設機械の稼働に伴う騒音の評価結果は下記に示すとおりであり、環境の保全に係る基準又は目標との整合性が図られているものと評価した。</p> <p>&lt;建設機械の稼働に伴う建設作業騒音(敷地境界)の評価結果&gt;                      [単位: dB]</p> <table border="1"> <tr> <th>最大となる地点</th> <th>騒音レベル(L<sub>AS</sub>)</th> <th>環境保全目標値</th> </tr> <tr> <td>東側敷地境界</td> <td>81</td> <td>85</td> </tr> </table> <p>&lt;建設機械の稼働に伴う建設作業騒音(予測地点)の評価結果&gt;                      [単位: dB]</p> <table border="1"> <tr> <th>平日休日の別</th> <th>現況等価騒音レベル(L<sub>Aeq</sub>)</th> <th>実効騒音レベル(L<sub>Aeff</sub>)</th> <th>合成騒音レベル(L<sub>Aeq</sub>)(・)</th> <th>環境保全目標値<sup>(注)</sup></th> </tr> <tr> <td>平日</td> <td>45</td> <td>53</td> <td>54</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>休日</td> <td>41</td> <td>53</td> <td>53</td> <td>55</td> </tr> </table> <p>注) 「騒音に係る環境基準」のB類型の昼間(6:00-22:00)の基準を適用した。</p>	最大となる地点	騒音レベル(L <sub>AS</sub> )	環境保全目標値	東側敷地境界	81	85	平日休日の別	現況等価騒音レベル(L <sub>Aeq</sub> )	実効騒音レベル(L <sub>Aeff</sub> )	合成騒音レベル(L <sub>Aeq</sub> )(・)	環境保全目標値 <sup>(注)</sup>	平日	45	53	54	55	休日	41	53	53	55	<p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>																															
		最大となる地点	騒音レベル(L <sub>AS</sub> )																																																																								
東側敷地境界	81																																																																										
平日休日の別 <sup>(注)</sup>	現況等価騒音レベル(L <sub>Aeq</sub> )	実効騒音レベル(L <sub>Aeff</sub> )	合成騒音レベル(L <sub>Aeq</sub> )(・)																																																																								
平日	45	53	54																																																																								
休日	41	53	53																																																																								
最大となる地点	騒音レベル(L <sub>AS</sub> )	環境保全目標値																																																																									
東側敷地境界	81	85																																																																									
平日休日の別	現況等価騒音レベル(L <sub>Aeq</sub> )	実効騒音レベル(L <sub>Aeff</sub> )	合成騒音レベル(L <sub>Aeq</sub> )(・)	環境保全目標値 <sup>(注)</sup>																																																																							
平日	45	53	54	55																																																																							
休日	41	53	53	55																																																																							
		資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	<p>資材等運搬車両を付加した騒音レベルは56~62dBとなった。</p> <p>&lt;資材等運搬車両の運行に伴う道路交通騒音(L<sub>Aeq</sub>)の予測結果&gt;                      [単位: dB]</p> <table border="1"> <tr> <th></th> <th>予測地点</th> <th>現況騒音レベル</th> <th>予測結果</th> <th>資材等運搬車両による増加分</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">平日</td> <td>上新宮(古志104号線)</td> <td>47</td> <td>57</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>下新宮(新宮大谷線)</td> <td>59</td> <td>61</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>古志町地内(古志82号線)</td> <td>59</td> <td>62</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">休日</td> <td>上新宮(古志104号線)</td> <td>47</td> <td>56</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>下新宮(新宮大谷線)</td> <td>60</td> <td>62</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>古志町地内(古志82号線)</td> <td>56</td> <td>60</td> <td>4</td> </tr> </table>		予測地点	現況騒音レベル	予測結果	資材等運搬車両による増加分	平日	上新宮(古志104号線)	47	57	10	下新宮(新宮大谷線)	59	61	2	古志町地内(古志82号線)	59	62	3	休日	上新宮(古志104号線)	47	56	9	下新宮(新宮大谷線)	60	62	2	古志町地内(古志82号線)	56	60	4	<p><b>環境保全措置の検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>運搬車両台数の低減</b>: 土地の改変に伴う発生土砂は、極力、都市計画対象事業実施区域内で再利用するとともに、近傍の他事業において有効利用し、周辺道路を走行する工事用車両の台数を減らす。</li> <li>・<b>車両の維持管理</b>: 車両の維持管理を徹底する。</li> <li>・<b>運行時間の分散</b>: 沿道の通行時間帯の分散に努める。</li> <li>・<b>運転手の教育・指導</b>: 積載量や走行速度等の交通法規を遵守し、アイドリングストップの励行や空ぶかしを行わない等、運転手の教育・指導を徹底する。</li> </ul>	<p><b>回避・低減に係る評価</b>                      調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、資材等運搬車両の運行に伴う騒音の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p> <p><b>基準又は目標との整合に係る評価</b>                      資材等運搬車両の運行に伴う騒音の評価結果は下記に示すとおりであり、環境の保全に係る基準又は目標との整合性が図られているものと評価した。</p> <p>&lt;資材等運搬車両の運行に伴う道路交通騒音(L<sub>Aeq</sub>)の評価結果&gt;                      [単位: dB]</p> <table border="1"> <tr> <th></th> <th>予測地点</th> <th>現況騒音レベル</th> <th>予測結果</th> <th>環境保全目標値<sup>(注)</sup></th> <th>資材等運搬車両による増加分</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">平日</td> <td>上新宮(古志104号線)</td> <td>47</td> <td>57</td> <td>65</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>下新宮(新宮大谷線)</td> <td>59</td> <td>61</td> <td>65</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>古志町地内(古志82号線)</td> <td>59</td> <td>62</td> <td>65</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">休日</td> <td>上新宮(古志104号線)</td> <td>47</td> <td>56</td> <td>65</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>下新宮(新宮大谷線)</td> <td>60</td> <td>62</td> <td>65</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>古志町地内(古志82号線)</td> <td>56</td> <td>60</td> <td>65</td> <td>4</td> </tr> </table> <p>注) 「騒音に係る環境基準」のB類型の昼間(6:00-22:00)の基準を適用した。</p>		予測地点	現況騒音レベル	予測結果	環境保全目標値 <sup>(注)</sup>	資材等運搬車両による増加分	平日	上新宮(古志104号線)	47	57	65	10	下新宮(新宮大谷線)	59	61	65	2	古志町地内(古志82号線)	59	62	65	3	休日	上新宮(古志104号線)	47	56	65	9	下新宮(新宮大谷線)	60	62	65	2	古志町地内(古志82号線)	56	60	65	4	<p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>
	予測地点	現況騒音レベル	予測結果	資材等運搬車両による増加分																																																																							
平日	上新宮(古志104号線)	47	57	10																																																																							
	下新宮(新宮大谷線)	59	61	2																																																																							
	古志町地内(古志82号線)	59	62	3																																																																							
休日	上新宮(古志104号線)	47	56	9																																																																							
	下新宮(新宮大谷線)	60	62	2																																																																							
	古志町地内(古志82号線)	56	60	4																																																																							
	予測地点	現況騒音レベル	予測結果	環境保全目標値 <sup>(注)</sup>	資材等運搬車両による増加分																																																																						
平日	上新宮(古志104号線)	47	57	65	10																																																																						
	下新宮(新宮大谷線)	59	61	65	2																																																																						
	古志町地内(古志82号線)	59	62	65	3																																																																						
休日	上新宮(古志104号線)	47	56	65	9																																																																						
	下新宮(新宮大谷線)	60	62	65	2																																																																						
	古志町地内(古志82号線)	56	60	65	4																																																																						

表 11-6 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																						
	環境要素の区分	影響要因の区分																																																																											
騒音	騒音	施設の稼働 (機械等の稼働)	<p>施設の稼働に伴う騒音レベルの予測結果は、以下に示すとおりである。</p> <p>&lt;施設の稼働に伴う騒音レベルの予測結果(最大地点)&gt; [単位: dB]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>最大となる地点</th> <th>予測結果(L<sub>AS</sub>)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>最大地点(敷地境界)</td> <td>西側敷地境界</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt;施設の稼働に伴う騒音レベルの予測結果(上新宮)&gt; [単位: dB]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">区分</th> <th rowspan="2">予測結果<sup>注1)</sup>(L<sub>AS</sub>)</th> <th rowspan="2">現況値(L<sub>Aeq</sub>)</th> <th rowspan="2">予測結果<sup>注3)</sup>(L<sub>Aeq</sub>)</th> </tr> <tr> <th>平日</th> <th>休日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">上新宮</td> <td rowspan="2">平日</td> <td>昼間</td> <td rowspan="4">32</td> <td>45</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>28<sup>注2)</sup></td> <td>33</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">休日</td> <td>昼間</td> <td>41</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>32</td> <td>35</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 施設からの寄与レベルを示す。 注2) 騒音計の測定下限値である28dB未満であったが、本予測においては28dBとして考慮した。 注3) 予測結果は、施設からの寄与(L<sub>AS</sub>)を安全側で等価騒音レベル(L<sub>Aeq</sub>)として扱い、予測地点における現況調査結果(L<sub>Aeq</sub>)と合成した値である。</p>	予測地点	最大となる地点	予測結果(L <sub>AS</sub> )	最大地点(敷地境界)	西側敷地境界	50	予測地点	区分		予測結果 <sup>注1)</sup> (L <sub>AS</sub> )	現況値(L <sub>Aeq</sub> )	予測結果 <sup>注3)</sup> (L <sub>Aeq</sub> )	平日	休日	上新宮	平日	昼間	32	45	45	夜間	28 <sup>注2)</sup>	33	休日	昼間	41	42	夜間	32	35	<p>環境保全措置の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>騒音発生機器の配慮: できる限り低騒音型の設備機器を採用する。また、大きな騒音を発生する機器は防音構造の室内に収納し、必要に応じて消音器の設置や防音扉の設置等の対策を行う。</li> </ul>	<p>回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、施設の稼働に伴う騒音の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p> <p>基準又は目標との整合に係る評価</p> <p>施設の稼働に伴う騒音の評価結果は下記に示すとおりであり、環境の保全に係る基準又は目標との整合性が図られているものと評価した。</p> <p>&lt;施設の稼働に伴う騒音レベルの評価結果(最大地点)&gt; [単位: dB]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>区分</th> <th>最大となる地点</th> <th>予測結果(L<sub>AS</sub>)</th> <th>環境保全目標値(L<sub>AS</sub>)<sup>注)</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">最大地点(敷地境界)</td> <td>昼間</td> <td rowspan="2">西側敷地境界</td> <td rowspan="2">50</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 予測地点は「特定工場等において発生する騒音の規制に関する基準」の規制地域外になっているが、古志町の一部が第3種区域に指定されているため、当該地域の規制基準を適用した。なお、昼間については、朝～夕の時間帯に係る各基準値のうち、最も厳しい朝・夕の時間帯の基準値を適用した。</p> <p>&lt;施設の稼働に伴う騒音レベルの評価結果(上新宮)&gt; [単位: dB]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">区分</th> <th rowspan="2">予測結果<sup>注1)</sup>(L<sub>AS</sub>)</th> <th rowspan="2">現況値(L<sub>Aeq</sub>)</th> <th rowspan="2">予測結果<sup>注2)</sup>(L<sub>Aeq</sub>)</th> <th rowspan="2">環境保全目標値<sup>注3)</sup>(L<sub>Aeq</sub>)</th> </tr> <tr> <th>平日</th> <th>休日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">上新宮</td> <td rowspan="2">平日</td> <td>昼間</td> <td rowspan="4">32</td> <td>45</td> <td>45</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>28</td> <td>33</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">休日</td> <td>昼間</td> <td>41</td> <td>42</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>32</td> <td>35</td> <td>45</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 施設からの寄与レベルを示す。 注2) 予測結果は、施設からの寄与(L<sub>AS</sub>)を安全側で等価騒音レベル(L<sub>Aeq</sub>)として扱い、予測地点における現況調査結果(L<sub>Aeq</sub>)と合成した値である。 注3) 「騒音に係る環境基準」のB類型の昼間(6:00-22:00)の基準を適用した。</p>	予測地点	区分	最大となる地点	予測結果(L <sub>AS</sub> )	環境保全目標値(L <sub>AS</sub> ) <sup>注)</sup>	最大地点(敷地境界)	昼間	西側敷地境界	50	60	夜間	50	予測地点	区分		予測結果 <sup>注1)</sup> (L <sub>AS</sub> )	現況値(L <sub>Aeq</sub> )	予測結果 <sup>注2)</sup> (L <sub>Aeq</sub> )	環境保全目標値 <sup>注3)</sup> (L <sub>Aeq</sub> )	平日	休日	上新宮	平日	昼間	32	45	45	55	夜間	28	33	45	休日	昼間	41	42	55	夜間	32	35	45	<p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p> <p>なお、事後調査とは別途、自主的な環境監視調査として施設の稼働(機械等の稼働)に伴う騒音に係るモニタリング調査を継続的に実施し、環境の状況の把握に努める。</p>
		予測地点		最大となる地点	予測結果(L <sub>AS</sub> )																																																																								
最大地点(敷地境界)	西側敷地境界	50																																																																											
予測地点	区分		予測結果 <sup>注1)</sup> (L <sub>AS</sub> )	現況値(L <sub>Aeq</sub> )	予測結果 <sup>注3)</sup> (L <sub>Aeq</sub> )																																																																								
	平日	休日																																																																											
上新宮	平日	昼間	32	45	45																																																																								
		夜間		28 <sup>注2)</sup>	33																																																																								
	休日	昼間		41	42																																																																								
		夜間		32	35																																																																								
予測地点	区分	最大となる地点	予測結果(L <sub>AS</sub> )	環境保全目標値(L <sub>AS</sub> ) <sup>注)</sup>																																																																									
最大地点(敷地境界)	昼間	西側敷地境界	50	60																																																																									
	夜間			50																																																																									
予測地点	区分		予測結果 <sup>注1)</sup> (L <sub>AS</sub> )	現況値(L <sub>Aeq</sub> )	予測結果 <sup>注2)</sup> (L <sub>Aeq</sub> )	環境保全目標値 <sup>注3)</sup> (L <sub>Aeq</sub> )																																																																							
	平日	休日																																																																											
上新宮	平日	昼間	32	45	45	55																																																																							
		夜間		28	33	45																																																																							
	休日	昼間		41	42	55																																																																							
		夜間		32	35	45																																																																							
廃棄物の搬入等	<p>施設関連車両台数を付加した騒音レベルは57～65dBとなった。</p> <p>&lt;廃棄物の搬入等に伴う道路交通騒音(L<sub>Aeq</sub>)の予測結果&gt; [単位: dB]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>予測地点</th> <th>現況騒音レベル</th> <th>予測結果</th> <th>施設関係車両による増加分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">平日</td> <td>上新宮(古志104号線)</td> <td>47</td> <td>61</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>下新宮(新宮大谷線)</td> <td>59</td> <td>63</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>古志町地内(古志82号線)</td> <td>59</td> <td>65</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">休日</td> <td>上新宮(古志104号線)</td> <td>47</td> <td>57</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>下新宮(新宮大谷線)</td> <td>60</td> <td>62</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>古志町地内(古志82号線)</td> <td>56</td> <td>61</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>		予測地点	現況騒音レベル	予測結果	施設関係車両による増加分	平日	上新宮(古志104号線)	47	61	14	下新宮(新宮大谷線)	59	63	4	古志町地内(古志82号線)	59	65	6	休日	上新宮(古志104号線)	47	57	10	下新宮(新宮大谷線)	60	62	2	古志町地内(古志82号線)	56	61	5	<p>環境保全措置の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運転手の教育・指導: 走行速度等の交通法規を遵守し、アイドリングストップの励行や空ぶかしを行わない等、運転手の教育・指導を徹底する。</li> <li>車両の維持管理: 車両の維持管理を徹底する。</li> </ul>	<p>回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、廃棄物の搬入等に伴う騒音の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p> <p>基準又は目標との整合に係る評価</p> <p>廃棄物の搬入等に伴う騒音の評価結果は下記に示すとおりであり、環境の保全に係る基準又は目標との整合性が図られているものと評価した。</p> <p>&lt;廃棄物の搬入等に伴う道路交通騒音(L<sub>Aeq</sub>)の評価結果&gt; [単位: dB]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>予測地点</th> <th>現況騒音レベル</th> <th>予測結果</th> <th>環境保全目標値<sup>注)</sup></th> <th>施設関係車両による増加分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">平日</td> <td>上新宮(古志104号線)</td> <td>47</td> <td>61</td> <td rowspan="6">65</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>下新宮(新宮大谷線)</td> <td>59</td> <td>63</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>古志町地内(古志82号線)</td> <td>59</td> <td>65</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">休日</td> <td>上新宮(古志104号線)</td> <td>47</td> <td>57</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>下新宮(新宮大谷線)</td> <td>60</td> <td>62</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>古志町地内(古志82号線)</td> <td>56</td> <td>61</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 「騒音に係る環境基準」のB類型の昼間(6:00-22:00)の基準を適用した。</p>		予測地点	現況騒音レベル	予測結果	環境保全目標値 <sup>注)</sup>	施設関係車両による増加分	平日	上新宮(古志104号線)	47	61	65	14	下新宮(新宮大谷線)	59	63	4	古志町地内(古志82号線)	59	65	6	休日	上新宮(古志104号線)	47	57	10	下新宮(新宮大谷線)	60	62	2	古志町地内(古志82号線)	56	61	5	<p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>									
	予測地点	現況騒音レベル	予測結果	施設関係車両による増加分																																																																									
平日	上新宮(古志104号線)	47	61	14																																																																									
	下新宮(新宮大谷線)	59	63	4																																																																									
	古志町地内(古志82号線)	59	65	6																																																																									
休日	上新宮(古志104号線)	47	57	10																																																																									
	下新宮(新宮大谷線)	60	62	2																																																																									
	古志町地内(古志82号線)	56	61	5																																																																									
	予測地点	現況騒音レベル	予測結果	環境保全目標値 <sup>注)</sup>	施設関係車両による増加分																																																																								
平日	上新宮(古志104号線)	47	61	65	14																																																																								
	下新宮(新宮大谷線)	59	63		4																																																																								
	古志町地内(古志82号線)	59	65		6																																																																								
休日	上新宮(古志104号線)	47	57		10																																																																								
	下新宮(新宮大谷線)	60	62		2																																																																								
	古志町地内(古志82号線)	56	61		5																																																																								

表 11-7 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																														
	環境要素の区分	影響要因の区分																																																																			
振動	振動	建設機械の稼働	<p><b>現地調査結果</b></p> <p>・<b>環境振動</b>                      上新宮地点では、平日昼間、平日夜間、休日昼間、休日夜間ともに25dB未満であり、いずれも振動感覚閾値（人が振動を感じ始める値:55dB）以下であった。                      古志町地内（古志82号線）付近地点では、平日昼間、平日夜間、休日昼間、休日夜間ともに25dB未満であり、いずれも振動感覚閾値（人が振動を感じ始める値:55dB）以下であった。</p> <p>・<b>道路交通振動</b>                      上新宮（古志104号線）地点では、平日昼間、平日夜間、休日昼間、休日夜間ともに25dB未満であり、いずれも要請限度値以下であった。                      下新宮（新宮大谷線）地点では、平日昼間:25dB、平日夜間:25dB未満、休日昼間:25dB、休日夜間:25dBで、いずれも要請限度値以下であった。                      古志町地内（古志82号線）地点では、平日昼間、平日夜間、休日昼間、休日夜間ともに25dB未満であり、いずれも要請限度値以下であった。</p>	<p>建設機械の稼働に伴う振動レベルの予測結果は、以下に示すとおりである。</p> <p>&lt; 建設機械の稼働に伴う建設作業振動（敷地境界）の予測結果 &gt;                      [単位：dB]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>最大となる地点</th> <th>振動レベル(L<sub>10</sub>)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東側敷地境界</td> <td>65</td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt; 建設機械の稼働に伴う建設作業振動（敷地境界）の予測結果 &gt;                      [単位：dB]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平日休日の別<sup>注)</sup></th> <th>現況振動レベル(L<sub>10</sub>)</th> <th>振動レベル(L<sub>10</sub>)</th> <th>合成振動レベル(L<sub>10</sub>) (・)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平日</td> <td>25</td> <td>29</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>休日</td> <td>25</td> <td>29</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 時間区分は、昼間(6時～22時)。</p>	最大となる地点	振動レベル(L <sub>10</sub> )	東側敷地境界	65	平日休日の別 <sup>注)</sup>	現況振動レベル(L <sub>10</sub> )	振動レベル(L <sub>10</sub> )	合成振動レベル(L <sub>10</sub> ) (・)	平日	25	29	30	休日	25	29	30	<p><b>環境保全措置の検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>低振動型建設機械の採用</b>：できる限り低振動型の建設機械を採用するよう努める。</li> <li>・<b>作業時間の配慮</b>：建設機械の稼働を昼間に行う。</li> <li>・<b>建設機械の稼働分散</b>：建設機械の稼働が可能な限り集中することがないように、使用時期や配置の分散にも努める。</li> <li>・<b>作業方法の配慮</b>：建設機械の不要な空ぶかしの防止に努め、待機時のアイドリングストップの遵守を指導・徹底させる。</li> </ul>	<p><b>回避・低減に係る評価</b>                      調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、建設機械の稼働に伴う振動の影響は、左記の環境保全措置を講ずることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p> <p><b>基準又は目標との整合に係る評価</b>                      建設機械の稼働に伴う振動の評価結果は下記に示すとおりであり、環境の保全に係る基準又は目標との整合性が図られているものと評価した。</p> <p>&lt; 建設機械の稼働に伴う建設作業振動（敷地境界）の評価結果 &gt;                      [単位：dB]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>最大となる地点</th> <th>振動レベル(L<sub>10</sub>)</th> <th>環境保全目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東側敷地境界</td> <td>65</td> <td>75以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt; 建設機械の稼働に伴う建設作業振動（敷地境界）の評価結果 &gt;                      [単位：dB]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平日休日の別</th> <th>現況振動レベル(L<sub>10</sub>)</th> <th>振動レベル(L<sub>10</sub>)</th> <th>合成振動レベル(L<sub>10</sub>) (・)</th> <th>環境保全目標値<sup>注)</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平日</td> <td>25</td> <td>29</td> <td>30</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>休日</td> <td>25</td> <td>29</td> <td>30</td> <td>55</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 振動の感覚閾値（人が振動を感じ始める値：55dB）を適用した。</p>	最大となる地点	振動レベル(L <sub>10</sub> )	環境保全目標値	東側敷地境界	65	75以下	平日休日の別	現況振動レベル(L <sub>10</sub> )	振動レベル(L <sub>10</sub> )	合成振動レベル(L <sub>10</sub> ) (・)	環境保全目標値 <sup>注)</sup>	平日	25	29	30	55	休日	25	29	30	55	<p>採用した予測手法は、その予測精度に係る見解が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>																									
		最大となる地点	振動レベル(L <sub>10</sub> )																																																																		
東側敷地境界	65																																																																				
平日休日の別 <sup>注)</sup>	現況振動レベル(L <sub>10</sub> )	振動レベル(L <sub>10</sub> )	合成振動レベル(L <sub>10</sub> ) (・)																																																																		
平日	25	29	30																																																																		
休日	25	29	30																																																																		
最大となる地点	振動レベル(L <sub>10</sub> )	環境保全目標値																																																																			
東側敷地境界	65	75以下																																																																			
平日休日の別	現況振動レベル(L <sub>10</sub> )	振動レベル(L <sub>10</sub> )	合成振動レベル(L <sub>10</sub> ) (・)	環境保全目標値 <sup>注)</sup>																																																																	
平日	25	29	30	55																																																																	
休日	25	29	30	55																																																																	
資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	<p>資材及び機械の運搬に用いる車両の運行</p> <p>・<b>地盤卓越振動数</b>                      各地点の地盤卓越振動数は18.0～35.1Hzであった。</p>	<p>工用車両を付加した振動レベルは35～38dBとなった。</p> <p>&lt; 資材等運搬車両の運行に伴う道路交通振動（L<sub>10</sub>）の予測結果 &gt;                      [単位：dB]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>予測地点</th> <th>現況振動レベル<sup>注)</sup></th> <th>予測結果</th> <th>資材等運搬車両による増加分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">平日</td> <td>上新宮(古志104号線)</td> <td>25</td> <td>35</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>下新宮(新宮大谷線)</td> <td>25</td> <td>35</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>古志町地内(古志82号線)</td> <td>25</td> <td>38</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">休日</td> <td>上新宮(古志104号線)</td> <td>25</td> <td>35</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>下新宮(新宮大谷線)</td> <td>25</td> <td>35</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>古志町地内(古志82号線)</td> <td>25</td> <td>38</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 現況振動レベルは、予測結果が最大となる時間帯の振動レベルの実測値を示す。</p>		予測地点	現況振動レベル <sup>注)</sup>	予測結果	資材等運搬車両による増加分	平日	上新宮(古志104号線)	25	35	10	下新宮(新宮大谷線)	25	35	10	古志町地内(古志82号線)	25	38	13	休日	上新宮(古志104号線)	25	35	10	下新宮(新宮大谷線)	25	35	10	古志町地内(古志82号線)	25	38	13	<p><b>環境保全措置の検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>運搬車両台数の低減</b>：土地の改変に伴う発生土砂は、極力、都市計画対象事業実施区域内で再利用するとともに、近傍の他事業において有効利用し、周辺道路を走行する工用車両の台数を減らす。</li> <li>・<b>車両の維持管理</b>：車両の維持管理を徹底する。</li> <li>・<b>運行時間の分散</b>：沿道の通行時間帯の分散に努める。</li> <li>・<b>運転手の教育・指導</b>：積載量や走行速度等の交通法規を遵守し、アイドリングストップの励行や空ぶかしを行わない等、運転手の教育・指導を徹底する。</li> </ul>	<p><b>回避・低減に係る評価</b>                      調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、資材等運搬車両の運行に伴う振動の影響は、左記の環境保全措置を講ずることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p> <p><b>基準又は目標との整合に係る評価</b>                      資材等運搬車両の運行に伴う振動の評価結果は下記に示すとおりであり、環境の保全に係る基準又は目標との整合性が図られているものと評価した。</p> <p>&lt; 資材等運搬車両の運行に伴う道路交通振動（L<sub>10</sub>）の評価結果 &gt;                      [単位：dB]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>予測地点</th> <th>現況振動レベル<sup>注)</sup></th> <th>予測結果</th> <th>環境保全目標値<sup>注2)</sup></th> <th>資材等運搬車両による増加分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">平日</td> <td>上新宮(古志104号線)</td> <td>25</td> <td>35</td> <td rowspan="6">70</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>下新宮(新宮大谷線)</td> <td>25</td> <td>35</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>古志町地内(古志82号線)</td> <td>25</td> <td>38</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">休日</td> <td>上新宮(古志104号線)</td> <td>25</td> <td>35</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>下新宮(新宮大谷線)</td> <td>25</td> <td>35</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>古志町地内(古志82号線)</td> <td>25</td> <td>38</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 現況振動レベルは、予測結果が最大となる時間帯の振動レベルの実測値を示す。                      注2) 「道路交通振動の要請限度」の第2種地域の昼間の値を適用した。</p>		予測地点	現況振動レベル <sup>注)</sup>	予測結果	環境保全目標値 <sup>注2)</sup>	資材等運搬車両による増加分	平日	上新宮(古志104号線)	25	35	70	10	下新宮(新宮大谷線)	25	35	10	古志町地内(古志82号線)	25	38	13	休日	上新宮(古志104号線)	25	35	10	下新宮(新宮大谷線)	25	35	10	古志町地内(古志82号線)	25	38	13	<p>採用した予測手法は、その予測精度に係る見解が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>
	予測地点	現況振動レベル <sup>注)</sup>	予測結果	資材等運搬車両による増加分																																																																	
平日	上新宮(古志104号線)	25	35	10																																																																	
	下新宮(新宮大谷線)	25	35	10																																																																	
	古志町地内(古志82号線)	25	38	13																																																																	
休日	上新宮(古志104号線)	25	35	10																																																																	
	下新宮(新宮大谷線)	25	35	10																																																																	
	古志町地内(古志82号線)	25	38	13																																																																	
	予測地点	現況振動レベル <sup>注)</sup>	予測結果	環境保全目標値 <sup>注2)</sup>	資材等運搬車両による増加分																																																																
平日	上新宮(古志104号線)	25	35	70	10																																																																
	下新宮(新宮大谷線)	25	35		10																																																																
	古志町地内(古志82号線)	25	38		13																																																																
休日	上新宮(古志104号線)	25	35		10																																																																
	下新宮(新宮大谷線)	25	35		10																																																																
	古志町地内(古志82号線)	25	38		13																																																																

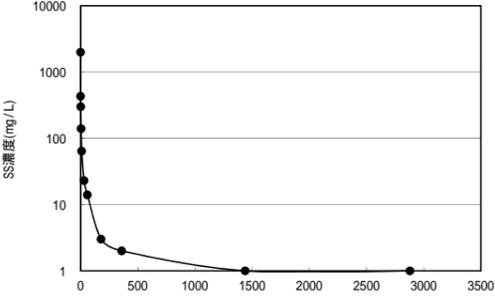
表 11-8 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																			
	環境要素の区分	影響要因の区分																																																																								
振動	振動	施設の稼働 (機械等の稼働)	<p>施設の稼働に伴う振動レベルの予測結果は、以下に示すとおりである。</p> <p>&lt;施設の稼働に伴う振動レベルの予測結果(最大地点)&gt; [単位: dB]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>最大地点</th> <th>最大となる地点</th> <th>予測結果(L<sub>10</sub>)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>最大地点(敷地境界)</td> <td>西側敷地境界</td> <td>54</td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt;施設の稼働に伴う振動レベルの予測結果(上新宮)&gt; [単位: dB]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">区分</th> <th rowspan="2">予測結果<sup>注1)</sup> (L<sub>10</sub>)</th> <th rowspan="2">現況値<sup>注2)</sup> (L<sub>10</sub>)</th> <th rowspan="2">予測結果<sup>注3)</sup> (L<sub>10</sub>)</th> </tr> <tr> <th>平日</th> <th>夜間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">上新宮</td> <td rowspan="2">平日</td> <td>昼間</td> <td rowspan="4">14</td> <td>25</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>25</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">休日</td> <td>昼間</td> <td>25</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>25</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 施設からの寄与レベルを示す。 注2) 現況値は、振動計の測定下限値である25dB未満であったが、本予測においては25dBとして考慮した。 注3) 施設からの寄与(L<sub>10</sub>)と予測地点における現況調査結果(L<sub>10</sub>)を合成した値である。</p>	最大地点	最大となる地点	予測結果(L <sub>10</sub> )	最大地点(敷地境界)	西側敷地境界	54	予測地点	区分		予測結果 <sup>注1)</sup> (L <sub>10</sub> )	現況値 <sup>注2)</sup> (L <sub>10</sub> )	予測結果 <sup>注3)</sup> (L <sub>10</sub> )	平日	夜間	上新宮	平日	昼間	14	25	25	夜間	25	25	休日	昼間	25	25	夜間	25	25	<p>環境保全措置の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>振動発生機器の配慮: できる限り低振動型の設備機器を採用し、また、大きな振動源となる機器は強固な基礎や独立基礎上に設置する。</li> </ul>	<p>回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、施設の稼働に伴う振動の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p> <p>基準又は目標との整合に係る評価</p> <p>施設の稼働に伴う振動の評価結果は下記に示すとおりであり、環境の保全に係る基準又は目標との整合性が図られているものと評価した。</p> <p>&lt;施設の稼働に伴う振動レベルの評価結果(最大地点)&gt; [単位: dB]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>最大地点</th> <th>区分</th> <th>最大となる地点</th> <th>予測結果(L<sub>10</sub>)</th> <th>環境保全目標値(L<sub>10</sub>)<sup>注)</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">最大地点(敷地境界)</td> <td>昼間</td> <td rowspan="2">西側敷地境界</td> <td rowspan="2">54</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>60</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 予測地点は「特定工場等において発生する振動の規制に関する基準」の規制地域外になっているが、古志町の一部が第2種区域に指定されているため、当該地域の規制基準を適用した。</p> <p>&lt;施設の稼働に伴う振動レベルの評価結果(上新宮)&gt; [単位: dB]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">区分</th> <th rowspan="2">予測結果<sup>注1)</sup> (L<sub>10</sub>)</th> <th rowspan="2">現況値<sup>注2)</sup> (L<sub>10</sub>)</th> <th rowspan="2">予測結果<sup>注3)</sup> (L<sub>10</sub>)</th> <th rowspan="2">環境保全目標値<sup>注3)</sup> (L<sub>10</sub>)</th> </tr> <tr> <th>平日</th> <th>夜間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">上新宮</td> <td rowspan="2">平日</td> <td>昼間</td> <td rowspan="4">14</td> <td>25</td> <td>25</td> <td rowspan="4">55</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>25</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">休日</td> <td>昼間</td> <td>25</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>25</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 施設からの寄与レベルを示す。 注2) 予測結果は、施設からの寄与(L<sub>10</sub>)と予測地点における現況調査結果(L<sub>10</sub>)を合成した値である。 注3) 振動の感覚閾値(人が振動を感じ始める値:55dB)を適用した。</p>	最大地点	区分	最大となる地点	予測結果(L <sub>10</sub> )	環境保全目標値(L <sub>10</sub> ) <sup>注)</sup>	最大地点(敷地境界)	昼間	西側敷地境界	54	65	夜間	60	予測地点	区分		予測結果 <sup>注1)</sup> (L <sub>10</sub> )	現況値 <sup>注2)</sup> (L <sub>10</sub> )	予測結果 <sup>注3)</sup> (L <sub>10</sub> )	環境保全目標値 <sup>注3)</sup> (L <sub>10</sub> )	平日	夜間	上新宮	平日	昼間	14	25	25	55	夜間	25	25	休日	昼間	25	25	夜間	25	25	<p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p> <p>なお、事後調査とは別途、自主的な環境監視調査として施設の稼働(機械等の稼働)に伴う振動に係るモニタリング調査を継続的に実施し、環境の状況の把握に努める。</p>
		最大地点	最大となる地点	予測結果(L <sub>10</sub> )																																																																						
最大地点(敷地境界)	西側敷地境界	54																																																																								
予測地点	区分		予測結果 <sup>注1)</sup> (L <sub>10</sub> )	現況値 <sup>注2)</sup> (L <sub>10</sub> )	予測結果 <sup>注3)</sup> (L <sub>10</sub> )																																																																					
	平日	夜間																																																																								
上新宮	平日	昼間	14	25	25																																																																					
		夜間		25	25																																																																					
	休日	昼間		25	25																																																																					
		夜間		25	25																																																																					
最大地点	区分	最大となる地点	予測結果(L <sub>10</sub> )	環境保全目標値(L <sub>10</sub> ) <sup>注)</sup>																																																																						
最大地点(敷地境界)	昼間	西側敷地境界	54	65																																																																						
	夜間			60																																																																						
予測地点	区分		予測結果 <sup>注1)</sup> (L <sub>10</sub> )	現況値 <sup>注2)</sup> (L <sub>10</sub> )	予測結果 <sup>注3)</sup> (L <sub>10</sub> )	環境保全目標値 <sup>注3)</sup> (L <sub>10</sub> )																																																																				
	平日	夜間																																																																								
上新宮	平日	昼間	14	25	25	55																																																																				
		夜間		25	25																																																																					
	休日	昼間		25	25																																																																					
		夜間		25	25																																																																					
	廃棄物の搬入等	<p>施設関連車両台数を付加した振動レベルは31~37dBとなった。</p> <p>&lt;廃棄物の搬入等に伴う道路交通振動(L<sub>10</sub>)の予測結果&gt; [単位: dB]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>予測地点</th> <th>現況振動レベル<sup>注)</sup></th> <th>予測結果</th> <th>交通量増加台数による増加分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">平日</td> <td>上新宮(古志104号線)</td> <td>25</td> <td>37</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>下新宮(新宮大谷線)</td> <td>25</td> <td>37</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>古志町地内(古志82号線)</td> <td>25</td> <td>35</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">休日</td> <td>上新宮(古志104号線)</td> <td>25</td> <td>36</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>下新宮(新宮大谷線)</td> <td>25</td> <td>31</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>古志町地内(古志82号線)</td> <td>25</td> <td>34</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 現況振動レベルは、施設関係車両が走行する時間帯の中で予測結果が最大となる時間帯の振動レベルの実測値を示す。</p>		予測地点	現況振動レベル <sup>注)</sup>	予測結果	交通量増加台数による増加分	平日	上新宮(古志104号線)	25	37	12	下新宮(新宮大谷線)	25	37	12	古志町地内(古志82号線)	25	35	10	休日	上新宮(古志104号線)	25	36	11	下新宮(新宮大谷線)	25	31	6	古志町地内(古志82号線)	25	34	9	<p>環境保全措置の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運転手の教育・指導: 走行速度等の交通法規を遵守し、アイドリングストップの励行や空ぶかしを行わない等、運転手の教育・指導を徹底する。</li> </ul>	<p>回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、廃棄物の搬入等に伴う振動の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p> <p>基準又は目標との整合に係る評価</p> <p>廃棄物の搬入等に伴う振動の評価結果は下記に示すとおりであり、環境の保全に係る基準又は目標との整合性が図られているものと評価した。</p> <p>&lt;廃棄物の搬入等に伴う道路交通振動(L<sub>10</sub>)の評価結果&gt; [単位: dB]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>予測地点</th> <th>現況振動レベル<sup>注1)</sup></th> <th>予測結果</th> <th>環境保全目標値<sup>注2)</sup></th> <th>交通量増加台数による増加分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">平日</td> <td>上新宮(古志104号線)</td> <td>25</td> <td>37</td> <td rowspan="3">70</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>下新宮(新宮大谷線)</td> <td>25</td> <td>37</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>古志町地内(古志82号線)</td> <td>25</td> <td>35</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">休日</td> <td>上新宮(古志104号線)</td> <td>25</td> <td>36</td> <td rowspan="3">70</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>下新宮(新宮大谷線)</td> <td>25</td> <td>31</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>古志町地内(古志82号線)</td> <td>25</td> <td>34</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 現況振動レベルは、予測結果が最大となる時間帯の振動レベルの実測値を示す。 注2) 「道路交通振動の要請限度」の第2種地域の昼間の値を適用した。</p>		予測地点	現況振動レベル <sup>注1)</sup>	予測結果	環境保全目標値 <sup>注2)</sup>	交通量増加台数による増加分	平日	上新宮(古志104号線)	25	37	70	12	下新宮(新宮大谷線)	25	37	12	古志町地内(古志82号線)	25	35	10	休日	上新宮(古志104号線)	25	36	70	11	下新宮(新宮大谷線)	25	31	6	古志町地内(古志82号線)	25	34	9	<p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>				
	予測地点	現況振動レベル <sup>注)</sup>	予測結果	交通量増加台数による増加分																																																																						
平日	上新宮(古志104号線)	25	37	12																																																																						
	下新宮(新宮大谷線)	25	37	12																																																																						
	古志町地内(古志82号線)	25	35	10																																																																						
休日	上新宮(古志104号線)	25	36	11																																																																						
	下新宮(新宮大谷線)	25	31	6																																																																						
	古志町地内(古志82号線)	25	34	9																																																																						
	予測地点	現況振動レベル <sup>注1)</sup>	予測結果	環境保全目標値 <sup>注2)</sup>	交通量増加台数による増加分																																																																					
平日	上新宮(古志104号線)	25	37	70	12																																																																					
	下新宮(新宮大谷線)	25	37		12																																																																					
	古志町地内(古志82号線)	25	35		10																																																																					
休日	上新宮(古志104号線)	25	36	70	11																																																																					
	下新宮(新宮大谷線)	25	31		6																																																																					
	古志町地内(古志82号線)	25	34		9																																																																					

表 11-9 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																											
	環境要素の区分	影響要因の区分																																																																
悪臭	悪臭	施設の稼働（排ガス）	<p><b>現地調査結果</b> 試料採取及び分析の結果、St.1（最寄住居付近）では全ての項目が定量下限値未満であった。</p> <p><b>事例調査結果</b> 既存施設（出雲エネルギーセンター）煙道では、アンモニア、アセトアルデヒドを除く全ての項目が定量下限値未満であった。アンモニアの濃度は0.1ppmであり、アセトアルデヒドの濃度は0.006ppmであった。どちらも定量下限値程度の低い値（アンモニア定量下限値:0.1、アセトアルデヒド定量下限値:0.005）であった。</p>	<p><b>ごみ焼却施設稼働時の煙突排ガスに含まれる悪臭</b> 最大着地濃度地点における臭気濃度、臭気指数の予測値の最大値は10未満であった。また、臭気濃度及び臭気指数10未満は、臭気強度が2.5程度となると推定されることから、施設稼働時の煙突排ガスに係る最大濃度地点の特定悪臭物質濃度は、臭気強度2.5に該当する濃度未満となると予測される。</p> <p>＜ごみ焼却施設稼働時の煙突排出ガスに伴う悪臭(臭気濃度、臭気指数)の予測結果＞</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>一般的な気象条件時 (大気安定度不安定時)</th> <th>ダウンウォッシュ・ ダウンドラフト発生時</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>最大濃度地点の臭気濃度</td> <td>10 未満</td> <td>10 未満</td> </tr> <tr> <td>最大濃度地点の臭気指数</td> <td>10 未満</td> <td>10 未満</td> </tr> <tr> <td>最大濃度地点（距離）</td> <td>煙突から風下側約 550m</td> <td>煙突から風下側約 300m</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>ごみ焼却施設休止時の排出口からの悪臭</b> ごみ焼却施設休止時の臭気濃度及び臭気指数の予測値は敷地境界において最大となり、10未満であった。また、臭気濃度及び臭気指数10未満は、臭気強度が2.5程度となると推定されることから、施設休止時の排出口からの最大濃度地点における特定悪臭物質濃度は、臭気強度2.5に該当する濃度未満となると予測される。</p> <p>＜ごみ焼却施設休止時の排出口からの悪臭(臭気濃度、臭気指数)の予測結果＞</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>臭気濃度</th> <th>臭気指数</th> <th>最大臭気濃度出現地点</th> <th>最大臭気濃度時の風向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10 未満</td> <td>10 未満</td> <td>敷地境界</td> <td>南南西</td> </tr> </tbody> </table>	項目	一般的な気象条件時 (大気安定度不安定時)	ダウンウォッシュ・ ダウンドラフト発生時	最大濃度地点の臭気濃度	10 未満	10 未満	最大濃度地点の臭気指数	10 未満	10 未満	最大濃度地点（距離）	煙突から風下側約 550m	煙突から風下側約 300m	臭気濃度	臭気指数	最大臭気濃度出現地点	最大臭気濃度時の風向	10 未満	10 未満	敷地境界	南南西	<p><b>環境保全措置の検討</b> ・<b>脱臭設備</b>：施設稼働時には、ごみピットの空気を燃焼用空気として引き込み、焼却炉内で臭気の高温度分解を行い、施設休止時には脱臭装置による脱臭を行う。</p>	<p><b>回避・低減に係る評価</b> 調査及び予測の結果、並びに前項に示す環境保全措置の検討結果をふまえると、施設の稼働（排ガス）に伴う悪臭の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p> <p><b>基準又は目標との整合に係る評価</b> 施設の稼働（排ガス）に係る悪臭に伴う影響の評価結果は下記に示すとおりであり、環境の保全に係る基準又は目標との整合性が図られているものと評価した。</p> <p>＜施設の供用に伴う悪臭（特定悪臭物質濃度）の評価結果＞</p> <p style="text-align: right;">単位：ppm</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>予測結果</th> <th>環境保全目標値<sup>注)</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アンモニア</td> <td>&lt;1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>メチルメルカプタン</td> <td>&lt;0.002</td> <td>0.002</td> </tr> <tr> <td>硫化水素</td> <td>&lt;0.02</td> <td>0.02</td> </tr> <tr> <td>硫化メチル</td> <td>&lt;0.01</td> <td>0.01</td> </tr> <tr> <td>二硫化メチル</td> <td>&lt;0.009</td> <td>0.009</td> </tr> <tr> <td>トリメチルアミン</td> <td>&lt;0.005</td> <td>0.005</td> </tr> <tr> <td>アセトアルデヒド</td> <td>&lt;0.05</td> <td>0.05</td> </tr> <tr> <td>スチレン</td> <td>&lt;0.4</td> <td>0.4</td> </tr> <tr> <td>プロピオン酸</td> <td>&lt;0.03</td> <td>0.03</td> </tr> <tr> <td>ノルマル酪酸</td> <td>&lt;0.001</td> <td>0.001</td> </tr> <tr> <td>ノルマル吉草酸</td> <td>&lt;0.0009</td> <td>0.0009</td> </tr> <tr> <td>イソ吉草酸</td> <td>&lt;0.001</td> <td>0.001</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 環境保全目標値：「悪臭防止法」に基づく規制指定地域外であるが、周辺環境の保全等のため、住居地域等のA地域の規制基準を設定した。</p>	項目	予測結果	環境保全目標値 <sup>注)</sup>	アンモニア	<1	1	メチルメルカプタン	<0.002	0.002	硫化水素	<0.02	0.02	硫化メチル	<0.01	0.01	二硫化メチル	<0.009	0.009	トリメチルアミン	<0.005	0.005	アセトアルデヒド	<0.05	0.05	スチレン	<0.4	0.4	プロピオン酸	<0.03	0.03	ノルマル酪酸	<0.001	0.001	ノルマル吉草酸	<0.0009	0.0009	イソ吉草酸	<0.001	0.001	<p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p> <p>なお、事後調査とは別途、自主的な環境監視調査として施設の稼働（排ガス）に伴う悪臭に係るモニタリング調査を継続的に実施し、環境の状況の把握に努める。</p>
		項目	一般的な気象条件時 (大気安定度不安定時)	ダウンウォッシュ・ ダウンドラフト発生時																																																														
最大濃度地点の臭気濃度	10 未満	10 未満																																																																
最大濃度地点の臭気指数	10 未満	10 未満																																																																
最大濃度地点（距離）	煙突から風下側約 550m	煙突から風下側約 300m																																																																
臭気濃度	臭気指数	最大臭気濃度出現地点	最大臭気濃度時の風向																																																															
10 未満	10 未満	敷地境界	南南西																																																															
項目	予測結果	環境保全目標値 <sup>注)</sup>																																																																
アンモニア	<1	1																																																																
メチルメルカプタン	<0.002	0.002																																																																
硫化水素	<0.02	0.02																																																																
硫化メチル	<0.01	0.01																																																																
二硫化メチル	<0.009	0.009																																																																
トリメチルアミン	<0.005	0.005																																																																
アセトアルデヒド	<0.05	0.05																																																																
スチレン	<0.4	0.4																																																																
プロピオン酸	<0.03	0.03																																																																
ノルマル酪酸	<0.001	0.001																																																																
ノルマル吉草酸	<0.0009	0.0009																																																																
イソ吉草酸	<0.001	0.001																																																																
		施設の稼働（機械等の稼働）	<p><b>施設の稼働（機械等の稼働）に伴う悪臭</b> 既存施設（出雲エネルギーセンター）の平成26年度～平成28年度の環境監視結果では、各年度、各季節において、臭気指数は10未満であり、特定悪臭物質濃度は規制基準（A地域）を満足している。</p> <p>本施設は、既存施設と処理能力は概ね同様であり、また、悪臭に係る同等の環境保全対策を講じることにより、供用時のごみ焼却施設等からの漏洩に伴う悪臭は、特定悪臭物質濃度は規制基準（A地域）を満足するものと予測される。</p>	<p><b>環境保全措置の検討</b> ・<b>悪臭の漏洩防止</b>：プラットホーム、ごみピット、灰ピット室の屋根・壁は気密性を確保するとともに、ごみピット内は負圧に保ち、臭気の漏れ出しを防ぎ、プラットホーム出入口にはエアカーテンを設置する。</p>	<p><b>回避・低減に係る評価</b> 調査及び予測の結果、並びに前項に示す環境保全措置の検討結果をふまえると、施設の稼働（機械等の稼働）に伴う悪臭の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p> <p><b>基準又は目標との整合に係る評価</b> 施設の稼働（機械等の稼働）に伴う悪臭の影響については、特定悪臭物質濃度は規制基準（A地域）を満足するものと予測されることから、環境の保全に係る基準又は目標との整合性が図られているものと評価した。</p>	<p>予測にあたっては類似の既存施設（出雲エネルギーセンター）において測定された排ガスの調査結果を用いており、不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p> <p>なお、事後調査とは別途、自主的な環境監視調査として施設の稼働（機械等の稼働）に伴う悪臭の影響（存在・供用）に係るモニタリング調査を継続的に実施し、環境の状況の把握に努める。</p>																																																												

表 11-10 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																																																																																												
	環境要素の区分	影響要因の区分																																																																																																																																																	
水質	水質（水の濁り）	雨水の排水	<p><b>現地調査結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・河川水質 調査地点では環境基準の類型指定はされていないが、参考に AA 類型の環境基準と比較すると、全地点において大腸菌群数のみ当該基準値を上回っていた。 夏季調査において、糞便性大腸菌群数の分析を行った結果、大腸菌群数の基準超過は糞便性以外の自然由来によるものと推定される。</li> <li>・降雨時調査 3 回の降雨時に調査を行った結果、St. 1～St. 6 の全地点において、浮遊物質量は 3～170mg/L、流量は 0.017～3.110m<sup>3</sup>/min の範囲であった。</li> <li>・造成地の土壌（機能） 2 か所の現地土砂（工事により主に掘削、地上露出することになる位置、深度の粘土層）を用いた沈降試験の調査結果は、時間の経過とともに浮遊物質量、濁度が低下していく傾向がみられた。</li> </ul>  <p style="text-align: center;">&lt; 浮遊物質量濃度沈降曲線 &gt;</p>	<p>沈砂速度が表面積負荷より大きい粒子は仮設沈砂池の底に沈み、沈砂池からは上澄みが放流される。放流される上澄みの浮遊物質量濃度は、改変区域の土粒子の沈降速度が各施工時期の沈砂池の表面積負荷を上回る粒子に対応する浮遊物質量濃度となる。 各施工時期における沈砂池排水口での浮遊物質量濃度及び各予測地点における混合濃度の予測結果は以下に示すとおりである。</p> <p style="text-align: center;">&lt; 雨水の排水に伴う水質（水の濁り）の予測結果 &gt;</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施工時期</th> <th rowspan="2">仮設沈砂池出口の浮遊物質量濃度 (mg/L) *( )内は沈砂池の効果を見込まない場合</th> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">浮遊物質量濃度予測結果 (mg/L)</th> </tr> <tr> <th>沈砂池あり</th> <th>沈砂池なし</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">1 次施工</td> <td rowspan="4">12 (593)</td> <td>St. 1</td> <td>12</td> <td>548</td> </tr> <tr> <td>St. 3</td> <td>26</td> <td>306</td> </tr> <tr> <td>St. 4</td> <td>16</td> <td>245</td> </tr> <tr> <td>St. 6</td> <td>39</td> <td>222</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">2 次施工</td> <td rowspan="4">16 (1, 279)</td> <td>St. 1</td> <td>16</td> <td>1, 195</td> </tr> <tr> <td>St. 3</td> <td>28</td> <td>688</td> </tr> <tr> <td>St. 4</td> <td>18</td> <td>567</td> </tr> <tr> <td>St. 6</td> <td>39</td> <td>485</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">3 次施工</td> <td rowspan="4">24 (1, 491)</td> <td>St. 1</td> <td>23</td> <td>1, 399</td> </tr> <tr> <td>St. 3</td> <td>31</td> <td>820</td> </tr> <tr> <td>St. 4</td> <td>21</td> <td>681</td> </tr> <tr> <td>St. 6</td> <td>41</td> <td>579</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">4 次施工</td> <td rowspan="4">25 (1, 572)</td> <td>St. 1</td> <td>24</td> <td>1, 477</td> </tr> <tr> <td>St. 3</td> <td>32</td> <td>873</td> </tr> <tr> <td>St. 4</td> <td>22</td> <td>727</td> </tr> <tr> <td>St. 6</td> <td>41</td> <td>617</td> </tr> </tbody> </table>	施工時期	仮設沈砂池出口の浮遊物質量濃度 (mg/L) *( )内は沈砂池の効果を見込まない場合	予測地点	浮遊物質量濃度予測結果 (mg/L)		沈砂池あり	沈砂池なし	1 次施工	12 (593)	St. 1	12	548	St. 3	26	306	St. 4	16	245	St. 6	39	222	2 次施工	16 (1, 279)	St. 1	16	1, 195	St. 3	28	688	St. 4	18	567	St. 6	39	485	3 次施工	24 (1, 491)	St. 1	23	1, 399	St. 3	31	820	St. 4	21	681	St. 6	41	579	4 次施工	25 (1, 572)	St. 1	24	1, 477	St. 3	32	873	St. 4	22	727	St. 6	41	617	<p><b>環境保全措置の検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仮設沈砂池の設置：敷地内の雨水を仮設沈砂池に集めて沈砂後に下流河川へ放流する。</li> <li>・仮設沈砂池の浚渫：仮設沈砂池における濁水の沈降機能が維持されるよう、定期的な土砂の抜き取りをするなど適切な対応に努める。</li> <li>・速やかな転圧等：造成の終わった法面等は、速やかな転圧、若しくは養生シートで覆うなどする。</li> <li>・降雨時の工事回避：強雨時には土地の改変に係る工事を中止する。</li> <li>・仮設沈砂池内の蛇行構造：仮設沈砂池内に壁を配置し、入口から出口の水の流れを蛇行させることにより、仮設沈砂池内の水の滞留時間を稼ぐ。</li> <li>・砂防堰堤及び既存沈砂池の適宜浚渫：沈砂池の役割を果たす下流の砂防堰堤及び既存沈砂池の土砂貯留容量を考慮し、適宜浚渫する。</li> </ul>	<p><b>回避・低減に係る評価</b> 調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、雨水の排水に伴う水質（水の濁り）への影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p> <p><b>基準又は目標との整合に係る評価</b> 雨水の排水に伴う水質（水の濁り）への評価結果は下表に示すとおりである。各予測地点における浮遊物質量は、各施工時期の St. 3、St. 6 を除き、いずれも環境保全目標値以下になると予測される。なお、各施工時期の St. 3、St. 6 については、環境保全目標値を上回ると予測されるが、現況ですでに環境保全目標値を上回っており、現況調査結果の変動範囲内、かつ平均値よりも低い濃度になると予測される。 以上のことから、雨水の排水に伴う水質（水の濁り）への影響については、環境の保全に係る基準又は目標値とした「25mg/L (A 類型)、並びに現況の浮遊物質量から大きな変化がないこと。」との整合性が図られているものと評価した。</p> <p style="text-align: center;">&lt; 雨水の排水に伴う水質（水の濁り）の評価結果 &gt;</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施工時期</th> <th rowspan="2">予測地点</th> <th rowspan="2">浮遊物質量 予測結果 (mg/L) 注1)</th> <th colspan="2">現況調査結果注2)</th> <th rowspan="2">環境保全目標値 (mg/L) 注3)</th> </tr> <tr> <th>平均値 (mg/L)</th> <th>変動幅 (mg/L)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">1 次施工</td> <td>St. 1</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>3～20</td> <td rowspan="12" style="text-align: center; vertical-align: middle;">25</td> </tr> <tr> <td>St. 3</td> <td>26</td> <td>40</td> <td>5～71</td> </tr> <tr> <td>St. 4</td> <td>16</td> <td>19</td> <td>6～32</td> </tr> <tr> <td>St. 6</td> <td>39</td> <td>51</td> <td>25～95</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">2 次施工</td> <td>St. 1</td> <td>16</td> <td>12</td> <td>3～20</td> </tr> <tr> <td>St. 3</td> <td>28</td> <td>40</td> <td>5～71</td> </tr> <tr> <td>St. 4</td> <td>18</td> <td>19</td> <td>6～32</td> </tr> <tr> <td>St. 6</td> <td>39</td> <td>51</td> <td>25～95</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">3 次施工</td> <td>St. 1</td> <td>23</td> <td>12</td> <td>3～20</td> </tr> <tr> <td>St. 3</td> <td>31</td> <td>40</td> <td>5～71</td> </tr> <tr> <td>St. 4</td> <td>21</td> <td>19</td> <td>6～32</td> </tr> <tr> <td>St. 6</td> <td>41</td> <td>51</td> <td>25～95</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">4 次施工</td> <td>St. 1</td> <td>24</td> <td>12</td> <td>3～20</td> </tr> <tr> <td>St. 3</td> <td>32</td> <td>40</td> <td>5～71</td> </tr> <tr> <td>St. 4</td> <td>22</td> <td>19</td> <td>6～32</td> </tr> <tr> <td>St. 6</td> <td>41</td> <td>51</td> <td>25～95</td> </tr> </tbody> </table>	施工時期	予測地点	浮遊物質量 予測結果 (mg/L) 注1)	現況調査結果注2)		環境保全目標値 (mg/L) 注3)	平均値 (mg/L)	変動幅 (mg/L)	1 次施工	St. 1	12	12	3～20	25	St. 3	26	40	5～71	St. 4	16	19	6～32	St. 6	39	51	25～95	2 次施工	St. 1	16	12	3～20	St. 3	28	40	5～71	St. 4	18	19	6～32	St. 6	39	51	25～95	3 次施工	St. 1	23	12	3～20	St. 3	31	40	5～71	St. 4	21	19	6～32	St. 6	41	51	25～95	4 次施工	St. 1	24	12	3～20	St. 3	32	40	5～71	St. 4	22	19	6～32	St. 6	41	51	25～95	<p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>
施工時期	仮設沈砂池出口の浮遊物質量濃度 (mg/L) *( )内は沈砂池の効果を見込まない場合	予測地点	浮遊物質量濃度予測結果 (mg/L)																																																																																																																																																
			沈砂池あり	沈砂池なし																																																																																																																																															
1 次施工	12 (593)	St. 1	12	548																																																																																																																																															
		St. 3	26	306																																																																																																																																															
		St. 4	16	245																																																																																																																																															
		St. 6	39	222																																																																																																																																															
2 次施工	16 (1, 279)	St. 1	16	1, 195																																																																																																																																															
		St. 3	28	688																																																																																																																																															
		St. 4	18	567																																																																																																																																															
		St. 6	39	485																																																																																																																																															
3 次施工	24 (1, 491)	St. 1	23	1, 399																																																																																																																																															
		St. 3	31	820																																																																																																																																															
		St. 4	21	681																																																																																																																																															
		St. 6	41	579																																																																																																																																															
4 次施工	25 (1, 572)	St. 1	24	1, 477																																																																																																																																															
		St. 3	32	873																																																																																																																																															
		St. 4	22	727																																																																																																																																															
		St. 6	41	617																																																																																																																																															
施工時期	予測地点	浮遊物質量 予測結果 (mg/L) 注1)	現況調査結果注2)		環境保全目標値 (mg/L) 注3)																																																																																																																																														
			平均値 (mg/L)	変動幅 (mg/L)																																																																																																																																															
1 次施工	St. 1	12	12	3～20	25																																																																																																																																														
	St. 3	26	40	5～71																																																																																																																																															
	St. 4	16	19	6～32																																																																																																																																															
	St. 6	39	51	25～95																																																																																																																																															
2 次施工	St. 1	16	12	3～20																																																																																																																																															
	St. 3	28	40	5～71																																																																																																																																															
	St. 4	18	19	6～32																																																																																																																																															
	St. 6	39	51	25～95																																																																																																																																															
3 次施工	St. 1	23	12	3～20																																																																																																																																															
	St. 3	31	40	5～71																																																																																																																																															
	St. 4	21	19	6～32																																																																																																																																															
	St. 6	41	51	25～95																																																																																																																																															
4 次施工	St. 1	24	12	3～20																																																																																																																																															
	St. 3	32	40	5～71																																																																																																																																															
	St. 4	22	19	6～32																																																																																																																																															
	St. 6	41	51	25～95																																																																																																																																															

注1)  ：比較する環境保全目標値を上回ることを示す。  
 注2) 3 回実施した降雨時の水質調査結果を示す。  
 注3) 降雨時の水質について環境基準は適用されないが、「水質汚濁に係る環境基準について」(昭和 46 年 12 月 28 日 環告第 59 号)を参考に、予測地点の合流先河川である神戸川で設定されている浮遊物質量に係る基準値 (25mg/L (A 類型)) を示した。

表 11-11 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	環境要素の区分	影響要因の区分																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
動物	動物(重要な種及び注目すべき生息地)	建設機械の稼働(騒音・振動)、雨水の排水(水の濁り)、敷地の存在(土地の改変)、機械等の稼働(照明の設置)	<p><b>現地調査結果</b></p> <p>・動物 都市計画対象事業実施区域及びその周辺で確認された種数を、以下に示す。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>門/綱/目</th> <th>科</th> <th>種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>哺乳類</td> <td>6目</td> <td>9科</td> <td>13種</td> </tr> <tr> <td>鳥類(一般鳥類) ※猛禽調査確認種を含む。</td> <td>11目</td> <td>30科</td> <td>67種</td> </tr> <tr> <td>鳥類(猛禽類) ※一般鳥類との重複種を含む。</td> <td>1目</td> <td>2科</td> <td>8種</td> </tr> <tr> <td>両生類</td> <td>2目</td> <td>7科</td> <td>12種</td> </tr> <tr> <td>爬虫類</td> <td>2目</td> <td>4科</td> <td>6種</td> </tr> <tr> <td>昆虫類 ※底生動物との重複種を含む。</td> <td>18目</td> <td>183科</td> <td>572種</td> </tr> <tr> <td>クモ類</td> <td>1目</td> <td>20科</td> <td>42種</td> </tr> <tr> <td>陸産貝類</td> <td>4目</td> <td>12科</td> <td>34種</td> </tr> <tr> <td>魚類</td> <td>3目</td> <td>4科</td> <td>5種</td> </tr> <tr> <td>底生動物 ※陸上昆虫類との重複種を含む。</td> <td>6門9綱25目</td> <td>96科</td> <td>244種</td> </tr> </tbody> </table> <p>・重要な種 以下に示す65種の重要な動物が確認された。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>種名</th> <th>分類</th> <th>種名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">哺乳類</td> <td>キクガシラコウモリ</td> <td rowspan="10">鳥類(猛禽類を含む)</td> <td>ホソミイトトンボ</td> </tr> <tr> <td>ヒナコウモリ科</td> <td>サラサヤンマ</td> </tr> <tr> <td>イタチ属</td> <td>キイロサナエ</td> </tr> <tr> <td>ミソゴイ</td> <td>タバサナエ</td> </tr> <tr> <td>オシドリ</td> <td>オグマサナエ</td> </tr> <tr> <td>ミサゴ</td> <td>ムカシヤンマ</td> </tr> <tr> <td>ハチクマ</td> <td>ハルゼミ</td> </tr> <tr> <td>ハイタカ</td> <td>オオミズムシ</td> </tr> <tr> <td>オオタカ</td> <td>タガメ</td> </tr> <tr> <td>サンバ</td> <td>ギンボシツツビケラ</td> </tr> <tr> <td>クマタカ</td> <td>ハマダラハルカ</td> </tr> <tr> <td>ハヤブサ</td> <td>クロゲンゴロウ</td> </tr> <tr> <td>イカルチドリ</td> <td>ゲンゴロウ</td> </tr> <tr> <td>フクロウ</td> <td>シマゲンゴロウ</td> </tr> <tr> <td>ヤマセミ</td> <td>ケンゲンゴロウ</td> </tr> <tr> <td>アカショウビン</td> <td>キベリクロヒメゲンゴロウ</td> </tr> <tr> <td>ブッポウソウ</td> <td>オオミズスマシ</td> </tr> <tr> <td>ヤイロチョウ</td> <td>ミズスマシ</td> </tr> <tr> <td>コシアカツバメ</td> <td>ガムシ</td> </tr> <tr> <td>サンショウクイ</td> <td>ヒメボタル</td> </tr> <tr> <td>チゴモズ</td> <td>トゲアリ</td> </tr> <tr> <td>オオムシクイ</td> <td>クモ類</td> <td>キノボリタテグモ</td> </tr> <tr> <td>サンコウチョウ</td> <td rowspan="5">両生類</td> <td>サドヤマトガイ</td> </tr> <tr> <td>カスミサンショウウオ</td> <td>オオゴマガイ</td> </tr> <tr> <td>アカハライモリ</td> <td>イボイボナメクジ</td> </tr> <tr> <td>タゴガエル</td> <td>ヒラベッコウガイ</td> </tr> <tr> <td>トノサマガエル</td> <td>オオウエキビ</td> </tr> <tr> <td>モリアオガエル</td> <td>ヒメカサキビ</td> </tr> <tr> <td>ニホンイシガメ</td> <td rowspan="2">魚類</td> <td>サンインコベソマイマイ</td> </tr> <tr> <td>ジムグリ</td> <td>ドジョウ</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">爬虫類</td> <td rowspan="4">底生動物</td> <td>ミナミメダカ</td> </tr> <tr> <td>オオヨシノボリ</td> </tr> <tr> <td>オオタニシ</td> </tr> <tr> <td>コシダカヒメモノアラガイ ヒラテテナガエビ</td> </tr> </tbody> </table> <p>・注目すべき生息地 止水域6か所、谷津田1か所、コウモリ生息洞3か所の計10か所が確認された</p>	項目	門/綱/目	科	種	哺乳類	6目	9科	13種	鳥類(一般鳥類) ※猛禽調査確認種を含む。	11目	30科	67種	鳥類(猛禽類) ※一般鳥類との重複種を含む。	1目	2科	8種	両生類	2目	7科	12種	爬虫類	2目	4科	6種	昆虫類 ※底生動物との重複種を含む。	18目	183科	572種	クモ類	1目	20科	42種	陸産貝類	4目	12科	34種	魚類	3目	4科	5種	底生動物 ※陸上昆虫類との重複種を含む。	6門9綱25目	96科	244種	分類	種名	分類	種名	哺乳類	キクガシラコウモリ	鳥類(猛禽類を含む)	ホソミイトトンボ	ヒナコウモリ科	サラサヤンマ	イタチ属	キイロサナエ	ミソゴイ	タバサナエ	オシドリ	オグマサナエ	ミサゴ	ムカシヤンマ	ハチクマ	ハルゼミ	ハイタカ	オオミズムシ	オオタカ	タガメ	サンバ	ギンボシツツビケラ	クマタカ	ハマダラハルカ	ハヤブサ	クロゲンゴロウ	イカルチドリ	ゲンゴロウ	フクロウ	シマゲンゴロウ	ヤマセミ	ケンゲンゴロウ	アカショウビン	キベリクロヒメゲンゴロウ	ブッポウソウ	オオミズスマシ	ヤイロチョウ	ミズスマシ	コシアカツバメ	ガムシ	サンショウクイ	ヒメボタル	チゴモズ	トゲアリ	オオムシクイ	クモ類	キノボリタテグモ	サンコウチョウ	両生類	サドヤマトガイ	カスミサンショウウオ	オオゴマガイ	アカハライモリ	イボイボナメクジ	タゴガエル	ヒラベッコウガイ	トノサマガエル	オオウエキビ	モリアオガエル	ヒメカサキビ	ニホンイシガメ	魚類	サンインコベソマイマイ	ジムグリ	ドジョウ	爬虫類	底生動物	ミナミメダカ	オオヨシノボリ	オオタニシ	コシダカヒメモノアラガイ ヒラテテナガエビ	<p><b>重要な種</b> 影響要因ごとに、その影響程度を「影響が無いまたは小さい(-)」、「影響の程度が中程度(△)」、「影響の程度が大きい(O)」の3段階に整理した。 予測結果は、影響の大きさにより「影響を受ける(A)」、「影響を受けるおそれがある(B)」、「影響は極めて小さい(C)」の3段階に区分した。 予測の結果、「影響を受ける(A)」と予測された種は10種で、いずれも止水域を生息地とする水生昆虫である。また、「影響を受けるおそれがある(B)」と予測された種は15種で、止水域で繁殖する両生類、河川に生息する両生類、昆虫類、魚類、底生動物、集光性のある昆虫類である。各種への影響の程度及び予測結果は、以下の表に示すとおりである。</p> <p><b>注目すべき生息地</b> 予測結果は、影響の大きさにより「影響を受ける(A)」、「影響を受けるおそれがある(B)」、「影響は極めて小さい(C)」の3段階に区分した。 予測の結果、「影響を受ける(A)」と予測された生息地は1か所、「影響を受けるおそれがある(B)」と予測された生息地は1か所であった。</p> <p>&lt;重要な動物種の予測結果一覧&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">分類</th> <th rowspan="2">種名</th> <th colspan="3">工事の実施</th> <th colspan="3">存在・供用</th> <th rowspan="2">分類</th> <th rowspan="2">種名</th> <th colspan="3">工事の実施</th> <th colspan="3">存在・供用</th> </tr> <tr> <th>騒音・振動</th> <th>水の濁り</th> <th>予測結果</th> <th>土地の改変</th> <th>照明の設置</th> <th>予測結果</th> <th>騒音・振動</th> <th>水の濁り</th> <th>予測結果</th> <th>土地の改変</th> <th>照明の設置</th> <th>予測結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">哺乳類</td> <td>キクガシラコウモリ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td rowspan="10">鳥類</td> <td>ホソミイトトンボ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>A</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>ヒナコウモリ科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>サラサヤンマ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>イタチ属</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>キイロサナエ</td> <td>-</td> <td>△</td> <td>B</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>ミソゴイ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>タバサナエ</td> <td>-</td> <td>△</td> <td>B</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>オシドリ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>オグマサナエ</td> <td>-</td> <td>○</td> <td>A</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>ミサゴ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>ムカシヤンマ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>ハチクマ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>ハルゼミ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>ハイタカ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>オオミズムシ</td> <td>-</td> <td>○</td> <td>A</td> <td>○</td> <td>△</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>オオタカ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>タガメ</td> <td>-</td> <td>○</td> <td>A</td> <td>○</td> <td>△</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>サンバ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>ギンボシツツビケラ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>△</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>クマタカ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>ハマダラハルカ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>ハヤブサ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>クロゲンゴロウ</td> <td>-</td> <td>△</td> <td>B</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>イカルチドリ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>ゲンゴロウ</td> <td>-</td> <td>○</td> <td>A</td> <td>○</td> <td>△</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>フクロウ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>シマゲンゴロウ</td> <td>-</td> <td>○</td> <td>A</td> <td>○</td> <td>△</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>ヤマセミ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>ケンゲンゴロウ</td> <td>-</td> <td>○</td> <td>A</td> <td>○</td> <td>△</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>アカショウビン</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>キベリクロヒメゲンゴロウ</td> <td>-</td> <td>○</td> <td>A</td> <td>○</td> <td>△</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>ブッポウソウ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>オオミズスマシ</td> <td>-</td> <td>○</td> <td>A</td> <td>○</td> <td>△</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>ヤイロチョウ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>ミズスマシ</td> <td>-</td> <td>○</td> <td>A</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>コシアカツバメ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>ガムシ</td> <td>-</td> <td>△</td> <td>B</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>サンショウクイ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>ヒメボタル</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>△</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>チゴモズ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>トゲアリ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>オオムシクイ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>クモ類</td> <td>キノボリタテグモ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>サンコウチョウ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td rowspan="5">両生類</td> <td>サドヤマトガイ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>カスミサンショウウオ</td> <td>-</td> <td>△</td> <td>B</td> <td>△</td> <td>-</td> <td>B</td> <td>オオゴマガイ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>アカハライモリ</td> <td>-</td> <td>△</td> <td>B</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>イボイボナメクジ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>タゴガエル</td> <td>-</td> <td>△</td> <td>B</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>ヒラベッコウガイ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>トノサマガエル</td> <td>-</td> <td>△</td> <td>B</td> <td>△</td> <td>-</td> <td>B</td> <td>オオウエキビ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>モリアオガエル</td> <td>-</td> <td>△</td> <td>B</td> <td>△</td> <td>-</td> <td>B</td> <td>ヒメカサキビ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>ニホンイシガメ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>サンインコベソマイマイ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>ジムグリ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td rowspan="3">魚類</td> <td>ドジョウ</td> <td>-</td> <td>△</td> <td>B</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">爬虫類</td> <td rowspan="3">底生動物</td> <td>ミナミメダカ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>オオヨシノボリ</td> <td>-</td> <td>△</td> <td>B</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>オオタニシ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>コシダカヒメモノアラガイ</td> <td>-</td> <td>△</td> <td>B</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>ヒラテテナガエビ</td> <td>-</td> <td>△</td> <td>B</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>C</td> </tr> </tbody> </table>	分類	種名	工事の実施			存在・供用			分類	種名	工事の実施			存在・供用			騒音・振動	水の濁り	予測結果	土地の改変	照明の設置	予測結果	騒音・振動	水の濁り	予測結果	土地の改変	照明の設置	予測結果	哺乳類	キクガシラコウモリ	-	-	C	-	-	C	鳥類	ホソミイトトンボ	-	-	A	-	-	C	ヒナコウモリ科	-	-	C	-	-	C	サラサヤンマ	-	-	C	-	-	C	イタチ属	-	-	C	-	-	C	キイロサナエ	-	△	B	-	-	C	ミソゴイ	-	-	C	-	-	C	タバサナエ	-	△	B	-	-	C	オシドリ	-	-	C	-	-	C	オグマサナエ	-	○	A	○	-	A	ミサゴ	-	-	C	-	-	C	ムカシヤンマ	-	-	C	-	-	C	ハチクマ	-	-	C	-	-	C	ハルゼミ	-	-	C	-	-	C	ハイタカ	-	-	C	-	-	C	オオミズムシ	-	○	A	○	△	A	オオタカ	-	-	C	-	-	C	タガメ	-	○	A	○	△	A	サンバ	-	-	C	-	-	C	ギンボシツツビケラ	-	-	C	-	△	B	クマタカ	-	-	C	-	-	C	ハマダラハルカ	-	-	C	-	-	C	ハヤブサ	-	-	C	-	-	C	クロゲンゴロウ	-	△	B	△	△	B	イカルチドリ	-	-	C	-	-	C	ゲンゴロウ	-	○	A	○	△	A	フクロウ	-	-	C	-	-	C	シマゲンゴロウ	-	○	A	○	△	A	ヤマセミ	-	-	C	-	-	C	ケンゲンゴロウ	-	○	A	○	△	A	アカショウビン	-	-	C	-	-	C	キベリクロヒメゲンゴロウ	-	○	A	○	△	A	ブッポウソウ	-	-	C	-	-	C	オオミズスマシ	-	○	A	○	△	A	ヤイロチョウ	-	-	C	-	-	C	ミズスマシ	-	○	A	△	△	B	コシアカツバメ	-	-	C	-	-	C	ガムシ	-	△	B	△	△	B	サンショウクイ	-	-	C	-	-	C	ヒメボタル	-	-	C	-	△	B	チゴモズ	-	-	C	-	-	C	トゲアリ	-	-	C	-	-	C	オオムシクイ	-	-	C	-	-	C	クモ類	キノボリタテグモ	-	-	-	-	-	C	サンコウチョウ	-	-	C	-	-	C	両生類	サドヤマトガイ	-	-	-	-	-	C	カスミサンショウウオ	-	△	B	△	-	B	オオゴマガイ	-	-	-	-	-	C	アカハライモリ	-	△	B	-	-	C	イボイボナメクジ	-	-	-	-	-	C	タゴガエル	-	△	B	-	-	C	ヒラベッコウガイ	-	-	-	-	-	C	トノサマガエル	-	△	B	△	-	B	オオウエキビ	-	-	-	-	-	C	モリアオガエル	-	△	B	△	-	B	ヒメカサキビ	-	-	-	-	-	C	ニホンイシガメ	-	-	C	-	-	C	サンインコベソマイマイ	-	-	-	-	-	C	ジムグリ	-	-	C	-	-	C	魚類	ドジョウ	-	△	B	-	-	C	爬虫類	底生動物	ミナミメダカ	-	-	C	-	-	C	オオヨシノボリ	-	△	B	-	-	C	オオタニシ	-	-	C	-	-	C	コシダカヒメモノアラガイ	-	△	B	-	-	C	ヒラテテナガエビ	-	△	B	-	-	C	<p><b>環境保全措置の検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資材等運搬車両走行時の配慮：安全運転の励行及び車両管理を徹底する。</li> <li>・建設機械・工法の選定：できる限り低騒音型の建設機械・工法を採用するよう努める。</li> <li>・仮設沈砂池等の設置：敷地内の雨水を仮設沈砂池に集めて沈砂後に下流河川へ放流する。</li> <li>・仮設沈砂池の浚渫：仮設沈砂池における濁水の沈降機能が維持されるよう、定期的な土砂の抜き取りをするなど適切な対応に努める。</li> <li>・仮設排水経路及び仮設沈砂池位置の検討：敷地造成工事における仮設排水経路及び仮設沈砂池の位置を検討し、敷地に隣接する2か所の注目すべき生息地(止水域)への濁水の流入を防ぐ。</li> <li>・排水のクローズド・リサイクル：ごみピット汚水、プラント排水及び生活排水は、排水処理後に再循環利用等を行い、周辺河川等へは放流しない。</li> <li>・植栽の実施：敷地内においても可能な限り植栽を施す。</li> <li>・敷地造成範囲の見直し：敷地造成範囲を見直すことで、改変により消失するおそれのある注目すべき生息地(止水域)を保存する。</li> <li>・施設内の排水経路の配慮：施設内の排水経路に配慮することで、注目すべき生息地(止水域)への集水域面積を維持する。</li> <li>・代償環境の整備：既存の注目すべき生息地(止水域⑤及び止水域⑥)を改良したビオトープを造成する。</li> <li>・代償環境への水源導入：保全対象の注目すべき生息地(止水域③)への水源(地下浸透水)を整備するビオトープ(止水域⑤)に導入する。</li> <li>・照明器具への配慮：施設入口に設置する照明施設には、周辺への光の漏洩を極力抑える構造とし、光源の波長は昆虫類への影響が小さいものを採用する。</li> <li>・仮設沈砂池内の蛇行構造：仮設沈砂池内に壁を配置し、入口から出口の水の流れを蛇行させることにより、仮設沈砂池内の水の滞留時間を稼ぐ。</li> <li>・砂防堰堤及び既存沈砂池の適宜浚渫：沈砂池の役割を果たす下流の砂防堰堤及び既存沈砂池の土砂貯留容量を考慮し、適宜浚渫する。</li> </ul>	<p><b>回避・低減に係る評価</b> 調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、工事の実施(建設機械の稼働(騒音・振動)・雨水の排水(水の濁り)及び敷地の存在(土地の改変)、機械等の稼働(照明の設置)に伴う動物への影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p>	<p>事業計画との重ね合わせにより行った予測の不確実性は小さく、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられる。ただし、25種の重要な種及び2つの注目すべき生息地については、影響が生じると予測されており、当該影響に対して実施する環境保全措置のうち「敷地造成範囲の見直し」、「施設内の排水経路の配慮」、「代償環境の整備」については、その効果に不確実性があると考えられることから、事後調査として、「ビオトープ及び既存生息地生息状況の調査」を実施する。</p>
項目	門/綱/目	科	種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
哺乳類	6目	9科	13種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
鳥類(一般鳥類) ※猛禽調査確認種を含む。	11目	30科	67種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
鳥類(猛禽類) ※一般鳥類との重複種を含む。	1目	2科	8種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
両生類	2目	7科	12種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
爬虫類	2目	4科	6種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
昆虫類 ※底生動物との重複種を含む。	18目	183科	572種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
クモ類	1目	20科	42種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
陸産貝類	4目	12科	34種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
魚類	3目	4科	5種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
底生動物 ※陸上昆虫類との重複種を含む。	6門9綱25目	96科	244種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
分類	種名	分類	種名																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
哺乳類	キクガシラコウモリ	鳥類(猛禽類を含む)	ホソミイトトンボ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	ヒナコウモリ科		サラサヤンマ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	イタチ属		キイロサナエ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	ミソゴイ		タバサナエ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	オシドリ		オグマサナエ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	ミサゴ		ムカシヤンマ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	ハチクマ		ハルゼミ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	ハイタカ		オオミズムシ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	オオタカ		タガメ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	サンバ		ギンボシツツビケラ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
クマタカ	ハマダラハルカ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
ハヤブサ	クロゲンゴロウ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
イカルチドリ	ゲンゴロウ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
フクロウ	シマゲンゴロウ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
ヤマセミ	ケンゲンゴロウ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
アカショウビン	キベリクロヒメゲンゴロウ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
ブッポウソウ	オオミズスマシ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
ヤイロチョウ	ミズスマシ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
コシアカツバメ	ガムシ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
サンショウクイ	ヒメボタル																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
チゴモズ	トゲアリ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
オオムシクイ	クモ類	キノボリタテグモ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
サンコウチョウ	両生類	サドヤマトガイ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
カスミサンショウウオ		オオゴマガイ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
アカハライモリ		イボイボナメクジ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
タゴガエル		ヒラベッコウガイ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
トノサマガエル		オオウエキビ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
モリアオガエル	ヒメカサキビ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
ニホンイシガメ	魚類	サンインコベソマイマイ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
ジムグリ		ドジョウ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
爬虫類	底生動物	ミナミメダカ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
		オオヨシノボリ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
		オオタニシ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
		コシダカヒメモノアラガイ ヒラテテナガエビ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
分類	種名	工事の実施			存在・供用			分類	種名	工事の実施			存在・供用																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
		騒音・振動	水の濁り	予測結果	土地の改変	照明の設置	予測結果			騒音・振動	水の濁り	予測結果	土地の改変	照明の設置	予測結果																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
哺乳類	キクガシラコウモリ	-	-	C	-	-	C	鳥類	ホソミイトトンボ	-	-	A	-	-	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	ヒナコウモリ科	-	-	C	-	-	C		サラサヤンマ	-	-	C	-	-	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	イタチ属	-	-	C	-	-	C		キイロサナエ	-	△	B	-	-	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	ミソゴイ	-	-	C	-	-	C		タバサナエ	-	△	B	-	-	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	オシドリ	-	-	C	-	-	C		オグマサナエ	-	○	A	○	-	A																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	ミサゴ	-	-	C	-	-	C		ムカシヤンマ	-	-	C	-	-	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	ハチクマ	-	-	C	-	-	C		ハルゼミ	-	-	C	-	-	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	ハイタカ	-	-	C	-	-	C		オオミズムシ	-	○	A	○	△	A																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	オオタカ	-	-	C	-	-	C		タガメ	-	○	A	○	△	A																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	サンバ	-	-	C	-	-	C		ギンボシツツビケラ	-	-	C	-	△	B																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
クマタカ	-	-	C	-	-	C	ハマダラハルカ	-	-	C	-	-	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
ハヤブサ	-	-	C	-	-	C	クロゲンゴロウ	-	△	B	△	△	B																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
イカルチドリ	-	-	C	-	-	C	ゲンゴロウ	-	○	A	○	△	A																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
フクロウ	-	-	C	-	-	C	シマゲンゴロウ	-	○	A	○	△	A																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
ヤマセミ	-	-	C	-	-	C	ケンゲンゴロウ	-	○	A	○	△	A																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
アカショウビン	-	-	C	-	-	C	キベリクロヒメゲンゴロウ	-	○	A	○	△	A																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
ブッポウソウ	-	-	C	-	-	C	オオミズスマシ	-	○	A	○	△	A																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
ヤイロチョウ	-	-	C	-	-	C	ミズスマシ	-	○	A	△	△	B																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
コシアカツバメ	-	-	C	-	-	C	ガムシ	-	△	B	△	△	B																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
サンショウクイ	-	-	C	-	-	C	ヒメボタル	-	-	C	-	△	B																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
チゴモズ	-	-	C	-	-	C	トゲアリ	-	-	C	-	-	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
オオムシクイ	-	-	C	-	-	C	クモ類	キノボリタテグモ	-	-	-	-	-	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
サンコウチョウ	-	-	C	-	-	C	両生類	サドヤマトガイ	-	-	-	-	-	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
カスミサンショウウオ	-	△	B	△	-	B		オオゴマガイ	-	-	-	-	-	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
アカハライモリ	-	△	B	-	-	C		イボイボナメクジ	-	-	-	-	-	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
タゴガエル	-	△	B	-	-	C		ヒラベッコウガイ	-	-	-	-	-	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
トノサマガエル	-	△	B	△	-	B		オオウエキビ	-	-	-	-	-	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
モリアオガエル	-	△	B	△	-	B	ヒメカサキビ	-	-	-	-	-	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
ニホンイシガメ	-	-	C	-	-	C	サンインコベソマイマイ	-	-	-	-	-	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
ジムグリ	-	-	C	-	-	C	魚類	ドジョウ	-	△	B	-	-	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
爬虫類	底生動物	ミナミメダカ	-	-	C	-		-	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		オオヨシノボリ	-	△	B	-		-	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		オオタニシ	-	-	C	-	-	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
コシダカヒメモノアラガイ	-	△	B	-	-	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
ヒラテテナガエビ	-	△	B	-	-	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		

表 11-12 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査										
	環境要素の区分	影響要因の区分															
植物	植物（重要な種及び群落）	敷地の存在（土地の改変）	<p><b>現地調査結果</b></p> <p>・ <b>植物相</b> 都市計画対象事業実施区域及びその周辺で確認された種数を、以下に示す。</p> <p>植物相：114科 501種</p> <p>・ <b>重要な種</b> 以下に示す1種の重要な種が確認された。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>科名</th> <th>種名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>スイレン</td> <td>ヒツジグサ</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ <b>植生</b> 確認された植生は、9群落・3土地利用単位の計12区分である。 調査地域はほぼ全域が人為的な影響を受けた代償植生域であると言える。また、調査地域に分布する植物群落には、湿地や湿原、岩場のような限られた立地環境に形成される群落は見られず、いずれも島根県東部の低山地に普通に見られる群落である。</p> <p>・ <b>重要な植物群落</b> 現地調査の結果、重要な植物群落は確認されなかった。</p>	No	科名	種名	1	スイレン	ヒツジグサ	<p><b>植物群落の改変状況</b> 敷地の存在（土地の改変）により、ススキ群落（改変率25.8%）、クズ群落（改変率17.1%）、ヌルデ・アカメガシワ群落（改変率12.5%）、コナラ群落（改変率0.9%）が改変によって消失すると考えられる。しかし、これらの植物群落は比較的新しく人為の影響で出現した二次的な植物群落であり、周辺にも広く存在することから、生育環境の減少による影響は極めて小さいと予測される。</p> <p><b>重要な種</b> 重要な種として、1種が確認された。</p> <p style="text-align: center;">&lt; 重要な植物種の予測結果 &gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種名</th> <th>予測結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ヒツジグサ</td> <td>1か所（10個体）の生育地は都市計画対象事業実施区域から十分離れた箇所を確認された。敷地の存在による直接改変は無く、日照や湿度等の微気象の変化は生じない。また、工事による雨水（濁水）の流入のおそれも無い。 以上のことから、敷地の存在による本種の生育環境に対する影響は極めて小さいと予測される。</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>重要な植物群落</b> 現地調査の結果、重要な植物群落は確認されなかった、</p>	種名	予測結果	ヒツジグサ	1か所（10個体）の生育地は都市計画対象事業実施区域から十分離れた箇所を確認された。敷地の存在による直接改変は無く、日照や湿度等の微気象の変化は生じない。また、工事による雨水（濁水）の流入のおそれも無い。 以上のことから、敷地の存在による本種の生育環境に対する影響は極めて小さいと予測される。	<p><b>環境保全措置の検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>植栽の実施</b>：敷地内においても可能な限り植栽を施す。</li> <li>・ <b>仮設沈砂池の設置</b>：敷地内の雨水を仮設沈砂池に集めて沈砂後に下流河川へ放流する。</li> <li>・ <b>仮設沈砂池の浚渫</b>：沈砂池における濁水の沈降機能が維持されるよう、定期的な土砂の抜き取りをするなど適切な対応に努める。</li> <li>・ <b>排水のクローズド・リサイクル</b>：ゴミピット汚水、プラント排水及び生活排水は、排水処理後に再循環利用等を行い、周辺河川等へは放流しない。</li> </ul>	<p><b>回避・低減に係る評価</b> 調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、敷地の存在（土地の改変）に伴う植物への影響は、左記の環境保全措置を講ずることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p>	<p>事業計画との重ね合わせにより行った予測の不確実性は小さく、また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>
No	科名	種名															
1	スイレン	ヒツジグサ															
種名	予測結果																
ヒツジグサ	1か所（10個体）の生育地は都市計画対象事業実施区域から十分離れた箇所を確認された。敷地の存在による直接改変は無く、日照や湿度等の微気象の変化は生じない。また、工事による雨水（濁水）の流入のおそれも無い。 以上のことから、敷地の存在による本種の生育環境に対する影響は極めて小さいと予測される。																

表 11-13 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																									
	環境要素の区分	影響要因の区分																																																																														
生態系	生態系 (地域を特徴づける生態系)	建設機械の稼働(騒音・振動)、雨水の排水(水の濁り)、敷地の存在(土地の改変)、機械等の稼働(照明の設置)	<p><b>現地調査結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動植物その他の自然環境に係る概況  <table border="1"> <caption>&lt;動物相・植物相の状況&gt;</caption> <thead> <tr> <th>分類群</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>哺乳類</td><td>6目9科13種</td></tr> <tr><td>鳥類(一般鳥類)</td><td>11目30科67種(猛禽類調査確認種を含む)</td></tr> <tr><td>鳥類(猛禽類)</td><td>1目2科8種(一般鳥類との重複種含む)</td></tr> <tr><td>両生類</td><td>2目7科12種</td></tr> <tr><td>爬虫類</td><td>2目4科6種</td></tr> <tr><td>陸上昆虫類</td><td>18目183科572種(底生動物との重複種含む)</td></tr> <tr><td>クモ類</td><td>1目20科42種</td></tr> <tr><td>陸産貝類</td><td>4目12科34種</td></tr> <tr><td>魚類</td><td>3目4科5種</td></tr> <tr><td>底生動物</td><td>6門25目96科244種(陸上昆虫類との重複種含む)</td></tr> <tr><td>植物</td><td>114科501種</td></tr> </tbody> </table> </li> <li>・都市計画対象事業実施区域北側の上新宮集落では、「古志ほたるまつり」が開催されている。</li> <li>・都市計画対象事業実施区域周辺におけるホテル類の確認状況は以下の通り。 <ul style="list-style-type: none"> <li>-ゲンジボタル:3回の調査で合計499個体を確認した。確認環境は主に河川であったが、周辺の樹林地にも分散して見られた。</li> <li>-ゲンジボタルの餌生物(カワニナ)調査の結果、ゲンジボタル成虫及びカワニナともに、「古志ほたるまつり」の会場である最下流区間において個体数の大半が確認された。カワニナは、①水深が浅い(主に水際~20cm程度の水深)、②流速が遅い(止水~20cm/S程度)、③コンクリート護岸、④細かな砂が堆積した箇所が多くみられた。一方、ゲンジボタルの幼虫は、瀬の石の隙間等に潜むことから、ゲンジボタルの生息には、それぞれの環境が近接していることが重要であると考えられる。</li> <li>-ヘイケボタル:3回の調査で合計492個体を確認した。確認環境は主に水田で、河川にも小数見られた。</li> <li>-ヒメボタル:2回の調査で合計86個体を確認した。確認環境は主に樹林及び道路脇の湿生草地であった。</li> </ul> </li> <li>・生態系の類型区分                      調査地域の自然環境を、比較的自自然度の高い「樹林及び谷戸」、人為の影響が強い「採石場及び跡地」、「河川」の3つの類型区分に大別した。</li> <li>・注目種  <table border="1"> <caption>&lt;選定した注目種&gt;</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>分類</th> <th>種名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="4">上位性</td><td>鳥類</td><td>フクロウ</td></tr> <tr><td>鳥類</td><td>サシバ</td></tr> <tr><td>爬虫類</td><td>ヤマカガシ</td></tr> <tr><td>昆虫類</td><td>タガメ</td></tr> <tr><td rowspan="16">典型性</td><td>植物</td><td>ネザサ</td></tr> <tr><td>植物</td><td>コナラ</td></tr> <tr><td>植物</td><td>オオバヤシャブシ</td></tr> <tr><td>植物</td><td>ススキ</td></tr> <tr><td>底生動物</td><td>ニッポンヨコエビ</td></tr> <tr><td>底生動物</td><td>ウチワミミズ属</td></tr> <tr><td>魚類</td><td>ミナミメダカ</td></tr> <tr><td>陸産貝類</td><td>ニホンケンガイ</td></tr> <tr><td>昆虫類</td><td>ウスイロコバントビケラ</td></tr> <tr><td>昆虫類</td><td>クルマバタモドキ</td></tr> <tr><td>両生類</td><td>モリアオガエル</td></tr> <tr><td>鳥類</td><td>ヒヨドリ</td></tr> <tr><td>鳥類</td><td>アトリ</td></tr> <tr><td>哺乳類</td><td>アカネズミ</td></tr> <tr><td rowspan="4">特殊性</td><td>哺乳類</td><td>キクガシラコウモリ</td></tr> <tr><td>昆虫類</td><td>ゲンジボタル</td></tr> <tr><td>昆虫類</td><td>ヘイケボタル</td></tr> <tr><td>昆虫類</td><td>ヒメボタル</td></tr> </tbody> </table> </li> </ul>	分類群	概要	哺乳類	6目9科13種	鳥類(一般鳥類)	11目30科67種(猛禽類調査確認種を含む)	鳥類(猛禽類)	1目2科8種(一般鳥類との重複種含む)	両生類	2目7科12種	爬虫類	2目4科6種	陸上昆虫類	18目183科572種(底生動物との重複種含む)	クモ類	1目20科42種	陸産貝類	4目12科34種	魚類	3目4科5種	底生動物	6門25目96科244種(陸上昆虫類との重複種含む)	植物	114科501種	区分	分類	種名	上位性	鳥類	フクロウ	鳥類	サシバ	爬虫類	ヤマカガシ	昆虫類	タガメ	典型性	植物	ネザサ	植物	コナラ	植物	オオバヤシャブシ	植物	ススキ	底生動物	ニッポンヨコエビ	底生動物	ウチワミミズ属	魚類	ミナミメダカ	陸産貝類	ニホンケンガイ	昆虫類	ウスイロコバントビケラ	昆虫類	クルマバタモドキ	両生類	モリアオガエル	鳥類	ヒヨドリ	鳥類	アトリ	哺乳類	アカネズミ	特殊性	哺乳類	キクガシラコウモリ	昆虫類	ゲンジボタル	昆虫類	ヘイケボタル	昆虫類	ヒメボタル	<p><b>生態系の生息基盤の改変状況</b></p> <p>工事の実施により、採石場及び跡地(改変率13.5%)及び樹林及び谷戸(改変率0.5%)が改変によって基盤環境が消失すると考えられ、採石場及び跡地の「ススキ群落」、「クズ群落」、「ヌルデ・アカメガシワ群落」で改変率が高いと予測された。改変範囲の大半は採石場及び跡地であり、人為の影響が強く自然度の低い環境である。一方、比較的自自然度の高い樹林及び谷戸の改変率は0.5%と極めて少ない。</p> <p>よって、敷地の存在(土地の改変)による生態系の基盤環境への影響は極めて小さいと予測された。</p> <p><b>生態系の注目種(上位性、典型性、特殊性)への影響</b></p> <p><b>【上位性】</b>                      タガメが「影響を受ける(A)」と予測され、その他の種については「影響は極めて小さい(C)」と予測された。よって、工事の実施及び施設等の存在・供用により、止水域の上位性種が影響を受けると予測された。</p> <p><b>【典型性】</b>                      ウチワミミズ属が「影響を受ける(A)」、ニッポンヨコエビ、ウスイロコバントビケラ、モリアオガエルが「影響を受けるおそれがある(B)」と予測され、その他の種については「影響は極めて小さい(C)」と予測された。よって、工事の実施及び施設等の存在・供用により、止水域及び河川に生息する種及び集光性を有する昆虫類の典型性種が影響を受けると予測された。</p> <p><b>【特殊性】</b>                      ゲンジボタル、ヒメボタルが「影響を受けるおそれがある(B)」と予測され、その他の種については「影響は極めて小さい(C)」と予測された。よって、工事の実施及び施設等の存在・供用により、河川に生息する種及び光コミュニケーションを行う昆虫類の特殊性種が影響を受けると予測された。</p> <p><b>地域を特徴付ける生態系への影響</b></p> <p>都市計画対象事業実施区域及びその周辺の生態系全体には大きな影響はないものの、個々の注目種に対する影響が、当地の生態系の課題であるものと考えられる。</p>	<p><b>環境保全措置の検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資材等運搬車両走行時の配慮:安全運転の励行及び車両管理を徹底する。</li> <li>・建設機械・工法の選定:できる限り低騒音型の建設機械・工法を採用するよう努める。</li> <li>・仮設沈砂池の設置:敷地内の雨水を仮設沈砂池に集めて沈砂後に下流河川へ放流する。</li> <li>・仮設沈砂池の浚渫:仮設沈砂池における濁水の沈降機能が維持されるよう、定期的な土砂の抜き取りをするなど適切な対応に努める。</li> <li>・仮設排水経路及び仮設沈砂池位置の検討:敷地造成工事における仮設排水経路及び仮設沈砂池の位置を検討し、敷地に隣接する2か所の注目すべき生息地(止水域)への濁水の流入を防ぐ。</li> <li>・排水のクローズド・リサイクル:ごみピット汚水、プラント排水及び生活排水は、排水処理後に再循環利用等を行い、周辺河川等へは放流しない。</li> <li>・植栽の実施:敷地内においても可能な限り植栽を施す。</li> <li>・敷地造成範囲の見直し:敷地造成範囲を見直すことで、改変により消失するおそれのある注目すべき生息地(止水域)を保存する。</li> <li>・施設内の排水経路の配慮:施設内の排水経路に配慮することで、注目すべき生息地(止水域)への集水域面積を維持する。</li> <li>・代償環境の整備:既存の注目すべき生息地(止水域)を改良したビオトープを造成する。</li> <li>・代償環境への水源導入:保全対象の注目すべき生息地(止水域③)への水源(地下浸透水)を整備するビオトープ(止水域⑤)に導入する。</li> <li>・照明器具への配慮:施設入口に設置する照明施設には、周辺への光の漏洩を極力抑える構造とし、光源の波長は昆虫類への影響が小さいものを採用する。</li> <li>・仮設沈砂池内の蛇行構造:仮設沈砂池内に壁を配置し、入口から出口の水の流れを蛇行させることにより、仮設沈砂池内の水の滞留時間を稼ぐ。</li> <li>・砂防堰堤及び既存沈砂池の適宜浚渫:沈砂池の役割を果たす下流の砂防堰堤及び既存沈砂池の土砂貯留容量を考慮し、適宜浚渫する。</li> </ul>	<p><b>回避・低減に係る評価</b></p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、工事の実施(建設機械の稼働(騒音・振動)・雨水の排水(水の濁り))及び敷地の存在(土地の改変)、機械等の稼働(照明の設置)に伴う生態系への影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p> <p>事業計画との重ね合わせにより行った予測の不確実性は小さく、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられる。ただし、都市計画対象事業実施区域周辺に分布するタガメ及びウチワミミズ属、ニッポンヨコエビ、モリアオガエル、ヒメボタルについては、影響が生じると予測されており、当該影響に対して実施する環境保全措置のうち「敷地造成範囲の見直し」、「施設内の排水経路の配慮」、「代償環境の整備」については、その効果に不確実性があると考えられることから、事後調査として、「ビオトープ及び既存生息地生息状況の調査」を実施する。</p>
分類群	概要																																																																															
哺乳類	6目9科13種																																																																															
鳥類(一般鳥類)	11目30科67種(猛禽類調査確認種を含む)																																																																															
鳥類(猛禽類)	1目2科8種(一般鳥類との重複種含む)																																																																															
両生類	2目7科12種																																																																															
爬虫類	2目4科6種																																																																															
陸上昆虫類	18目183科572種(底生動物との重複種含む)																																																																															
クモ類	1目20科42種																																																																															
陸産貝類	4目12科34種																																																																															
魚類	3目4科5種																																																																															
底生動物	6門25目96科244種(陸上昆虫類との重複種含む)																																																																															
植物	114科501種																																																																															
区分	分類	種名																																																																														
上位性	鳥類	フクロウ																																																																														
	鳥類	サシバ																																																																														
	爬虫類	ヤマカガシ																																																																														
	昆虫類	タガメ																																																																														
典型性	植物	ネザサ																																																																														
	植物	コナラ																																																																														
	植物	オオバヤシャブシ																																																																														
	植物	ススキ																																																																														
	底生動物	ニッポンヨコエビ																																																																														
	底生動物	ウチワミミズ属																																																																														
	魚類	ミナミメダカ																																																																														
	陸産貝類	ニホンケンガイ																																																																														
	昆虫類	ウスイロコバントビケラ																																																																														
	昆虫類	クルマバタモドキ																																																																														
	両生類	モリアオガエル																																																																														
	鳥類	ヒヨドリ																																																																														
	鳥類	アトリ																																																																														
	哺乳類	アカネズミ																																																																														
	特殊性	哺乳類	キクガシラコウモリ																																																																													
		昆虫類	ゲンジボタル																																																																													
昆虫類		ヘイケボタル																																																																														
昆虫類		ヒメボタル																																																																														

表 11-14 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査
	環境要素の区分	影響要因の区分					
景観	景観（主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観）	敷地の存在（土地の改変）、構造物の存在	<p><b>現地調査結果</b></p> <p>・<b>主要な眺望点の状況</b> 都市計画対象事業実施区域北西側約 3.8km に真幸ヶ丘公園展望台が、同東北東側約 3.0km に朝山森林公園展望台が分布している。また、中国自然歩道久奈子神社・花の郷周遊モデルコースは、踏査の結果、都市計画対象事業実施区域北北西側約 1.8km のハイキングコース脇に伐開地があり、本施設構造物を視認できるものと考えられた。</p> <p>・<b>景観資源の状況</b> 都市計画対象事業実施区域北側に国指定名勝及び天然記念物「立久恵」及び市指定天然記念物「立久恵峡特殊植物群落」が分布しており、立久恵峡付近の神戸川は都市計画対象事業実施区域の南側～東側～北側と流れて、日本海に流入している。芦谷滝は、都市計画対象事業実施区域西側の山間部に位置した滝である。十間川は、都市計画対象事業実施区域北東側で神戸川から分流し、都市計画対象事業実施区域北側を流れ、神西湖に流入している。</p> <p>・<b>主要な眺望景観の状況</b> 「主要な眺望点の状況」で選定した調査対象地点 3 地点を主要眺望点とし、四季の景観写真を撮影した。</p>  <p>&lt;真幸ヶ丘公園展望台&gt;</p>  <p>&lt;朝山森林公園展望台&gt;</p>  <p>&lt;中国自然歩道久奈子神社・花の郷周遊モデルコース&gt;</p>	<p><b>敷地の存在及び構造物の存在に伴う主要な眺望点及び景観資源の分布への影響</b> 主要な眺望点及び景観資源の分布位置は、都市計画対象事業実施区域から十分に離れており、主要な眺望点及び景観資源の改変は行わない。よって、本施設等の整備による主要な眺望点及び景観資源の分布への影響はないと予測される。</p> <p><b>敷地の存在及び構造物の存在に伴う主要な眺望景観の変化</b> 本施設構造物は、煙突の高さ 59m、工場棟建屋の高さ 35m を想定しており、共に周辺の樹木より高くなることから、遠方からの視認が推定される。よって、遠方かつ高台で、都市計画対象事業実施区域周辺の樹林を視認可能な眺望点からは樹林景観の中に本施設構造物が出現することとなる。一方、都市計画対象事業実施区域は丘陵地の中腹にあり、周辺には住居はないこと、周辺集落は急峻な谷地形に立地していること、平野部から概ね 2km 以上離れていることから、視認可能な眺望点からは中景～遠景となり、眺望景観のごく一部として認識されるものと予測される。</p> <p>&lt;真幸ヶ丘公園展望台&gt; 真幸ヶ丘公園展望台は、都市計画対象事業実施区域の北西側、約 3.8km の遠景域に位置する。都市計画対象事業実施区域方向の眺望景観に入る景観資源は無い。 フォトモンタージュによる景観の変化の状況は、山間に煙突の上部が視認され、スカイラインを切断するものの、本施設構造物は輪郭がやっと分かる程度であり、眺望景観への変化は極めて小さい。また、景観資源の眺望への影響も無い。 以上より、真幸ヶ丘公園展望台からの眺望景観への影響は、極めて小さいと予測される。</p> <p>&lt;朝山森林公園展望台&gt; 朝山森林公園展望台は、都市計画対象事業実施区域の北東側、約 2.9km の中景域に位置する。都市計画対象事業実施区域方向の眺望景観は、神戸川が視認できる。 フォトモンタージュによる景観の変化の状況は、山間に煙突及び建屋の一部が視認され、スカイラインを切断する。本施設構造物は十分に見えるが、景観的にはほとんど気にならない。また、景観資源の眺望への影響も無い。 以上より、朝山森林公園展望台からの眺望景観への影響は、極めて小さいと予測される。</p> <p>&lt;中国自然歩道久奈子神社・花の郷周遊モデルコース&gt; 中国自然歩道久奈子神社・花の郷周遊モデルコースの主要な眺望点は、都市計画対象事業実施区域の北北西側、約 1.6km の中景域に位置する。都市計画対象事業実施区域方向の眺望景観に入る景観資源は無い。 フォトモンタージュによる景観の変化の状況は、山間に煙突及び建屋の一部が視認され、スカイラインを切断する。本施設構造物はシルエットになっている場合はよく見えるが、視覚の変化の程度は小さい。また、景観資源の眺望への影響も無い。 以上より、中国自然歩道久奈子神社・花の郷周遊モデルコースの主要な眺望点からの眺望景観への影響は、極めて小さいと予測される。</p> <p>以上のことから、主要眺望点の代表点における圧迫感等の変化は、全ての地点で極めて小さいと予測された。</p>	<p><b>環境保全措置の検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>構造物の意匠の検討</b>：建屋・煙突の形状及び配色に配慮する。</li> <li>・<b>植栽の実施</b>：敷地内においても可能な限り植栽を施す。</li> <li>・<b>出雲市景観計画との整合</b>：上記「構造物の意匠の検討」及び「植栽の実施」の実施においては、出雲市景観計画との整合を図る。</li> </ul>	<p><b>回避・低減に係る評価</b> 調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、敷地の存在（土地の改変）及び構造物の存在が都市計画対象事業実施区域近傍からの眺望景観へ及ぼす影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p>	<p>事業計画との重ね合わせにより行った予測の不確実性は小さく、また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>

表 11-15 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																											
	環境要素の区分	影響要因の区分																																																
廃棄物等	廃棄物等	建設機械の稼働	<p><b>既存資料の整理及び事業計画に基づく推定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建設副産物 &lt;建設発生土&gt; 建設工事で発生する建設発生土量は、本施設で 375,600m<sup>3</sup>となる。</li> <li>&lt;その他の建設副産物&gt; 建設工事に伴い発生するその他の建設混合廃棄物は、工場用途での規模別原単位が 18kg/m<sup>2</sup> となり、その内訳の割合は、コンガラが 25%、アスコンが 6%、ガラス陶磁器が 5%、廃プラが 8%、金属くずが 6%、木くずが 13%、紙くずが 7%、石膏ボードが 8%、その他が 22%となる。</li> </ul>	<p><b>建設副産物の処分内容</b> 建設発生土は 375,600m<sup>3</sup>発生するが、そのうち 2,300m<sup>3</sup>については盛土として場内で再利用する。残土として 373,300m<sup>3</sup>が発生するが、「資源の有効な利用の促進に関する法律」に基づき、全て隣接する既存の採石場（操業中）の採掘跡地の窪地の埋め戻し土として有効利用を図る計画である。</p> <p>また、伐採木、コンクリート殻は、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」に基づき可能な限り再利用及び再資源化に努めるとともに、再利用及び再資源化できない建設副産物は、産業廃棄物処理業者へ委託し、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき適切に処分を行うことから、適正に処理・処分することができるものと予測する。</p> <p style="text-align: center;"><b>&lt;建設工事に伴う建設副産物の発生量と処分内容&gt;</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>発生量</th> <th>場内再利用</th> <th>残余量</th> <th>処分内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>建設発生土</td> <td>375,600 m<sup>3</sup></td> <td>2,300 m<sup>3</sup></td> <td>373,300 m<sup>3</sup></td> <td>残土は隣接採石場で有効利用する。</td> </tr> <tr> <td>伐採木</td> <td>627 t</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>再資源化</td> </tr> <tr> <td>コンクリート殻</td> <td>64 m<sup>3</sup></td> <td>—</td> <td>—</td> <td>再資源化</td> </tr> </tbody> </table> <p>その他の建設副産物の処分内容 主要施設である工場棟、管理棟の延床面積及び算出した建設混合廃棄物の発生量以下に示すとおりであり、建築工事全体の合計で約 189 t の発生が予測される。</p> <p>これらの建設副産物は、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」に基づき可能な限り再利用及び再資源化に努めるとともに、再利用及び再資源化できない建設副産物は、産業廃棄物処理業者へ委託し、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき適切に処分を行うことから、適正に処理・処分することができるものと予測する。</p> <p style="text-align: center;"><b>&lt;主要施設の床面積と建設混合廃棄物の発生量&gt;</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>主要施設</th> <th>建物面積 (m<sup>2</sup>)</th> <th>階数</th> <th>延床面積 (m<sup>2</sup>)</th> <th>建設工事排出原単位 (t/m<sup>2</sup>)</th> <th>建設副産物発生量 (t)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>工場棟</td> <td>4,950</td> <td>—</td> <td>6,435</td> <td rowspan="2">0.023</td> <td>148</td> </tr> <tr> <td>管理棟</td> <td>600</td> <td>3</td> <td>1,800</td> <td>41</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>5,550</td> <td>—</td> <td>8,235</td> <td>—</td> <td>189</td> </tr> </tbody> </table>	種類	発生量	場内再利用	残余量	処分内容	建設発生土	375,600 m <sup>3</sup>	2,300 m <sup>3</sup>	373,300 m <sup>3</sup>	残土は隣接採石場で有効利用する。	伐採木	627 t	—	—	再資源化	コンクリート殻	64 m <sup>3</sup>	—	—	再資源化	主要施設	建物面積 (m <sup>2</sup> )	階数	延床面積 (m <sup>2</sup> )	建設工事排出原単位 (t/m <sup>2</sup> )	建設副産物発生量 (t)	工場棟	4,950	—	6,435	0.023	148	管理棟	600	3	1,800	41	合計	5,550	—	8,235	—	189	<p><b>環境保全措置の検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発生土の再利用：建設発生土の一部は盛土として場内で再利用するとともに、発生する残土は全て隣接する既存の採石場の採掘跡地の窪地の埋め戻し土として有効利用を図る。</li> <li>・再資源化の促進：工事で発生する建設廃棄物は、再利用しやすい材料の使用や分別を徹底し、再資源化の促進に努める。</li> </ul>	<p><b>回避・低減に係る評価</b> 調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、建設機械の稼働に伴う廃棄物等の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p>	<p>予測では公表されている原単位等を用いており不確実性は小さく、また、採用する環境保全措置の効果に不確実性はほとんどないと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>
		種類	発生量	場内再利用	残余量	処分内容																																												
建設発生土	375,600 m <sup>3</sup>	2,300 m <sup>3</sup>	373,300 m <sup>3</sup>	残土は隣接採石場で有効利用する。																																														
伐採木	627 t	—	—	再資源化																																														
コンクリート殻	64 m <sup>3</sup>	—	—	再資源化																																														
主要施設	建物面積 (m <sup>2</sup> )	階数	延床面積 (m <sup>2</sup> )	建設工事排出原単位 (t/m <sup>2</sup> )	建設副産物発生量 (t)																																													
工場棟	4,950	—	6,435	0.023	148																																													
管理棟	600	3	1,800		41																																													
合計	5,550	—	8,235	—	189																																													
		廃棄物の発生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の稼働に伴う廃棄物の発生量 施設の稼働に伴い発生する廃棄物（焼却灰）の発生量は、4,910 t/年となる。</li> </ul>	<p><b>施設の稼働に伴い発生する廃棄物（焼却灰）の発生量</b> 施設の供用に伴って発生する廃棄物（焼却灰）の発生量は、下表に示すとおりであり、これらの廃棄物は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき、適切に中間処理を行った上で、神西一般廃棄物埋立処分場に搬入し、適切に処分を行うことから、適正に処理・処分することができるものと予測する。</p> <p style="text-align: center;"><b>&lt;施設の供用に伴う廃棄物（焼却灰）量&gt;</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>廃棄物等の種類</th> <th>発生量 (t/年)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>焼却灰</td> <td>4,910</td> </tr> </tbody> </table>	廃棄物等の種類	発生量 (t/年)	焼却灰	4,910	<p><b>環境保全措置の検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分別・減量化の推進：出雲市において、分別回収の徹底及びごみの減量化の取り組みを推進する。</li> </ul>	<p><b>回避・低減に係る評価</b> 調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、施設の供用に伴う廃棄物等の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p>	<p>予測及び採用する環境保全措置の効果に不確実性はほとんどないと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>																																							
廃棄物等の種類	発生量 (t/年)																																																	
焼却灰	4,910																																																	

表 11-16 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																																
	環境要素の区分	影響要因の区分																																																																																					
温室効果ガス等	温室効果ガス等	施設の稼働(排ガス・機械等の稼働)、廃棄物の搬入等	<p>既存資料の整理及び事業計画に基づく推定</p> <p>・発生する温室効果ガス等の種類及びその量</p> <p>本施設の事業計画及び既存施設(出雲エネルギーセンター)の状況に基づいて整理した。</p> <p>&lt;温室効果ガスの発生要因(既存施設及び本施設)&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">発生要因</th> <th colspan="2">既存施設</th> <th colspan="2">本施設</th> </tr> <tr> <th>直接排出</th> <th>間接排出</th> <th>直接排出</th> <th>間接排出</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">排出</td> <td>廃棄物運搬車両等の運行</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>ごみの焼却</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機械等の稼働(電気使用)</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>機械等の稼働(燃料使用)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>発電</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	発生要因	既存施設		本施設		直接排出	間接排出	直接排出	間接排出	排出	廃棄物運搬車両等の運行	—	○	—	○	ごみの焼却	○	—	○	—	機械等の稼働(電気使用)	—	○	—	○	機械等の稼働(燃料使用)	○	—	○	—	削減	発電	—	○	—	○	<p>施設の供用時(平成34年度)の本施設から直接排出される温室効果ガスは21,251 tCO<sub>2</sub>/年、本施設外で間接的に排出される温室効果ガスは-8,198 tCO<sub>2</sub>/年と予測され、合計で13,053 tCO<sub>2</sub>/年の温室効果ガスが排出されると予測される。</p> <p>本施設については、既存施設(平成28年度)と比較すると、17,673 tCO<sub>2</sub>/年の削減効果があるものと予測される。</p> <p>&lt;温室効果ガス予測結果&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">発生要因</th> <th colspan="2">既存施設(tCO<sub>2</sub>/年)</th> <th colspan="2">本施設(tCO<sub>2</sub>/年)</th> </tr> <tr> <th>直接排出</th> <th>間接排出</th> <th>直接排出</th> <th>間接排出</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>廃棄物運搬車両等の運行</td> <td>—</td> <td>2,348</td> <td>—</td> <td>1,976</td> </tr> <tr> <td>ごみの焼却</td> <td>21,408</td> <td>—</td> <td>21,109</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>機械等の稼働(電気使用)</td> <td>—</td> <td>14,722</td> <td>—</td> <td>7,957</td> </tr> <tr> <td>機械等の稼働(燃料使用)</td> <td>6,322</td> <td>—</td> <td>142</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>発電</td> <td>—</td> <td>-14,074</td> <td>—</td> <td>-18,131</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>27,730</td> <td>2,996</td> <td>21,251</td> <td>-8,198</td> </tr> <tr> <td>総計</td> <td colspan="2">30,726</td> <td colspan="2">13,053</td> </tr> </tbody> </table>	発生要因	既存施設(tCO <sub>2</sub> /年)		本施設(tCO <sub>2</sub> /年)		直接排出	間接排出	直接排出	間接排出	廃棄物運搬車両等の運行	—	2,348	—	1,976	ごみの焼却	21,408	—	21,109	—	機械等の稼働(電気使用)	—	14,722	—	7,957	機械等の稼働(燃料使用)	6,322	—	142	—	発電	—	-14,074	—	-18,131	計	27,730	2,996	21,251	-8,198	総計	30,726		13,053		<p>環境保全措置の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー回収：焼却等の処理により発生した廃熱を利用して施設内で発電・利用するほか、余剰電力については売電等を行い、エネルギーを回収・循環利用する。</li> <li>・運転手の教育・指導：廃棄物運搬車両の運行等に当たっては、走行速度等の交通法規を遵守し、アイドリングストップの励行や空ぶかしを行わない等、運転手の教育・指導を徹底する。</li> <li>・分別・減量化の推進：出雲市において、分別回収の徹底及びごみの減量化の取り組みを推進する。</li> </ul>	<p>回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置の検討結果をふまえると、施設の稼働(排ガス及び機械等の稼働)及び廃棄物の運搬等に伴う温室効果ガス等の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。</p>	<p>予測では公表されている原単位及び算出方法等を用いており不確実性は小さく、また、採用する環境保全措置の効果に不確実性はほとんどないと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>
発生要因	既存施設		本施設																																																																																				
	直接排出	間接排出	直接排出	間接排出																																																																																			
排出	廃棄物運搬車両等の運行	—	○	—	○																																																																																		
	ごみの焼却	○	—	○	—																																																																																		
	機械等の稼働(電気使用)	—	○	—	○																																																																																		
	機械等の稼働(燃料使用)	○	—	○	—																																																																																		
削減	発電	—	○	—	○																																																																																		
発生要因	既存施設(tCO <sub>2</sub> /年)		本施設(tCO <sub>2</sub> /年)																																																																																				
	直接排出	間接排出	直接排出	間接排出																																																																																			
廃棄物運搬車両等の運行	—	2,348	—	1,976																																																																																			
ごみの焼却	21,408	—	21,109	—																																																																																			
機械等の稼働(電気使用)	—	14,722	—	7,957																																																																																			
機械等の稼働(燃料使用)	6,322	—	142	—																																																																																			
発電	—	-14,074	—	-18,131																																																																																			
計	27,730	2,996	21,251	-8,198																																																																																			
総計	30,726		13,053																																																																																				

## 第 12 章 環境影響評価の委託先の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地

## 第12章 環境影響評価の委託先の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地

### 12.1 環境影響評価の委託先の名称

パシフィックコンサルタンツ株式会社 山陰事務所

### 12.2 環境影響評価の委託先の代表者の氏名

所長 川西 慎二

### 12.3 環境影響評価の委託先の主たる事務所の所在地

島根県松江市末次本町 46 番地

## 第 13 章 その他の事項

## 第13章 その他の事項

### 13.1 配慮書についての一般の意見の概要及び都市計画決定権者の見解

島根県環境影響評価条例(平成 11 年 10 月 1 日島根県条例第 34 号)第 4 条の 5 第 1 項の規定に基づき、配慮書について平成 28 年 6 月 15 日～7 月 15 日の 1 ヶ月間縦覧及び一般の意見を求めた結果、1 件の環境保全の見地からの意見が提出された。

配慮書について提出された環境保全の見地からの意見及び都市計画決定権者の見解は、表 13-1 に示すとおりである。

表 13-1 環境の保全の見地からの意見の概要と都市計画決定権者の見解

環境要素	環境の保全の見地からの意見の概要	都市計画決定権者の見解
その他 (対象事業の内容)	次期焼却炉については、実績のあるメーカーを選定していただきたい。	本事業に係る施設の整備方針(配慮書 2-7 頁、図 2.2-5)に従い、事業者において、今後実施する施設基本計画の中で処理方式を検討し、事業者選定業務で適切なメーカーを選定していきます。

## 13.2 環境の保全の配慮に係る検討の経緯及びその内容

### (1) 計画段階環境配慮書における事業実施想定区域の位置の選定

本事業の建設地(配慮書に示した事業実施想定区域)の位置は、図 13.2-1 に示す要件・手順にて候補地の抽出・評価を行い、効率性・経済性、環境配慮、安全・安心、公平性の観点から総合的に判断したうえで、地元である古志地区自治協会の同意を得て平成 27 年 6 月に決定したものである。

#### (1) 施設計画概要の整理

候補地選定の前段として、施設計画概要(簡易な基本構想)を整理し、必要敷地面積の設定等を行った。

#### (2) 除外地域の設定(ネガティブマップ)

土地利用に係る法規制等を考慮して「建設することが望ましくない地域」を定め、その地域を除外した。

#### (3) 建設可能地域の設定(ポジティブマップ)

除外地域以外の地域の中から、収集運搬効率を考慮して、「建設することが望ましい地域」を定めた。

#### (4) 建設候補地抽出の考え方(整理)

建設可能地域の中から、建設候補地を抽出するにあたっての考え方を整理した。

#### (5) 建設候補地の抽出・絞り込み

建設候補地抽出の考え方に沿って、地図情報等を基に建設候補地を抽出した上で、各種評価項目による比較評価を行い、建設候補地の絞り込みを行った。(3か所)

#### (6) 建設候補地(1か所)の現地踏査(調査)

(5)において絞り込みを行った建設候補地(3か所)の中から、優先的に検討を行う建設候補地(1か所)を決定して現地踏査(調査)し、施設建設にあたっての課題の有無等を調査した。

図 13.2-1 本事業に係る候補地の選定要件・手順

(2) 計画段階環境配慮書の検討経緯

1) 事業実施想定区域における複数案の設定

本建設地を対象に、島根県環境影響評価条例(平成 11 年 10 月 1 日島根県条例第 34 号)第 4 条の 3 の規定に基づき、平成 28 年 6 月に「出雲市次期可燃ごみ処理施設整備事業に係る計画段階環境配慮書」を作成したところである。

本事業の建設地の位置については、前述のとおり、環境配慮のほかに効率性・経済性、安全・安心、公平性の観点から総合的に判断したうえで、地元である古志地区自治協会の同意を得て平成 27 年 6 月に決定したところである。したがって、計画段階環境配慮書においては、建設地における施設の配置に係る複数案として、表 13.2-1 に示す 2 案を検討・設定し、計画段階配慮事項の検討を行った。

なお、現在稼働している出雲エネルギーセンターを延命化して引き続き使用し、本事業を実施しない案(ゼロ・オプション)については、「次期可燃ごみ処理施設建設用地選定調査」の結果、維持管理コスト及び新施設を建設する場合の建設コスト・既存施設の解体コスト等を含めて比較しても、費用対効果の面で大きく不利であることから、当該案は複数案に含めないこととした。

表 13.2-1 複数案の設定(施設の配置)

	配置案	計画案の概要
案 1 : 北側配置案		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施想定区域内における北側エリアに施設を配置</li> <li>・敷地造成に必要な掘削土量は約26万<math>m^3</math>で造成面積・土量が少ない</li> <li>・区域内で接続するアクセス道路延長が短い</li> <li>・区域北側の平地側に近いため周囲からの視認性が相対的に高い</li> </ul>
案 2 : 南側配置案		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施想定区域内における南側エリアに施設を配置</li> <li>・敷地造成に必要な掘削土量は約80万<math>m^3</math>で案 1 と比較して造成面積・土量が多い</li> <li>・区域内で接続するアクセス道路延長が長い</li> <li>・区域北側の平地側より遠いため周囲からの視認性が相対的に小さい</li> </ul>

2) 複数案に係る計画段階配慮事項の選定と調査、予測及び評価の実施

先に示した複数案を対象に、計画段階配慮事項として、複数案により影響の程度の差が考えられる「資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に係る大気質・騒音・振動」、「敷地の存在（土地の改変）に係る動物・植物・生態系」、「敷地の存在（土地の改変）及び構造物の存在に係る景観」を選定し、調査、予測及び評価を行った。

評価結果は表 13.2-2 に示すとおりであり、環境影響に係る比較・検討の結果、案 2（南側配置案）に比し、案 1（北側配置案）の方が、環境影響の観点からは優位であると評価した。

表 13.2-2 環境要素別評価結果及びその理由

環境要素の区分	影響要因の区分	案 1 (北側配置案)	案 2 (南側配置案)	評価
大気質 騒音 振動	<工事の実施> 資材及び機械の運搬 に用いる車両の運行			北側配置案は、南側配置案に比べ残土等運搬車両台数が少ないことから、影響の程度は相対的に小さくなる。
動物 植物 生態系	<存在及び供用> 敷地の存在 (土地の改変)			北側配置案では地形等の状況から、南側配置案に比べ大きく造成する必要がなく、全体的に改変面積は小さくなることや、改変面積の大部分は「市街地・その他」の採石場の跡地であることから、影響の程度は相対的に小さくなる。
景観	<存在及び供用> 敷地の存在 (土地の改変)、 構造物の存在			いずれの案でも眺望点からの眺望景観への影響が一定程度生じるものと予測されるが、煙突頂部のみが視認される程度であり、両案の間に眺望景観に与える影響の程度に差はない。

注) : 環境影響の観点で優位である : 環境影響の観点で相対的に劣る

(3) 都市計画対象事業実施区域の検討・設定

平成 28 年 10 月に作成した「環境影響評価方法書」においては、可能な限り環境に配慮した事業とする観点で、配慮書での評価結果を踏まえ、配慮書における事業実施想定区域の北側エリアに施設を配置する案 1 を基本に、都市計画対象事業実施区域を配置・検討した。

また、本準備書においては、方法書作成以降の事業計画熟度の向上等を踏まえ、都市計画対象事業実施区域の範囲の絞り込み・精査を行った。

## 第 14 章 準備書についての意見及び 都市計画決定権者の見解

## 第14章 準備書についての意見及び都市計画決定権者の見解

### 14.1 準備書についての環境の保全の見地からの意見を有する者の意見及び都市計画決定権者の見解

「出雲市次期可燃ごみ処理施設整備事業に係る環境影響評価準備書」(以下「準備書」という。)は、島根県環境影響評価条例(平成 11 年 10 月 1 日、島根県条例第 34 号)第 15 条の規定に基づき、平成 30 年 1 月 5 日～2 月 5 日までの 1 か月間縦覧に供した。

また、本準備書について、島根県環境影響評価条例(平成 11 年 10 月 1 日、島根県条例第 34 号)第 17 条の規定に基づき、平成 30 年 1 月 5 日～2 月 20 日までの期間において、準備書についての環境の保全の見地からの意見を求めた結果、3 件の意見書が提出された。

準備書についての環境の保全の見地からの意見の概要及び都市計画決定権者の見解は、表 14-1 に示すとおりである。

表 14-1(1) 準備書についての環境の保全の見地からの意見の概要及び都市計画決定権者の見解

環境の保全の見地からの意見の概要	都市計画決定権者の見解
<b>騒音・振動</b>	
<p>騒音、振動等の調査が「道路に面する家の前」で行われておらず、「平均値」にて評価しているため、再調査・再評価(MAX 値)を要請します。</p>	<p>騒音の測定位置については、「騒音に係る環境基準の評価マニュアル(道路に面する地域編)」(平成 27 年 10 月、環境省)によると、評価対象道路より発生する道路交通騒音の大きさを把握する場合は、概ね直線区間で見通しの良い道路端の位置とするものとされています。</p> <p>道路沿道における騒音・振動等の調査は、これも参考にしううえで、交通量が概ね同一と考えられる区間内において、騒音・振動等の状況が代表的と想定される位置として、道路沿道における保全対象の分布状況も考慮しつつ、主要な交差点や局所的な湾曲部等を避けた位置で行いました。</p> <p>また、同マニュアルでは、個別の住居等における騒音レベルを把握する場合にも、建物による反射の影響を避けうる位置で測定することとされていることから、壁面を有する家屋前の位置を避けた場所で調査を行いました。</p> <p>なお、騒音に係る環境基準はエネルギー的な平均値(<math>L_{Aeq}</math>: 等価騒音レベル)で、振動規制法に係る道路交通振動の限度は時間率振動レベル(<math>L_{10}</math>: 測定値の 80% レンジ上端値)で評価することとされていることから、当該指標により評価を行いました。</p>

表 14-1(2) 準備書についての環境の保全の見地からの意見の概要及び都市計画決定権者の見解

環境の保全の見地からの意見の概要	都市計画決定権者の見解
<b>事後調査</b>	
<p>私はアクセス道路（古志 104 号線）に面した住居と作業場を所有し、そこで家族が暮らしています。（他に同様な住民が合わせて 4 軒あります。）</p> <p>建設工事や供用開始のタイミングで通行車両による騒音、振動、大気汚染および車両速度を「道路に面した家の前」で測定し、その結果（平均でなく MAX 値）を公表して頂きたい。</p>	<p>工事中及び供用後の関係車両の走行に伴う騒音・振動・大気汚染の影響については、現況調査の結果を踏まえて影響の予測を行った結果、いずれの地点・時期についても環境基準等の環境保全目標を満足すると評価されました。</p> <p>さらに、環境保全措置として運転手の教育・指導（走行速度等の交通法規の遵守、アイドリングストップの励行、空ぶかしを行わない等）や車両の維持管理を徹底し、騒音・振動・大気汚染の影響低減に努めてまいります。</p> <p>また、本環境影響評価で採用した予測手法は、予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さいと考えられること等により、騒音・振動・大気汚染等に係る事後調査は実施しないこととしています。</p> <p>しかしながら、事後調査とは別に、環境モニタリング調査の実施を検討する方針です。ご意見にある車両速度も含め、調査対象項目・内容並びに調査結果の公表方法等については、今後、地域住民の皆様のご意見・要望等もお聞きしたうえで検討してまいります。</p> <p>なお、環境モニタリング調査での測定結果については、各項目に係る環境基準等で規定された指標により、適切に評価を行います。</p>
<b>その他（交通安全）</b>	
<p>交通安全は運転者への教育の徹底とあるが、その方法を公表願いたい。その方法で請負会社（一次、二次、・・・）すべてに教育が浸透することを説明願いたい。</p>	<p>工事の実施にあたっては、事業者（市）から元請業者に対し、工事用車両の運行に係る運転手の教育・指導及びその周知・徹底（走行速度等の交通法規の遵守、アイドリングストップの励行、空ぶかしを行わない等の環境保全対策のほか、地元住民の優先走行の徹底等）を図ります。下請業者に対しても、元請業者を通じて安全訓練や新規入場者教育の実施を徹底するよう指導します。</p> <p>施設供用後においても、施設の運営事業者や収集運搬事業者等に対し工事中と同様に指導を図り、交通安全の徹底に努めてまいります。</p> <p>事業者（市）としては、工事中及び施設供用後のいずれにおいても指導した交通安全等が守られているかの把握に努めてまいります。</p> <p>なお、これらの交通安全対策については、今後の工事説明会等で、地域住民の方々へ説明を行います。</p>

表 14-1(3) 準備書についての環境の保全の見地からの意見の概要及び都市計画決定権者の見解

環境の保全の見地からの意見の概要	都市計画決定権者の見解
<b>その他（交通安全）</b>	
<p>個人でゴミを持ち込む者にどうやって教育するのか説明願います。</p>	<p>一般の個人ドライバーへ直接的に安全教育を行うことは困難ですが、本事業に係る関係車両の運転手の教育・指導のほかに、さらなる交通安全性の向上、個人車両も含めたドライバーへの注意喚起の観点で、通行車両のスピード制限、とび出し注意のための看板設置などを検討することも考えられ、歩行者等の通行支障等の課題にも留意のうえ、関係機関等と協議のうえ、必要に応じ適切な対応を行います。</p>
<p>特に、高齢者や小学生がアクセス道路を横断する際の事故防止をどうするのか。通行車両のスピード制限や高齢者、小学生に対し事故発生を抑制するインフラの整備を強くお願いする。</p>	
<b>その他（防犯対策）</b>	
<p>「道路に面した車庫や作業場」には大切な米や農機具を保管しているが、防犯上の対策を講じて頂きたい。</p>	<p>一般市民を含めた歩行者や車両の走行に伴う防犯上の課題については、個人個人の法令遵守に係る個別的な側面であると考えられるため、本事業における個別の対策は困難と考えています。</p>
<b>その他（道路整備）</b>	
<p>前記の問題は、いずれも住居や作業場に対し、アクセス道路が一定の距離を保って設定されれば解決できると考えるが、何故これを実施しないのか。「アクセス道路に面する住民」への配慮が消極的であり、その姿勢を改めて頂きたい。</p>	<p>ご指摘のアクセス道路は、適正な交通を担うことのできる道路構造を有しており、本事業の実施に伴う道路の付け替え等は困難ですが、道路沿道に分布する住居への騒音・振動等の影響や交通安全性の向上に留意し、運転手の教育・指導（走行速度等の交通法規の遵守、アイドリングストップの励行、空ぶかしを行わない等の環境保全対策のほか、地元住民の優先走行の徹底等）や車両の維持管理の徹底を行います。</p>
<b>その他（意見書の取り扱い）</b>	
<p>本意見書の取り扱いが、概要をまとめて県に提出とあるが、どのように意見をまとめるのか、不明瞭かつ不透明であり、意見書は「原本」を県に提出して頂きたい。</p>	<p>島根県環境影響評価条例第 18 条に基づき提出する「準備書についての意見の概要等送付書」に合わせて意見書の「原本」も島根県に提出いたします。</p>

## 14.2 準備書についての島根県知事の意見及び都市計画決定権者の見解

島根県環境影響評価条例(平成11年10月1日、島根県条例第34号)第19条第1項の規定に基づき、準備書について、島根県知事の意見が平成30年6月22日に述べられた。

準備書についての知事の意見及び都市計画決定権者の見解は、表14-2に示すとおりである。

表14-2(1) 準備書についての知事の意見及び都市計画決定権者の見解

知事の意見	都市計画決定権者の見解
<b>総括的事項</b>	
<p>1 事業計画及び工事計画を具体化するにあたっては、大気汚染防止、水質汚濁防止、生物多様性保全等の観点から、環境の保全に関する最新の知見を踏まえ、利用可能な最良の技術の導入など、より一層の環境影響の低減について検討を行うとともに、必要に応じ、地元住民等の意見を伺うなど、地元とのコミュニケーションのとれた適切な計画となるよう努めること。</p>	<p>事業計画及び工事計画を具体化するにあたっては、大気汚染防止、水質汚濁防止、生物多様性保全等の観点から、環境の保全に関する最新の知見を踏まえ、利用可能な最良の技術の導入など、より一層の環境影響の低減に留意します。</p> <p>また、地元住民等より提出された準備書についての環境保全の見地からの意見に留意し、地元とコミュニケーションをとり、適切な計画となるよう努めます。</p>
<p>2 事業実施前、施工中及び供用後に、現時点で予測し得ない新たな環境への影響を及ぼす事態が発生、または発生するおそれのある場合には、速やかに関係機関と協力して、原因究明のための調査及び適切な環境保全措置を講じること。また、必要に応じて環境監視を行うこと。</p>	<p>事業実施前、施工中及び供用後において、現時点で予測し得なかった新たな環境への影響を及ぼす事態が発生、または発生するおそれの生じた場合には、速やかに関係機関と協力して原因究明のための調査を実施し、適切な環境保全措置を講じます。</p> <p>また、「第10章 10.1 事後調査」に示す事後調査に加え、本市による自主的な環境監視のためのモニタリング調査を継続的に実施し、環境の状況の把握に努めます。(「第10章 10.2 環境監視調査」参照)</p>
<p>3 事業の実施に伴い、走行車両が増加することによる大気質、騒音、振動等の生活環境への影響を地元住民も懸念している。必要に応じ、主たる走行ルートとなる市道の建設・維持管理部局と連携し、影響の低減に努めること。</p>	<p>事業の実施に伴い、走行車両が増加することによる大気質、騒音、振動等の生活環境への影響については、地元住民の懸念にも留意し、運転手の教育・指導(走行速度等の交通法規の遵守、アイドリングストップの励行、空ぶかしを行わない等)や車両の維持管理を徹底するなどの環境保全措置を適切に実施します。</p> <p>また、主たる走行ルートとなる市道の建設・維持管理部局と連携し、運転手への注意喚起の観点で路面表示なども検討し、影響低減に努めます。</p>

表 14-2(2) 準備書についての知事の意見及び都市計画決定権者の見解

知事の意見	都市計画決定権者の見解
<p>4 水銀に関する水俣条約の趣旨に則り、可能な限り水銀の排出抑制が図られるよう、水銀使用廃製品の回収・廃棄や排ガス処理を適切に行うこと。</p>	<p>水銀に関する水俣条約の趣旨に則り、可能な限り水銀の排出抑制が図られるよう、本施設で処理対象となる廃棄物への混入防止のため、水銀使用廃製品の分別回収の周知徹底を図ります。</p> <p>また、混入してしまった水銀に対しては、排ガス中の公害防止基準を設定し、排ガス中の水銀除去処理を適切に行います。（「第2章 都市計画対象事業の目的及び内容」参照）</p>
<p><b>個別的事項</b></p>	
<p><b>1．動植物</b></p>	
<p>(1) 確認された重要な種のチゴモズについて、繁殖の可能性はおそらくないということであるが、本種は県内における繁殖分布が知られていない種であり、万一事業実施区域が繁殖エリアになっていた場合の影響が懸念されることから、繁殖状況について適切な調査・評価を行い、その結果を評価書に記載すること。</p>	<p>確認された重要な種のチゴモズについては、平成28年～29年に実施した調査において、繁殖についての情報は得られませんでした。平成30年に繁殖状況等に係る追加調査を実施したうえで影響の再評価を行い、その結果を本評価書に記載しました。</p> <p>（「第8章 8.6 動物」参照）</p>
<p>(2) 事業実施区域の周辺河川には第五種共同漁業権が設定されている。事業実施にあたっては、漁業権の対象生物も含め、水生生物への影響を回避・低減するよう保全対策を適切に行うこと。</p>	<p>都市計画対象事業実施区域の周辺河川に生息する水生生物への影響を可能な限り回避・低減するため、仮設沈砂池の設置・浚渫等の濁水対策を適切に実施します。（「第8章 8.6 動物、8.7 植物、8.8 生態系」参照）</p>
<p><b>2．生態系</b></p>	
<p>(1) 生態系の維持にあたっては上位種の餌となる種が生育できる環境を保つ必要があることから、工事に伴う濁水対策等を適切に行い、水生生物等の生育環境の保全に努めること。</p>	<p>生態系の注目種としたホタル類に関しては、平成30年にゲンジボタルの餌生物であるカワニナの分布及び河川環境の概要を追加的に調査し、その結果を本評価書に記載しました。</p> <p>また、工事に伴う濁水対策等については、準備書に示した環境保全措置に加え、追加的な措置（沈砂池内の蛇行構造、砂防堰堤及び既存沈砂池の適宜浚渫）を検討・実施することにより、水生生物等の生息・生育環境の保全に努めます。（「第8章 8.8 生態系」参照）</p>
<p>(2) 生態系保全のためのビオトープの設置等の代償措置については、その効果に不確実性があることから、適切に事後調査を実施し、事後調査の結果を踏まえて、必要に応じて専門家の意見を伺いながら、適切な措置を講じること。</p>	<p>生態系保全のためのビオトープの設置等の代償措置については、その効果に不確実性があることから、適切に事後調査を実施します。</p> <p>（「第10章 10.1 事後調査」参照）</p> <p>また、事後調査の結果を踏まえて、必要に応じて専門家の意見を伺ったうえで、適切な環境保全措置を講じます。</p>

## 第 15 章 環境影響評価準備書の記載事項の 修正内容

## 第15章 環境影響評価準備書の記載事項の修正内容

環境影響評価書の作成にあたり、準備書の記載事項について検討を加えて修正した主な内容は、表 15.1 に示すとおりである。

表 15.1(1) 準備書の記載事項の主な修正内容

評価書の頁	準備書	評価書
目次	—	第14章 準備書についての意見及び都市計画決定権者の見解、第15章 準環境影響評価準備書の記載事項の修正内容を追加
第3章 都市計画対象事業実施区域及びその周囲の概況		
P3-35	—	生物化学的酸素要求量(BOD)に係る測定結果の数値を「75%値」の値に修正するとともに、その注釈を追加。 注1) 年間の75%値を示す。
P3-53	環境省RL:「レッドリスト2017」(環境省、平成29年報道発表資料)	引用文献を更新し、関連する箇所の修正を行った。 環境省 RL:「レッドリスト 2018」(環境省、平成30年報道発表資料)
P3-65	—	表内の以下2種の情報が欠落していたため、追記した。 No.9 スゴモロコ No.10 ドジョウ
第7章 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法		
P7-20	—	沿道環境地点名を以下に統一した。 ・上新宮(古志104号線) ・下新宮(新宮大谷線) ・古志町地内(古志82号線)
P7-30, 31	—	準備書に係る知事意見を踏まえ、「チゴモズ(絶滅危惧種)に係る調査」の調査手法を追加。
P7-34	—	準備書に係る知事意見を踏まえ、「ホテル類補足調査」の調査手法を追加。
第8章 8.1 大気質		
P8.1-44, 48, 51, 56, 60, 62, 65, 67, 68, 71, 112, 116, 117, 119, 124, 128	—	沿道環境地点名を以下に統一した。 ・上新宮(古志104号線) ・下新宮(新宮大谷線) ・古志町地内(古志82号線)

表 15.1(2) 準備書の記載事項の主な修正内容

評価書の頁	準備書	評価書
第8章 8.2 騒音		
P8. 2-2, 3, 4, 5, 7, 8, 9, 22, 24, 26, 27, 28, 29, 31, 48, 50, 52, 53, 54, 55, 57	—	沿道環境地点名を以下に統一した。 ・上新宮（古志 104 号線） ・下新宮（新宮大谷線） ・古志町地内（古志 82 号線）
第8章 8.3 振動		
P8. 3-2, 3, 4, 6, 19, 22, 24, 25, 26, 28, 41, 44, 46, 47, 48, 51	—	沿道環境地点名を以下に統一した。 ・上新宮（古志 104 号線） ・下新宮（新宮大谷線） ・古志町地内（古志 82 号線）
第8章 8.5 水質		
8. 5-27	—	準備書に係る知事意見を踏まえ、濁水対策の追加を検討し、環境保全措置を追加した。  (環境保全措置) 仮設沈砂池内の蛇行構造 砂防堰堤及び既存沈砂池の適宜浚渫
第8章 8.6 動物		
P8. 6-1, 2, 7, 11, 18, 23, 51, 93	—	準備書に係る知事意見を踏まえ、「チゴモズ（絶滅危惧種）に係る調査」を追加実施し、その結果を追加。
P8. 6- 8, 16, 17	St. 1 : <u>新宮川1(調査範囲最下流部)</u>  St. 2 : <u>新宮川2(堰上流の湛水域)</u> St. 3 : <u>新宮川3(樹林地に囲まれた小溪流)</u> <u>合流前(都市計画対象事業の影響のない本流)</u> <u>支流(都市計画対象事業の下流の支流)</u> <u>合流後(本流と支流との合流点下流側)</u> St. 4 : <u>新宮川支川(耕作地・林縁を流れる小溪流)</u>	魚類及び底生動物の調査地点名を「8.5 水質」における調査地点名に合わせるよう修正。  St. 1 : <u>都市計画対象事業の排水河川(新宮川右岸支流)</u> St. 2 : <u>排水河川合流前の新宮川本流</u> St. 3 : <u>排水河川(新宮川右岸支流)と新宮川本流との合流点下流側</u> St. 4' : <u>新宮川(堰上流の湛水域)</u> St. 5 : <u>新宮川左岸支川(耕作地・林縁を流れる小溪流)</u> St. 6 : <u>新宮川(調査範囲最下流部)</u>
P8. 6-33, 75	環境省 RL : 『レッドリスト 2017』(環境省、平成 29 年 : 報道発表資料)  ドジョウ : ④ <u>DD</u>	引用文献を更新し、関連する箇所の修正を行った。  環境省 RL : 『レッドリスト 2018』(環境省、平成 30 年 : 報道発表資料)  ドジョウ : ④ <u>NT</u>

表 15.1(3) 準備書の記載事項の主な修正内容

評価書の頁	準備書	評価書
第8章 8.6 動物		
P8. 6-56	ニホンイシガメ： <u>⑤</u> NT ジムグリ： <u>④</u> NT	『レッドリスト2018』及び『改訂 しまねレッドデータブック2014動物編～島根県の絶滅のおそれのある野生生物～』の 카테고리区分に誤りがあったため訂正した。 ニホンイシガメ： <u>④</u> NT ジムグリ： <u>⑤</u> NT
P8. 6-109, 111, 113	—	準備書に係る知事意見を踏まえ、濁水対策の追加を検討し、環境保全措置を追加した。  (環境保全措置) 仮設沈砂池内の蛇行構造 砂防堰堤及び既存沈砂池の適宜浚渫
第8章 8.7 植物		
P8. 7-11	環境省 RL：『レッドリスト 2017』（環境省、平成 29 年：報道発表資料）	引用文献を更新し、関連する箇所の修正を行った。 環境省 RL：『レッドリスト 2018』（環境省、平成 30 年：報道発表資料）
第8章 8.8生態系		
P8. 8-1, 2, 3, 8, 26	—	準備書に係る知事意見を踏まえ、「ホテル類の餌生物に係る調査」を追加実施し、その結果を追加。
P8. 8-11, 13	—	「表 8.8 12 各類型区分における主な動植物」と「図 8.8 4 調査地域における食物連鎖イメージ図」間に不整合があったため、両者を整合するように修正した。
P8. 8-28, 30, 31	—	準備書に係る知事意見を踏まえ、濁水対策の追加を検討し、環境保全措置を追加した。  (環境保全措置) 仮設沈砂池内の蛇行構造 砂防堰堤及び既存沈砂池の適宜浚渫
第9章 環境保全措置		
P9-9, 12, 15	—	準備書に係る知事意見を踏まえ、濁水対策の追加を検討し、環境保全措置を追加した。  (環境保全措置) 仮設沈砂池内の蛇行構造 砂防堰堤及び既存沈砂池の適宜浚渫

表 15.1(4) 準備書の記載事項の主な修正内容

評価書の頁	準備書	評価書
第11章 環境影響の総合的な評価		
P11-2, 3, 5, 6, 7, 8, 9	—	沿道環境地点名を以下に統一した。 ・上新宮（古志 104 号線） ・下新宮（新宮大谷線） ・古志町地内（古志 82 号線）
P11-11, 12, 14	—	準備書に係る知事意見を踏まえ、濁水対策の追加を検討し、環境保全措置を追加した。  （環境保全措置） 仮設沈砂池内の蛇行構造 砂防堰堤及び既存沈砂池の適宜浚渫
P11-14	—	「調査結果」の欄に、ホテル類に係る調査結果を追記した。
第 12 章 環境影響評価の委託先の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地		
P12-1	環境影響評価の委託先の代表者の氏名 所長 <u>岡本 和也</u>	委託先事務所長が以下の者に交代した。 環境影響評価の委託先の代表者の氏名 所長 <u>川西 慎二</u>
第 14 章 準備書についての意見及び都市計画決定権者の見解		
P14-1～	—	「第 14 章 準備書についての意見及び都市計画決定権者の見解」を追加した。
第 15 章 環境影響評価準備書の記載事項の修正内容		
P15-1～	—	「第 15 章 準環境影響評価準備書の記載事項の修正内容」を追加した。